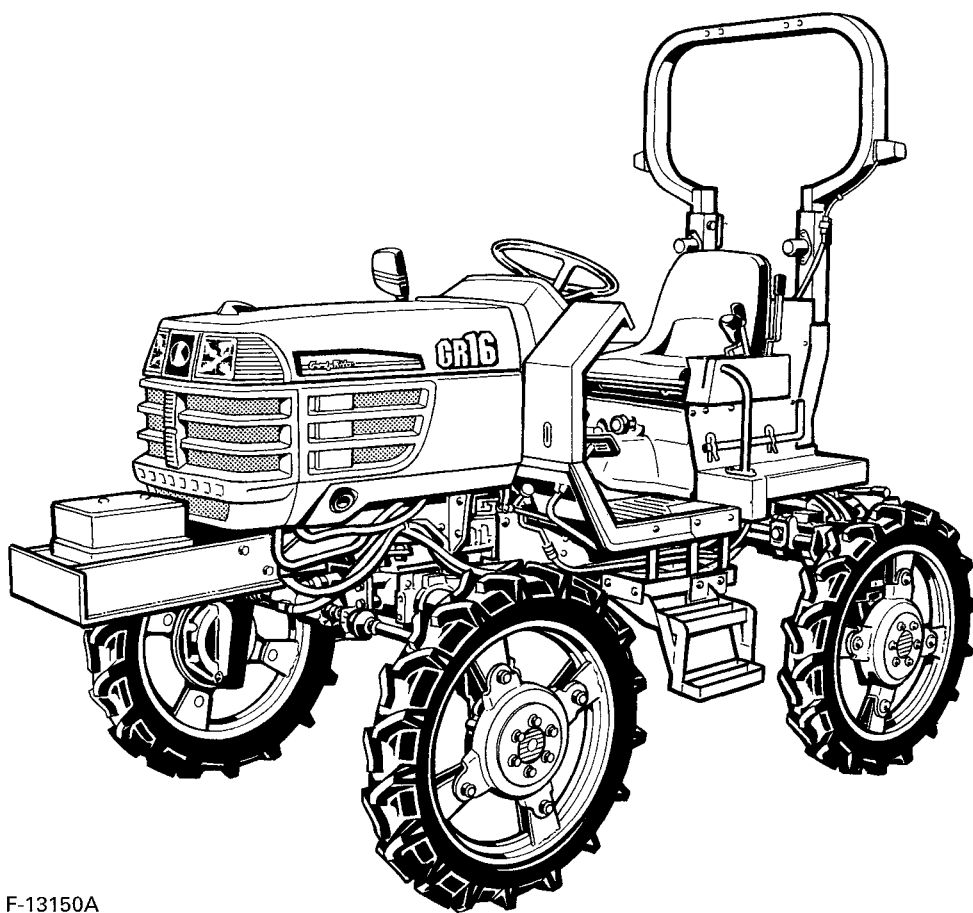
クボタ乗用管理機

取扱説明書

GR16-60 -75

F-13150A

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

 火気厳禁

 燃料（残量）

ディーゼル軽油

 グロー

バッテリ充電異常

 エンジンオイル圧力異常

 水温計

 エンジン回転計

 ホーン

 方向指示器表示

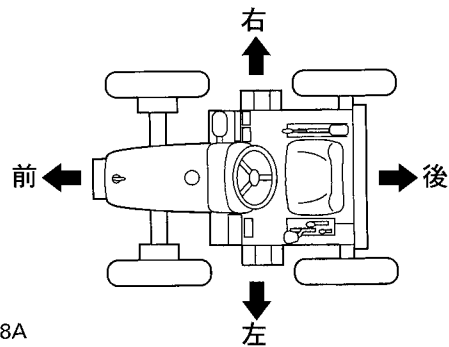
 ヘッドライト

 アクセル高

 アクセル低

 水平制御

 オイルゲージ

● 機体の前後左右について
この取扱説明書の文章、イラストに表示されている「前」「後」「左」「右」とは乗用管理機に乗車した状態での方向を示しています。

は じ め に

このたびは乗用管理機をお買上げいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法，簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいて十分理解され，お買上げの製品が優れた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになった後必ず大切に保存し，分からないことがあったときには取出してお読みください。なお，製品の仕様変更などにより，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠ 安 全 第 一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げいただいた購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

KY210-6251-2

■注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ **危 険**：　注意事項を守らないと，死亡または重傷を負うことになるものを示します。

⚠ **警 告**：　注意事項を守らないと，死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ **注 意**：　注意事項を守らないと，けがを負うおそれのあるものを示します。

重 要：　注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補 足：　その他，使用上役立つ補足説明を示します。

本製品の使用目的について

※本製品は野菜類の中耕・培土・防除などの中間管理作業用として使用してください。
※夜間作業はしないでください。
※使用目的以外の作業や改造はしないでください。
※使用目的以外の作業や改造をした場合は，保証の対象になりません。ご注意ください。

乗用管理機を安全にしかも上手にご使用していただくために，この取扱説明書は次の手順で構成されていますので，基本操作から保守点検まで順番に理解習得してください。

まずは安全確保をしましょう

1．**⚠安全作業をするために：**安全作業をするために必ず守るべき基本的注意事項，警告・注意ラベルの機械への貼付け位置と，守るべき警告・注意事項を解説していますので，熟読のうえ理解し，必ず守ってください。

動かす前に実施しましょう

2．**確認と手続き：**

(1)ご相談の際に必要な製品名称と機械番号の打刻位置を確認しておいてください。

(2)各装置の正しい名称と働きを理解してください。もし不明な点があれば，その名称に記してある参照ページをご覧ください。

動かす前に機械の健康診断をしましょう

3．**運転前の点検：**作業中のトラブル防止のため，作業前の点検内容を理解し必ず実施してください。

最初に乗用管理機の安全運転のための基本操作を体得しましょう

4．**乗用管理機の運転：**

(1)正しいエンジンの始動と停止手順を体得してください。

(2)安全に乗用管理機を前進・後退・停車させる基本操作を体得してください。

(3)デフロックの正しい取扱い方を体得してください。

(4)トラックへの安全な積み・降ろし，ほ場への出入時の注意，および旋回方法等を理解し，必ず守ってください。

乗用管理機の性能を最大に発揮させるため各装置の基本操作を体得しましょう

5．**上手な装置の使いかた：**

(1)油圧，4点リンク，ＰＴＯの正しい取扱いと調整方法を体得してください。

(2)モンローマチックの正しい取扱いと輪距の調整方法を体得してください。

よく働いた機械をいたわりましょう

6．**メンテナンス：**機械を長持ちさせるために，シーズン前後・長期格納時のメンテナンス・定期点検の要領を理解・実施し，来シーズンに備えてください。

目　次

⚠安全に作業するために … ⚠-1

サービスと保証について ……… 1
ご相談窓口 ……… 1
補修用部品の供給年限について ……… 1

乗用管理機について ……… 1

運転に必要な各部の名称 ……… 2

運転前の点検 ……… 4

エンジンの始動と停止 ……… 5
始動のしかた ……… 5
停止のしかた ……… 8
寒冷時の暖機運転 ……… 9
バッテリあがりの処置 ……… 9

乗用管理機の運転 ……… 10
ならし運転（最初の約50時間） ……… 10
運転席回りの調節 ……… 10
シート ……… 10
防護フレームと
シートベルトについて ……… 11
バックミラー ……… 12
灯火類の操作 ……… 12
コンビネーションスイッチ ……… 12
発進・走行 ……… 13
1.ブレーキペダルの確認 ……… 13
2.油圧レバーを“後方に引き”
作業機を上げます。 ……… 13
3.クラッチペダルを踏込みます。 ……… 14
4.作業に応じ必要なレバー類を
操作します。 ……… 14
5.副変速レバーを“作業”又は
“走行”に入れます。 ……… 16
6.エンジンを加速します。 ……… 16
7.駐車ブレーキを解除します。 ……… 17
8.クラッチペダルをゆっくり
離します。 ……… 17
9.主変速（グライドシフト）レバーを
ゆっくり操作し発進します。 ……… 17
停車・駐車 ……… 18
1.アクセルレバーを前方に押して，
エンジン回転をアイドリング状態
にします。 ……… 18
2.クラッチ及びブレーキペダルを
“踏込み”ます。 ……… 18
3.完全に停止してから，主変速，
副変速及びPTO変速レバーを
“中立”（N）にします。 ……… 18
4.作業機を取付けている場合は，油圧
レバーをゆっくり“前方に倒し”作業
機を下げます。（防除機を除く） … 18
5.駐車ブレーキを確実に“ロック”して
ください。 ……… 18
6.キースイッチを“切”にして，
エンジンを停止します。 ……… 18
運転中の作動確認 ……… 19
次の場合には，直ちにエンジンを
止めてください。 ……… 19
イージーチェッカ ……… 19
燃料計 ……… 19
水温計 ……… 19
乗用管理機メータ ……… 20
デフロックの使い方 ……… 20
デフロックペダル ……… 20
旋回のしかた ……… 21
坂道での運転 ……… 22
ほ場への出入り時の注意 ……… 22
走行中の注意 ……… 23
トラックへの積み・降ろし ……… 23
ステアリングの取扱い ……… 24
外部電源取出端子 ……… 24
作業灯用カプラ，
インプルメント用カプラ ……… 24
防除機装着時のカプラ取出 ……… 24

油圧・４点リンク・PTO …… 25
油圧 …… 25
油圧(ポジションコントロール)
レバー …… 25
レバーストッパ(下降側)の使い方 …… 25
レバーストッパ(上昇側)の使い方 …… 25
防除機セット時の固定位置 …… 25
作業機落下速度の調整 …… 26
作業機落下の防止 …… 26
特殊４点リンク …… 27
1.インプルメント取付け前の準備 …… 28
トップリンクの調整 …… 28
2.作業機の着脱 …… 28
特殊４点リンク用作業機の着脱 …… 28
チェックチェーン …… 29
PTO …… 29
PTO変速レバー …… 29
PTO軸カバー …… 29

モンローマチック …… 30
スイッチの名称 …… 30
モンローマチックの使い方 …… 30
水平切換スイッチ …… 30
角度調節ダイヤル …… 31
手動スイッチ …… 32
故障・異常の表示 …… 32

タイヤ …… 33
タイヤ …… 33
タイヤの空気圧 …… 33

輪距 …… 34
輪距 …… 34
輪距調整 …… 34
ラック・タイロッドの調整 …… 35

乗用管理機の簡単な手入れと処置 …… 36
廃棄物の処理について …… 36
洗車時の注意 …… 36
定期点検箇所一覧表 …… 37
給油(水)一覧表 …… 38
推奨オイル・グリース一覧表 …… 38
エンジンオイル・ミッションオイル …… 38
グリース …… 38
ボンネットの開閉及び
サイドカバーの外し方 …… 39
ボンネットの開閉 …… 39
フロントグリル及びサイドカバーの
外し方 …… 39
日常点検 …… 39
1.前日の異常箇所 …… 40
2.乗用管理機の回りを歩いて …… 40
エンジンオイルの量及び汚れ …… 40
ミッションオイルの量及び汚れ …… 40
冷却水の量 …… 41
バキュエータバルブの清掃 …… 41
燃料フィルタの水，沈殿物の点検 …… 41
タイヤの空気圧，及び摩耗，損傷 …… 42
防虫網の清掃 …… 42
3.運転席に座って …… 43
ブレーキペダルの遊び・点検 …… 43
駐車ブレーキの作動点検 …… 43
クラッチペダルの遊び・点検 …… 43
4.エンジンを始動して …… 44
メータ・ランプ類の作動 …… 44
5.燃料の補給 …… 44
50時間ごとの点検・整備 …… 45
グリースの注入 …… 45
エンジン始動システムの点検 …… 46
操舵切換センサ用ワイヤの点検 …… 46
中点設定のしかた …… 47
クラッチハウジングの水抜き …… 47
パワーステアリングホースの点検 …… 47
タイヤ取付けボルトの点検 …… 48
ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの
点検・交換 …… 48
燃料パイプの点検 …… 48
操向用油圧シリンダの点検 …… 49
油圧ミッションホースの点検 …… 49
100時間ごとの点検・整備 …… 49
エンジンオイルの交換 …… 49
バッテリ電解液の点検 …… 50
エアクリーナエレメントの清掃 …… 51
ファンベルトの点検・調整 …… 52
クラッチペダルの点検・調整 …… 52
ブレーキペダルの点検・調整 …… 53

200時間ごとの点検・整備 …… 53
エンジンオイルフィルタカートリッジの交換 …… 53
油圧オイルフィルタカートリッジの交換 …… 54
油圧ミッションオイルフィルタカートリッジの交換 …… 54
トーイン調整・タイロッドの点検 …… 54
ラジエータホースの点検 …… 55
300時間ごとの点検・整備 …… 55
ミッションオイルの交換 …… 55
フロントギヤーケースオイルの交換 … 56
前車軸ケースオイルの交換 …… 56
400時間ごとの点検・整備 …… 57
燃料フィルタエレメントの清掃交換 … 57
600時間ごとの点検・整備 …… 57
前部デフケース前後遊びの調整 …… 57
800時間ごとの点検・整備 …… 57
エンジンバルブクリアランスの点検 … 57
１年ごとの点検・整備 …… 57
エアクリーナエレメントの交換 …… 57
２年ごとの点検・整備 …… 58
冷却水の交換 …… 58
ラジエータの洗浄 …… 59
ラジエータホースの交換 …… 59
燃料パイプの交換 …… 59
パワーステアリングホースの交換 …… 59
モンローシリンダホースの交換 …… 59
油圧ミッションホースの交換 …… 59
必要に応じた点検・整備 …… 59
燃料の空気抜きのしかた …… 59
ヒューズの交換 …… 60
スローブローヒューズの交換 …… 60
ランプ類の交換 …… 60
格納 …… 61
長期格納時の手入れ …… 61
不調と処置 …… 62
エンジンの不調と処置 …… 62
付表 …… 63
主要諸元 …… 63
乗用管理機の主要諸元 …… 63
走行速度表 …… 64
PTO回転速度表 …… 64
標準付属品 …… 64
主な消耗部品一覧表 …… 65
インプルメント一覧表 …… 66
作業ごとの一般的な調整要領 …… 67

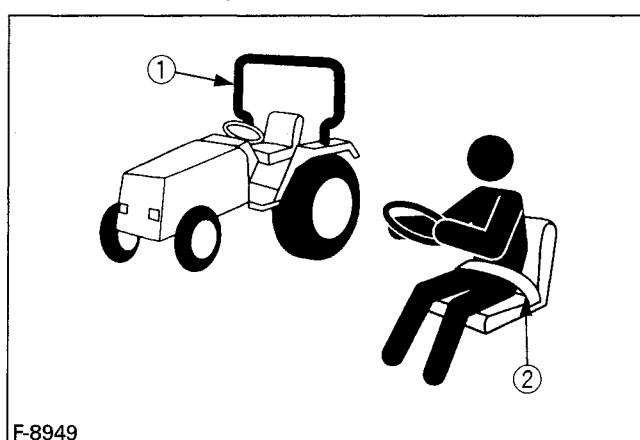
▲ 安全に作業するために

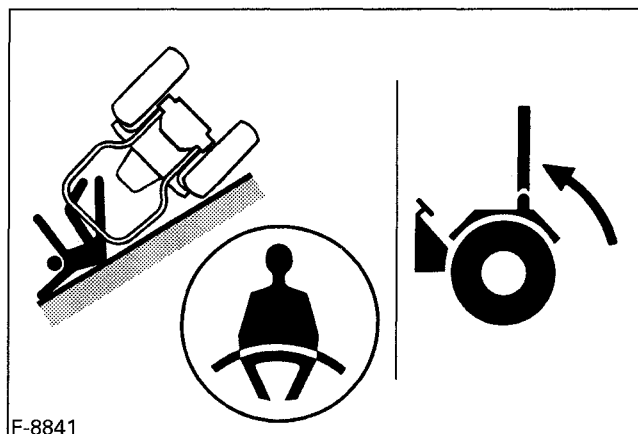
必ず読んでください。

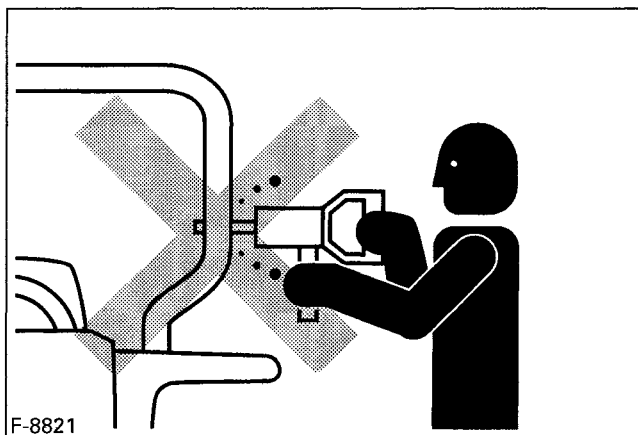
本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業していただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で▲危険・▲警告・▲注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

1．防護フレームについて

防護フレームは，万一乗用管理機が転倒したとき事故の被害を軽減するものであって，転倒事故を防止するものではありません。
注意事項を守って，安全運転を心がけてください。

F-8949

①防護フレーム
②シートベルト

(1)運転時は防護フレームとシートベルトを常に使用するようにしてください。
(2)防護フレームを取外して運転しないでください。
(3)納屋の出入り等，防護フレームが当たる場合を除き，運転時はいつも防護フレームを立て，確実にロックして使ってください。
防護フレームを折りたたんだ状態では，万一乗用管理機が転倒したとき，防護フレームの役目をしません。
(4)防護フレームを立てたときは，運転時シートベルトを常に使用してください。折りたたんだ状態では，シートベルトを使用しないでください。
(5)防護フレームを折りたたんだり，立てたりするときは，平坦な場所で，必ず作業機を地面に降ろし，エンジンを停止し，駐車ブレーキをかけてから行なってください。

F-8841

(6)防護フレームを改造しないでください。又，強度に影響する破損，曲がりなどが発生した場合，交換してください。

F-8821

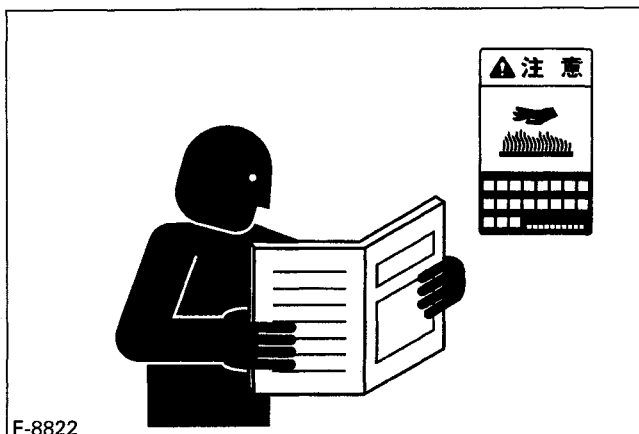
安全に作業するために

2．運転前に

(1)乗用管理機を動かす前に，乗用管理機及び装着している作業機の取扱説明書と機械に貼ってある▲表示ラベルをよく読み，理解した上で運転してください。

(2)乗用管理機，作業機を他人に貸すとき，又，運転させるときは，事前に運転のしかたを教え，本書を読ませてください。

(3)本書及びラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。

F-8822

(4)飲酒時や体調が悪いとき，病気や妊娠しているときは，乗用管理機を運転しないでください。

(5)ダブダブの衣服やかさばった衣服を着用しないでください。
回転部分や操縦装置にひっかかり事故の原因になります。
安全のため，ヘルメット，安全靴，保護めがねや手袋などを必要に応じ使ってください。

F-8863

(6)乗用管理機を改造しないでください。改造すると，乗用管理機の機能に影響を及ぼすばかりか人身事故にもつながります。

(7)安全カバー類を外した状態で乗用管理機，作業機を使用しないでください。
紛失したり損傷した部品は交換してください。
ブレーキ，クラッチ，ステアリングや安全装置などの日常点検を行ない摩耗や損傷している部品があれば，交換してください。
又，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。(詳細は**“乗用管理機の簡単な手入れと処置”**の章参照)

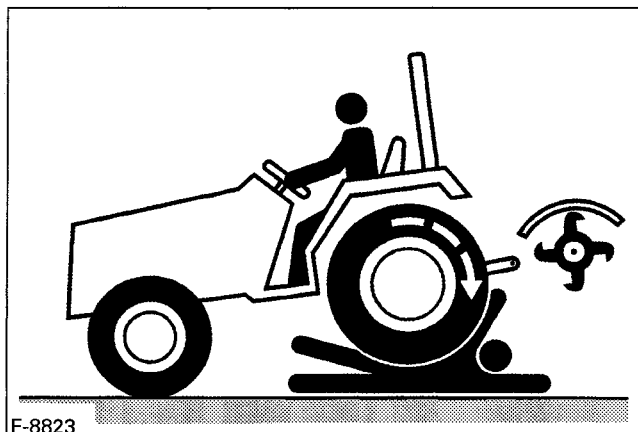
(8)乗用管理機は常に清掃しておいてください。
バッテリ，配線，マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると火災の原因になります。

3．始動時に

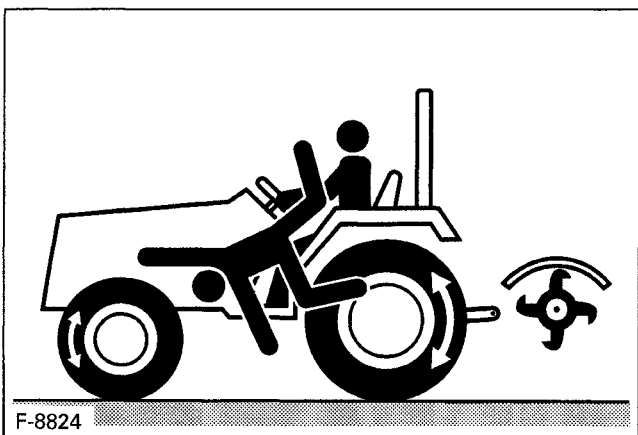
(1)エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，副変速やＰＴＯ変速レバー・主変速(グライドシフト)レバーが**“中立”**かどうか，又，駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。

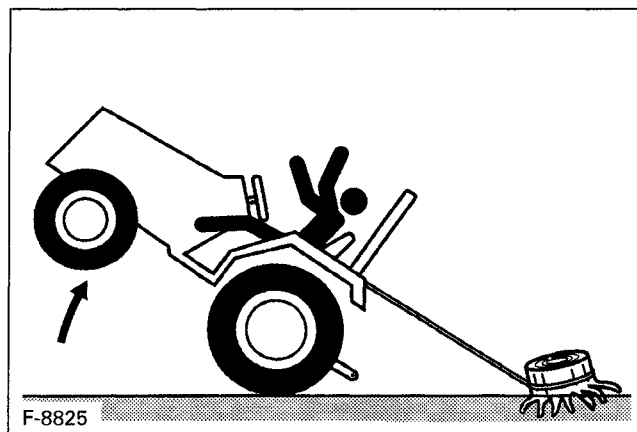
(2)地上に立ってエンジンを始動したり，スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。
乗用管理機が突然動き出すおそれがあります。

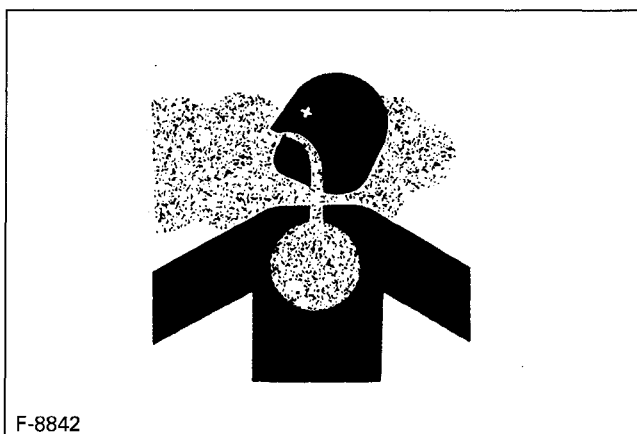
F-8861

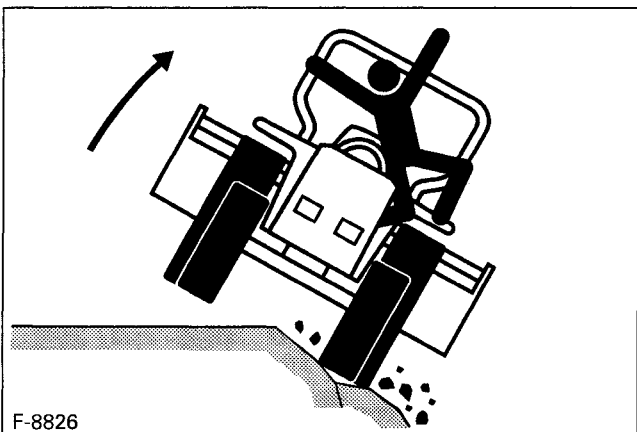
(3)乗用管理機を始動，運転するときは前後左右をよく確認し，付近に人(特に子供)を近づけないでください。もし変速ギヤーが入っていると車体が動いたりロータリが回転したりして事故になるおそれがあります。防護フレームに当たる障害物がないかも確認してください。

F-8823

4．運転時に

(1)子供はもちろん運転者以外の人を乗せて乗用管理機を運転しないでください。
必ずシートに座って運転してください。

F-8824

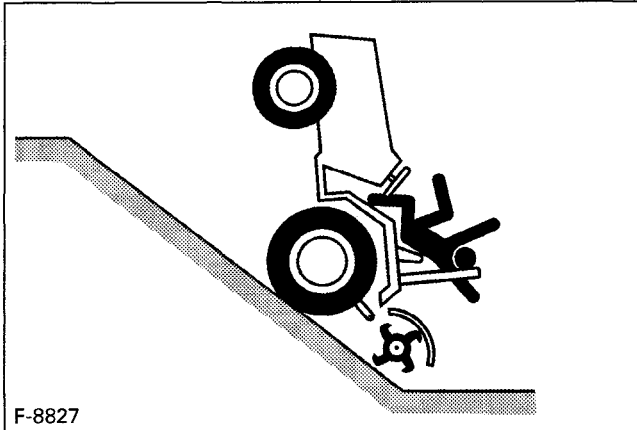
(2)けん引作業は，しないでください。

F-8825

(3)換気が不十分な所では，暖機運転や作業をしないでください。
排気ガスにより一酸化炭素中毒になるおそれがあります。
薬剤散布時は必ず防護マスクなどの保護具を着用してください。

F-8842

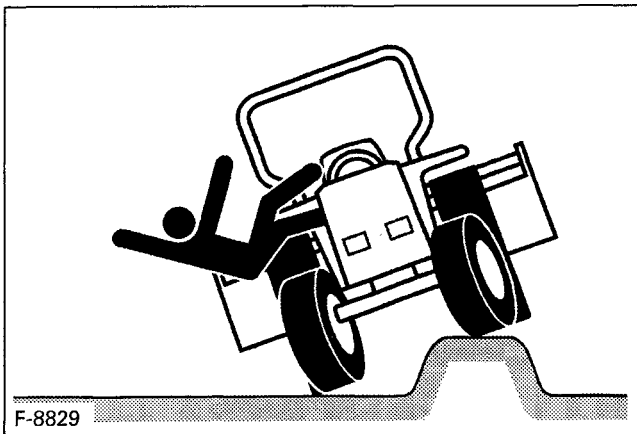
(4)溝や穴の近く，路肩など乗用管理機の重みでくずれやすい所では運転しないでください。
また，草の繁ったところや水たまりなどには，隠れて見えない窪地がある場合があり，乗用管理機が落ち込むと転倒することがあります。必ず乗用管理機から降りて確認してください。

F-8826

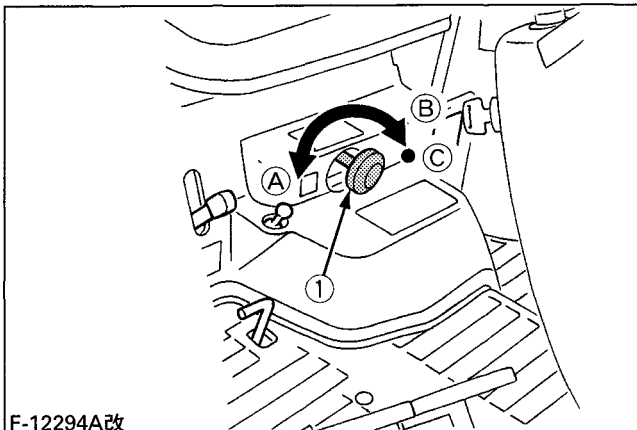
安全に作業するために

(5)溝やぬかるんだ所から前進で脱出したり，急な坂を前進で登ると乗用管理機が後方に転覆する危険があります。このような所では，バックで運転してください。

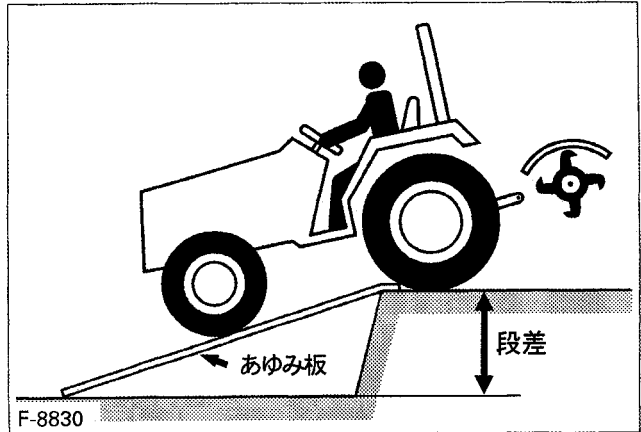
F-8827

(6)共同で作業をするときは，声をかけあって，お互いにしようとしていることを知らせてください。

(7)ほ場の出入りなどで，急傾斜の上り降りや溝越えは，低速にして直角に進行してください。その際，必ず左右のブレーキペダルを連結し，デフロックの解除を確認してください。

F-8829

(8)ほ場外では，油圧ロックをして作業機の落下を防止してください。

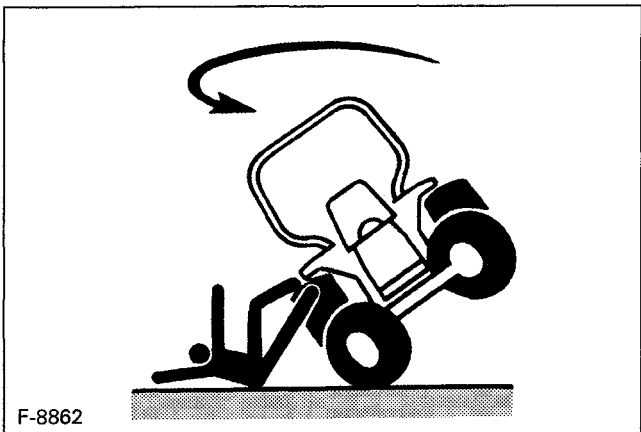
F-12294A改

①落下速度調整グリップ　Ⓐ"速い"
Ⓑ"遅い"
Ⓒ"停止"

(9)ほ場の出入りなどで，高低差が大きい急傾斜の登り降りや，溝越えが必要な場合は，あゆみ板を使用し，確実に固定してから低速で行なってください。

F-8830

あゆみ板は段差の４倍以上ある長さのものを使用してください。

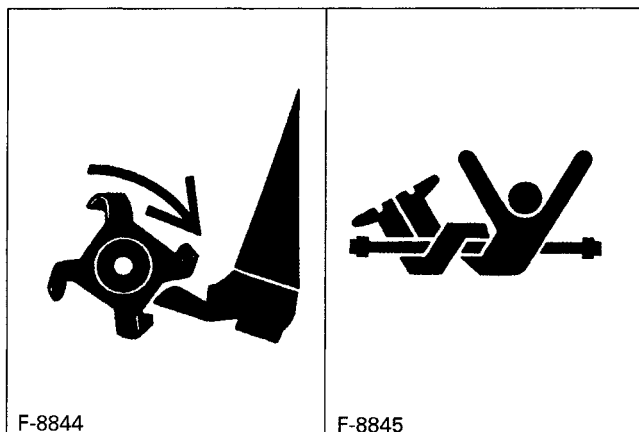
(10)急な坂道・車両への積込み積降ろし・ほ場への出入り・畦の乗越えなどでは途中で変速すると危険ですので，あらかじめ安全な遅い変速位置に入れて運転してください。

防除作業時は転倒のおそれがあるため急な傾斜地では使用しないでください。旋回操作は水平な所で行なってください。

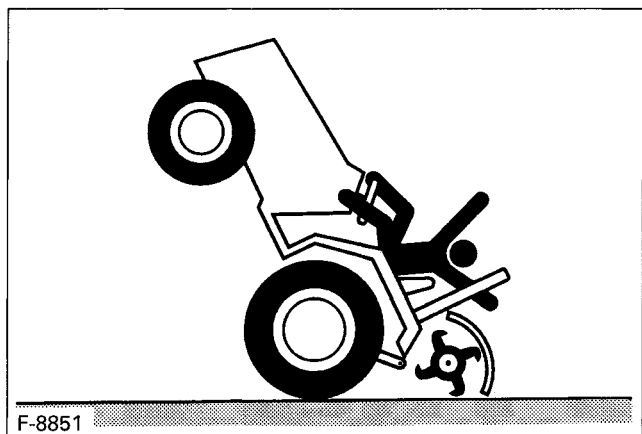
F-8862

5．作業機使用時に

(1)作業機の着脱は，平坦で安全な場所で行なってください。

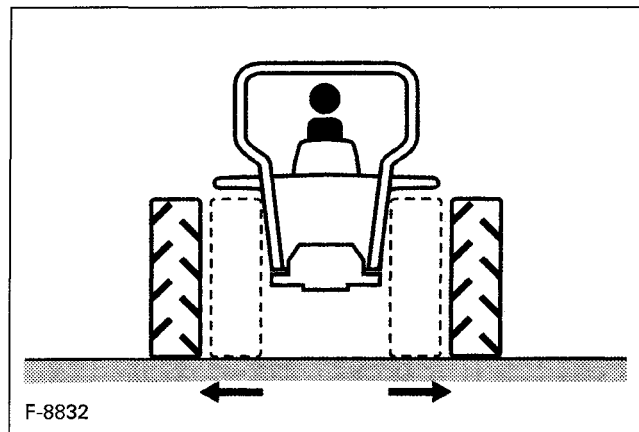
(2)乗用管理機から降りるときや，ロータリ・防除機などＰＴＯ作業機の装着・取外し・調整・掃除又は修理をするときは，作業機が完全に止まるまで待ってください。

F-8844　F-8845

(3)ＰＴＯ作業機は，その作業機で定められたＰＴＯ回転以上で使用しないでください。
機械の破損や人身事故のおそれがあります。

(4)作業機の種類に応じ乗用管理機前部に適正なウエイトを取付けてください。

F-8851

(5)作業機は乗用管理機に推奨されているものを使用してください。
大きすぎたり，小さすぎたりしてバランスの悪い作業機は機械の破損や人身事故にもつながります。
詳細は購入先にご相談ください。

(6)傾斜地作業，防除作業では，安定を良くするために，支障のない範囲で輪距(タイヤ中心間の距離)を広くしてください。

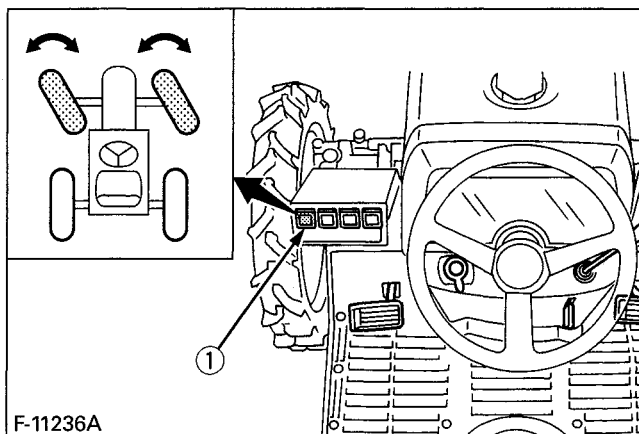
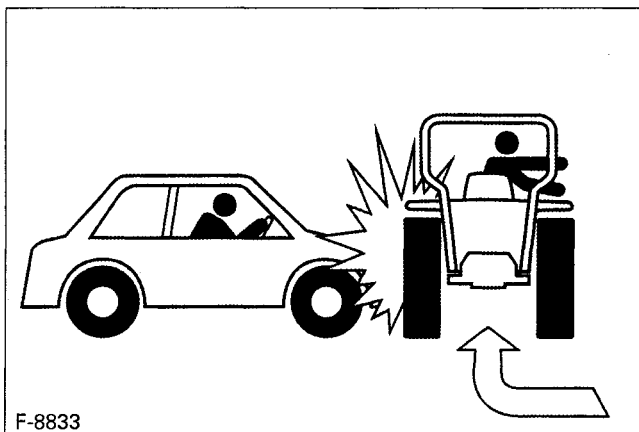
F-8832

(7)防除機装着時は傾斜地での旋回や等高線作業はしないでください。転倒のおそれがあります。

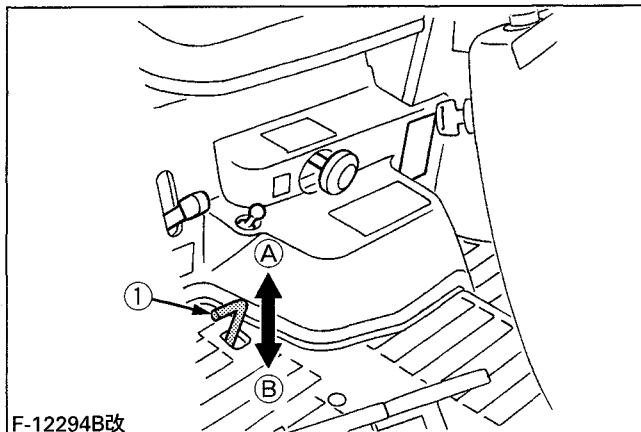
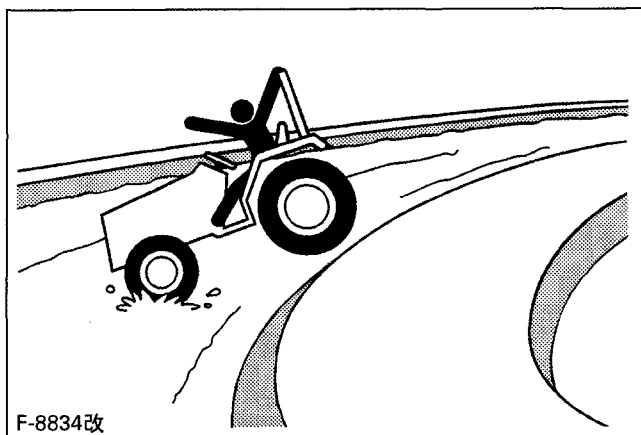
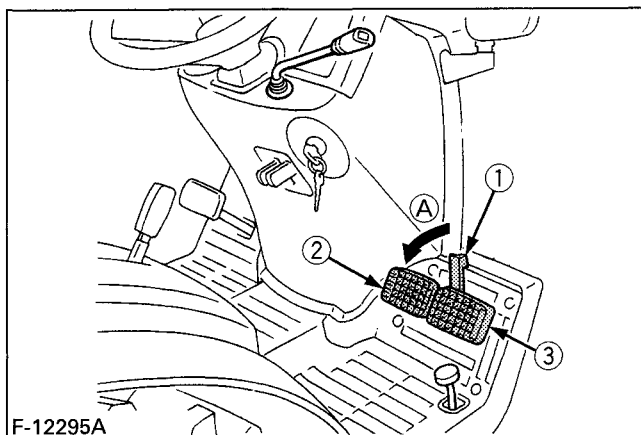
6．走行時に

(1)走行はFWS以外は使用しないでください。4WS，RWS，クラブを高速で使用すると，思わぬ蛇行や転倒のおそれがあります。

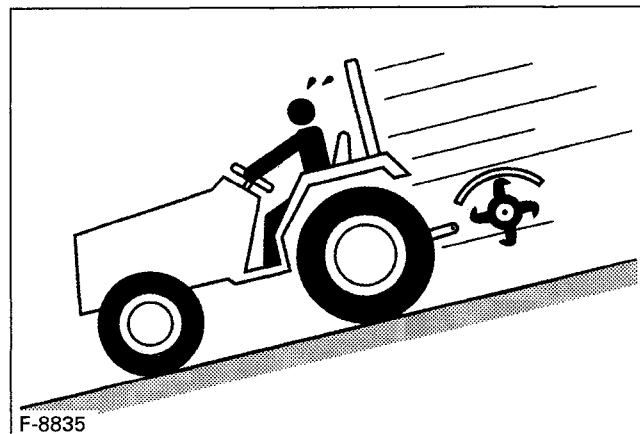
F-11236A

①FWSスイッチ

F-8833

安全に作業するために

(2)走行時は絶対にデフロックを使用しないでください。
ハンドル操作が出来なくなります。

①デフロックペダル　Ⓐ"離す"(解除)
Ⓑ"踏む"(ロック)

(3)左右のブレーキペダルを常に連結してください。(連結ボルトは解除しないでください。)
高速走行で誤って片ブレーキをかけると乗用管理機が振られ転倒や転落のおそれがあります。

①連結金具
②ブレーキペダル(左)
③ブレーキペダル(右)
Ⓐ必ずかける
(連結ボルトを解除しない)

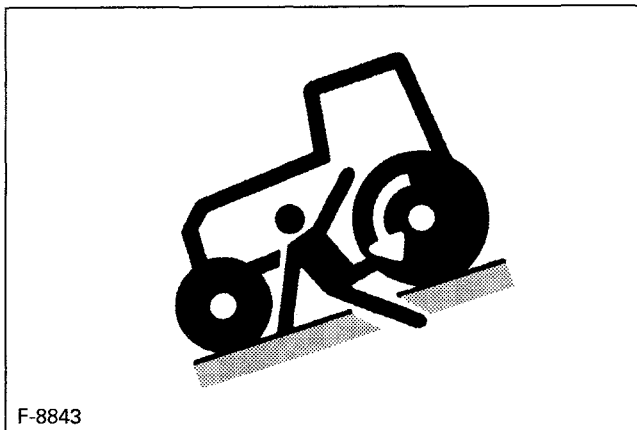
(4)旋回する前には乗用管理機の速度を落としてください。
高速で旋回すると乗用管理機が転倒するおそれがあります。

(5)坂を降りるとき，クラッチを切ったり，変速を中立にして惰性で走行しないでください。操縦ができなくなるおそれがあります。

(6)乗用管理機は公道を走行できません。

(7)トラックで運搬するときは必ず乗用管理機の駐車ブレーキをかけロープなどで荷台に固定してください。防除機のタンクは完全に空にしてください。
運搬中は不必要な急発進，急ブレーキ，急ハンドルなどはさけてください。機械が移動して危険です。
ブームは必ず外して走行してください。
電線や高架に当たり事故になるおそれがあります。

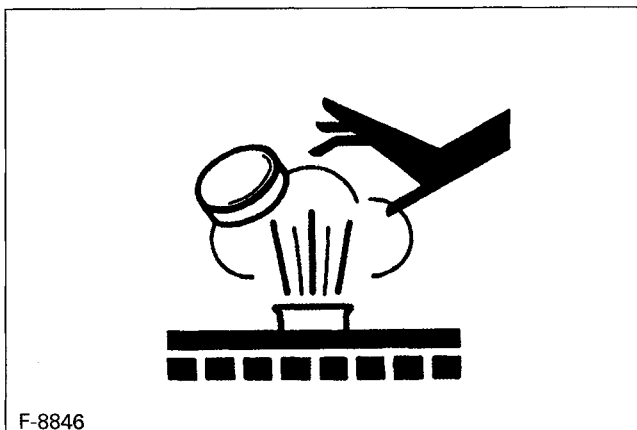
7．駐車，格納時に

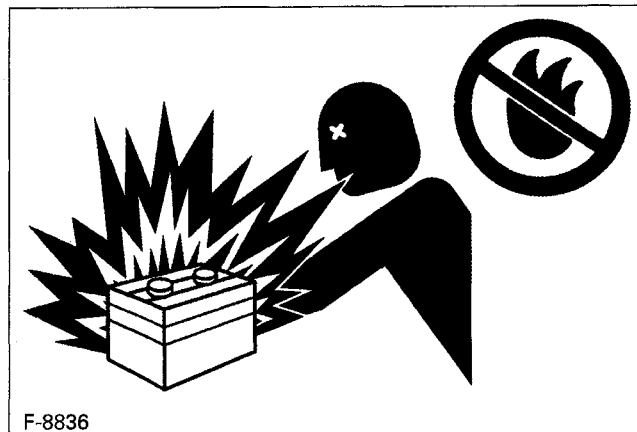
(1)駐車するときは，平坦で乗用管理機が安定する場所を選び，ＰＴＯを**"切"**，作業機を**"下げ"**，変速レバーを**"中立"**にし，駐車ブレーキを**"掛け"**，エンジンを**"停止"**してキーを抜いてください。
やむをえず坂道で駐車する場合は，タイヤに車止めをしてください。

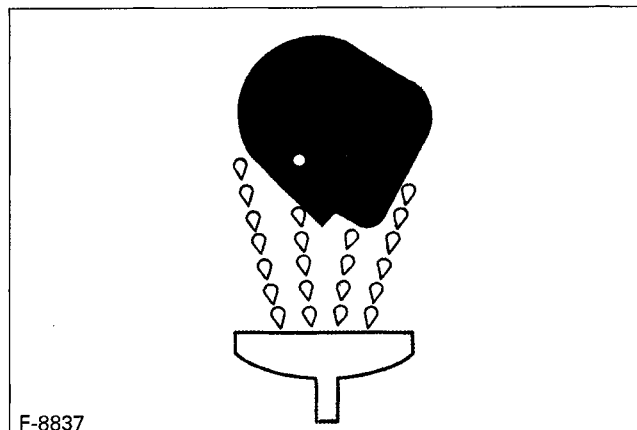
F-8843

(2)乾いた草やワラなど可燃物のある場所には，駐車しないでください。
(3)格納などで乗用管理機にシートをかける場合は，マフラやエンジンが充分冷えてから行ってください。

8．点検・給油・整備時に

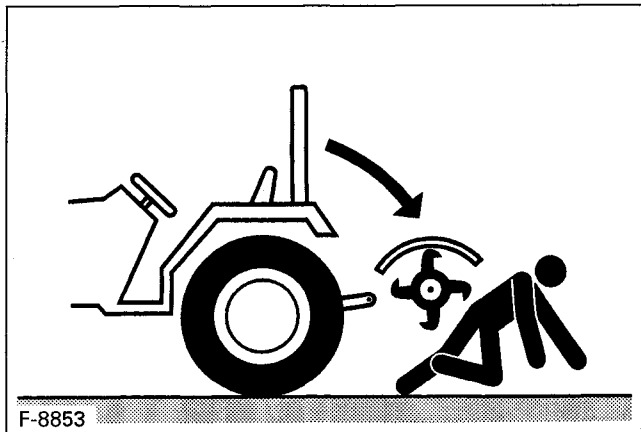
(1)平たんな場所に駐車し，作業機を**"下げ"**，駐車ブレーキを**"掛け"**，変速レバーを**"中立"**にし，そしてエンジンを停止してください。
(2)エンジン・マフラ・ラジエータなどが充分冷えてから点検整備してください。ヤケドのおそれがあります。

F-8846

(3)燃料を補給するときやバッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり，火を近づけないでください。
バッテリは充電中可燃性ガスが発生し，引火爆発の危険性があります。

F-8836

(4)放電したバッテリにブースタケーブルなどを接続して始動するときは，取扱方法をよく読みそれに従ってください。
(エンジンの始動と停止の章**"バッテリあがりの処置"**を参照)
(5)バッテリは液面がLOWER(最低液面線)以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
すぐにUPPER LEVEL(上限)とLOWER LEVEL(下限)の間に補水してください。(補水可能なバッテリ)
(6)バッテリをはずすときは，短絡事故を防ぐため，最初にバッテリのマイナスコードを外し，接続するときは最後に接続してください。
(7)バッテリ液は希硫酸です。扱いには注意し，体や衣服に付けないようにしてください。もし目や体に付着した場合はすぐ水で洗って，すみやかに医師の診療を受けてください。

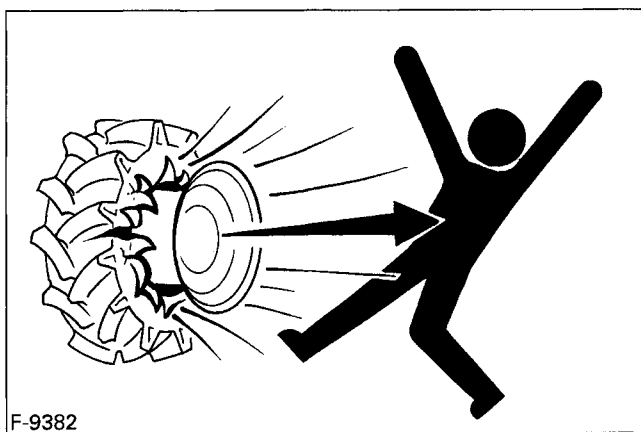
F-8837

安全に作業するために

(8)後部側作業機を上げた状態で点検整備を行う場合，シート下部にある油圧ロックを締めて落下防止を行なってください。

F-8853

(9)タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引き起こす原因になります。

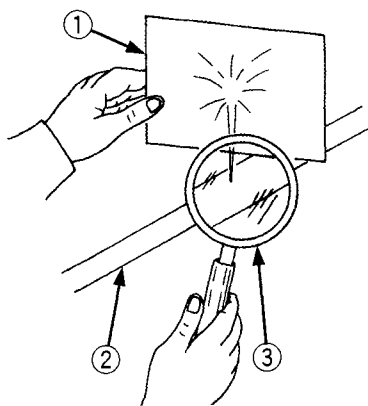
(10)タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。
タイヤ破裂のおそれがあります。

(11)タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。
（特別教育を受けた人が行うように，法で決められています。）

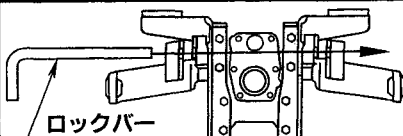
F-9382

(12)圧力がかかり噴出した油は，皮膚に浸透する程の力があり，傷害の原因になります。油圧部品を外すときは，必ず残圧を抜いてください。

(13)見えない小さな穴からの油漏れを探すときは，保護めがねをかけ，ボール紙などを利用してください。
万一，油が皮膚に浸透したときは，強度のアレルギーを起こすおそれがあるので，すぐ医師の診療を受けてください。

F-8847

F-2359

①ボール紙
②高圧ホース
③虫めがね

(14)廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
＊機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
＊地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
＊廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者等に相談して，所定の規則に従って処理してください。

1BJABAAAP018B

9. ▲表示ラベルと貼付け位置

① 品番　KY110-4779-1

▲警告

転倒による死傷事故を防ぐため急な坂道、傾斜地、積込み積降ろし、圃場の出入り、畦の乗り越え等では次のことを守ること
- ◆遅い速度で運転すること。
- ◆途中で変速しないこと。
- ◆登りは後進、下りは前進で運転すること。

前輪が浮き上がるような所や等高線では作業しないこと。

②品番　KY110-4775-1

▲ 注　意

防除機を装着する時は傷害事故防止のため取扱説明書を読んで正しい取扱いをすること。必ず水平な場所で着脱すること。

防除タンク装着時
- ◆ロアリンクにロックバーを装着する。
- ◆水平切換スイッチを手動の位置にする。
- ◆油圧レバーを固定する。
- ◆落下速度調整レバーをロックする。

防除作業時
- ◆急な傾斜地では転倒の恐れがあるため使用しないこと。
- ◆旋回操作は水平なところで行なうこと。
- ◆薬剤散布時は、必ず防護マスクなどの保護具を着用すること。

③ 品番　3F740-9828-2

▲ 注　意

- ●火気厳禁
- ●ディーゼル軽油を使用のこと。

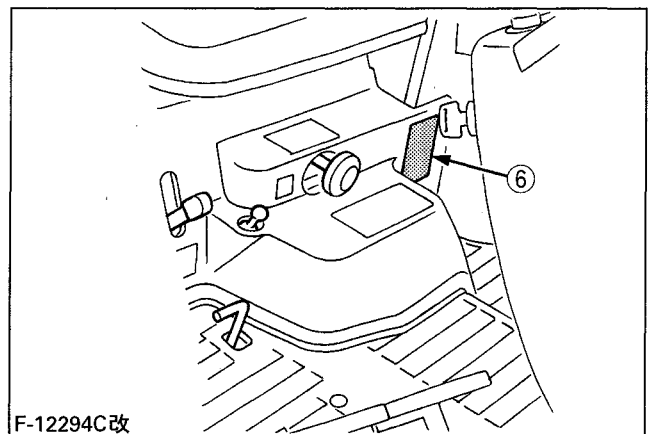
④ 品番　KY110-4777-1

▲警告

- ●車体が突然動きだす恐れがあるため
- ●地上に立って、エンジンを始動しないこと
- ●安全スイッチ回路を直結しないこと
- ●スタータを直結してエンジンを始動しないこと

⑤ 品番　KY110-4763-1

▲警告

衝突や転落による死傷事故を防ぐために
- ●運転前に操舵方式（4WS･FWS･RWS･クラブ）の切換状態をよく確認すること。
- ●圃場作業以外での走行はFWS（前輪操舵）で運転すること。
- ●旋回は速度を遅くして行なうこと。

⑥品番　KY210-4773-1

▲警告

駐車後に車体が動く恐れがあるため必ず駐車ブレーキをかけること。
本機は変速ギヤを入れていてもエンジンをとめるとエンジンブレーキはききません。

▲注意

急発進による事故を防ぐために主変速レバーの急激な変速はしないこと。
前進と後進はN位置で一旦停止して切り替えること。

安全に作業するために

① 品番　KY210-4776-1

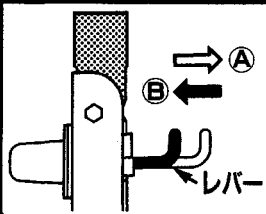
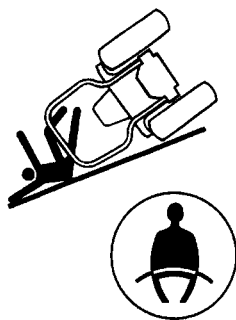
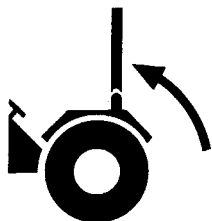
▲注 意

防護フレームを折りたたんだり、立てたりする時は、下記の手順を守ること。

1. エンジンを止める
2. 作業機をおろす
3. 駐車ブレーキをかける

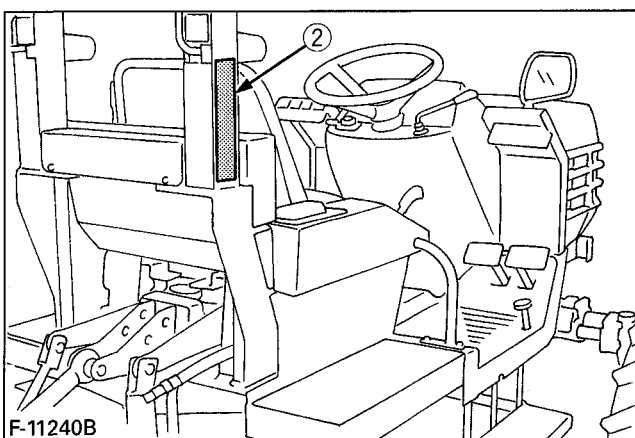
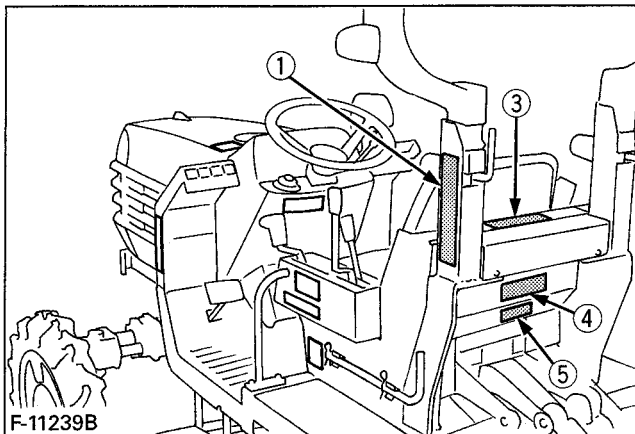
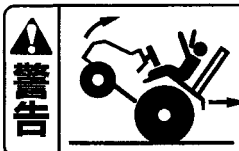
レバーの操作方法

- 防護フレームを折りたたむ時はレバーを Ⓐ の方向に引いて止めて下さい。
- フレームをレバーが Ⓑ の位置に戻るまで後方に倒して下さい。
- 立てる時はフレームを元の位置に立てて下さい。レバーが Ⓑ の位置に戻っていることを良く確認して御使用ください。詳しくは取扱説明書をよくお読み下さい。

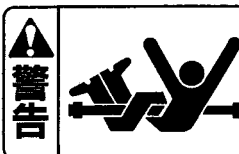
② 品番　KY210-4778-1

▲警 告

転倒、転落による死傷事故を防ぐため

- 納屋の出入りなど防護フレームが当たる場合を除き運転時は防護フレームを立て確実にロックして使用すること。
- 防護フレームを立てたとき必ずシートベルトを着用すること。
- 防護フレームを折った状態ではシートベルトを着用しないこと。

③ 品番　KY110-4771-1

▲警告

転倒による死傷事故の恐れがあるので、けん引は行なわないこと。

④ 品番　KY110-4772-1

▲警告

巻きこまれによる死傷事故をふせぐためユニバーサルジョイントの回転中は近づかないこと。

⑤ 品番　6A100-4772-1

▲注 意

- PTO軸カバーを取りはずさないこと。
- PTO軸カバーの上に乗らないこと。

必ず読んでください。

① 品番　KY210-4762-2

▲ 警　告

転倒や衝突による死傷事故をふせぐために、必ず左右のブレーキペダルを連結すること。
【固定ボルトは、外さないこと】

F-11240A

F-12298A

② 品番　37587-4931-1

▲ 注意

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください

始動時
- シートにすわり、ＰＴＯ及び各変速レバーを中立にすること
- 前後左右に人がいないことを確認すること

運転時
- 運転者以外に人を乗せないこと
- 排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあるので換気の不十分な所で使用しないこと
- 溝や穴のちかく、路肩など重みでくずれやすい所では運転しないこと
- 急な坂道、積込み積降ろし、圃場の出入り畦の乗越え等では遅い車速で運転し、途中で変速しないこと

運転時
- 走行時はデフロックを使用しないこと
- 公道を移動する場合はトラックに積んで運搬すること（詳細は取扱説明書を参照）

駐車時
- ＰＴＯ及び各変速レバーを中立にし、作業機を地面に降ろし、駐車ブレーキを掛けエンジンをとめること

点検、整備時
- エンジンをとめ、機械の各部が停止してから行うこと
- ３点リンク作業機持ち上げ時は油圧ロックをすること

③ 品番　6A320-5559-1

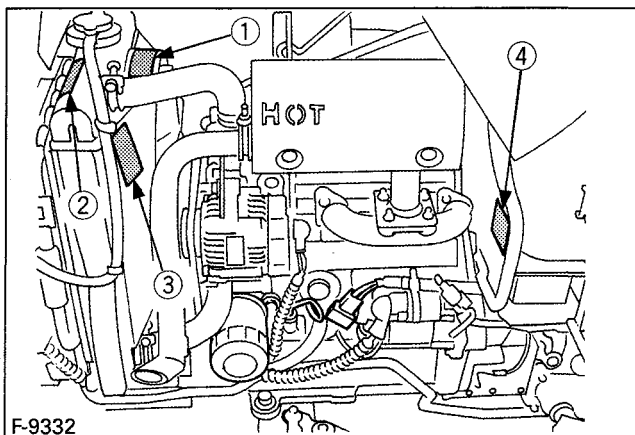
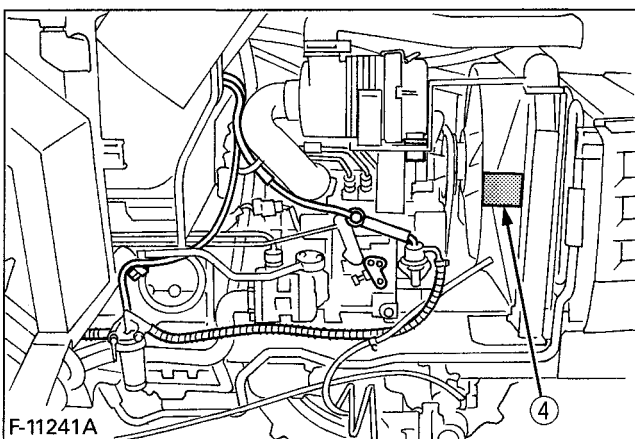
A548

公称電圧12V

●水素ガス発生，取扱いを誤ると引火爆発の恐れあり
•工具等でショートやスパークをさせない •充電は風通しのよい所で行う
•ブースターケーブルの使用は取扱説明書に従う
●バッテリ液（硫酸）で失明ややけどの恐れあり
液がついたらすぐに多量の水で洗い，目の場合は医師の治療を受ける
●爆発の恐れあり，液面はLOWER以下で使用しない
●液漏れの恐れあり，UPPER以上に補水しない

▲ 安全に作業するために

必ず読んでください。

① 品番　T0180-4957-1 ② 品番　67980-4737-1

③ 品番　T0180-4958-1 ④ 品番　T0180-4955-1

10. ▲表示ラベルの手入れ

(1)ラベルはいつもきれいにして傷付けないようにしてください。
もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。
(2)高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。
(3)破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。
(4)新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全に拭取り，乾いた後，元の位置に貼ってください。
(5)ラベルが貼付されている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証について

この製品には，保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

■ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた購入先にそれぞれ**"ご相談窓口"**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際銘板に記載している
1. 農機型式名と車台番号
2. 機関型式とエンジン番号

を併せてご連絡ください。
なお，部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

警　告

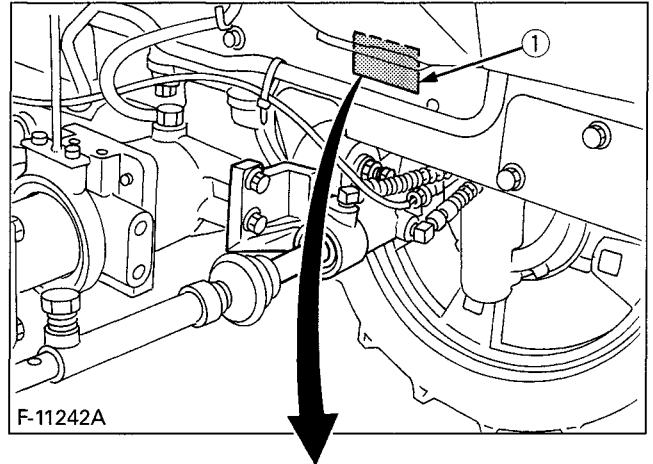
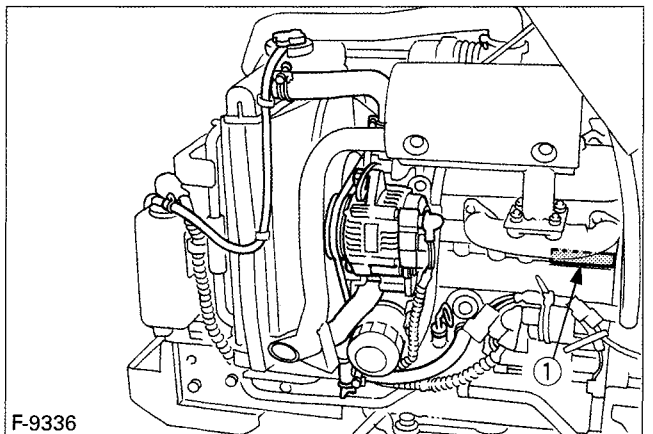
＊機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。

重　要

＊エンジンで封印されている所はさわらないでください。（封印が外されたと認められる場合は，一切の保証は致しません。）

機種名	型式名	安全鑑定番号
乗用管理機	クボタGR16-2	26171

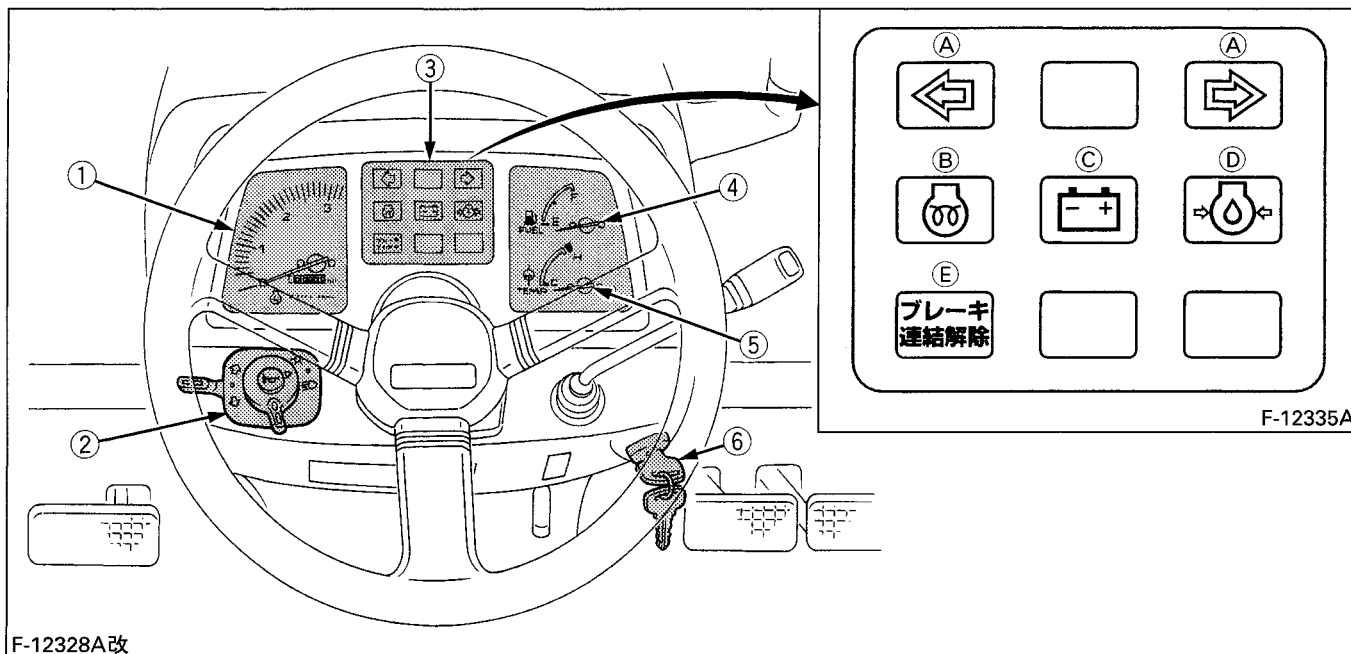
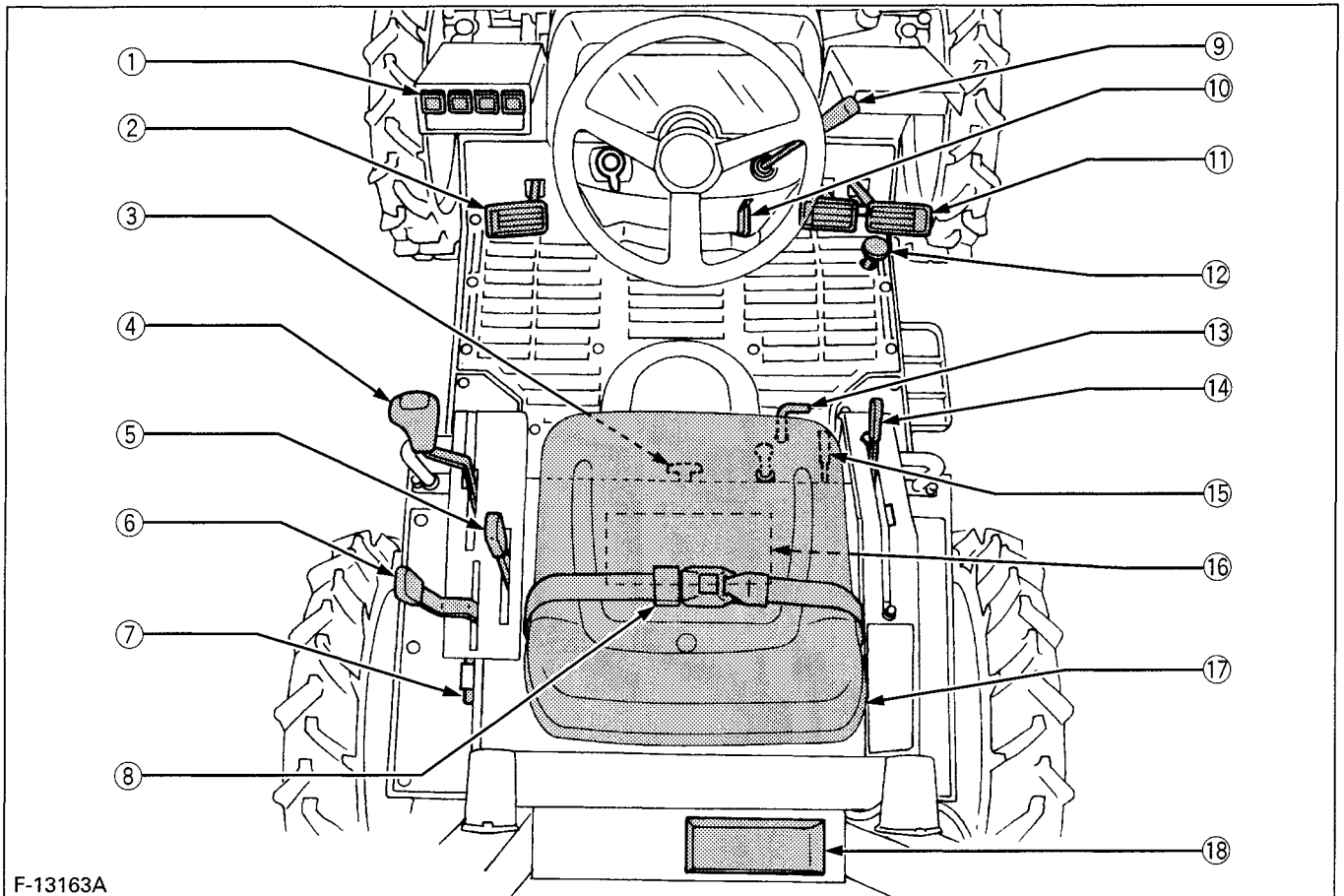
■補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打ち切り後９年といたします。ただし，供給年限内であっても特殊部品につきましては，納期等についてご相談させていただく場合もあります。補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了致しますが，供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

①銘板

①エンジン番号

乗用管理機について

この乗用管理機は道路運送車両法の小型特殊自動車に該当しません。乗用管理機で公道を走行すると道路運送車両法に違反します。公道を移動するときはトラックに積んで運搬してください。

運転に必要な各部の名称

各装置の正しい名称と働きを理解してください。もし不明な点があれば，その名称に記してある参照ページをご覧ください。

参照ページ
①乗用管理機メータ ……………………………… 20
②コンビネーションスイッチ ………………… 12
　ライティングスイッチ ………………… 12
　ウインカスイッチ ……………………… 12
　ホーンボタン …………………………… 12
③イージーチェッカ ……………………… 6, 8, 19
　Ⓐウインカパイロットランプ ………………… 12
　Ⓑグローランプ ……………………………… 7
　Ⓒバッテリチャージランプ ……………… 6, 19
　（バッテリ充電警告灯）
　Ⓓエンジンオイルランプ ……………… 6, 19
　（エンジン油圧警告灯）
　Ⓔブレーキ連結解除ランプ …………………… 13
④燃料計 ………………………………………… 19
⑤水温計 ………………………………………… 19
⑥キースイッチ ………………………………… 6, 8

参照ページ

①操舵切換スイッチ ……………………… 14, 21
②クラッチペダル ………………… 7, 8, 14, 17
③落下速度調整グリップ ………………………… 26
④主変速(グライドシフト)レバー ………… 6, 17
⑤副変速レバー ……………………………… 6, 16
⑥PTO変速レバー ………………………… 6, 29
⑦ロックバー ………………………………25, 26
⑧シートベルト ………………………………… 11
⑨アクセルレバー …………………… 7, 8, 16
⑩駐車ブレーキレバー ……………… 5, 17, 18
⑪ブレーキペダル ……………………… 13, 17
⑫アクセルペダル ………………………………… 16
⑬デフロックペダル ……………………………… 20
⑭油圧
(ポジションコントロール)レバー …… 7, 13, 24
⑮前輪駆動レバー ……………………………… 14
⑯工具箱 ……………………………………… –
⑰シート ……………………………………… 10
⑱Mスイッチ ………………………………… 30

運転前の点検

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回，運転前に欠かさず行なってください。
〔点検方法の詳細は，**“乗用管理機の簡単な手入れと処置”**の項を参照。〕

 注 意

＊運転前にブレーキ・クラッチ・ステアリングや安全装置などの日常点検を行ない，摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
＊点検をするときは，必ず作業機を降ろしエンジンを停止してから行なってください。
＊燃料補給時は，くわえタバコ・裸火照明はしないでください。
＊燃料・オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が吹出してヤケドをするおそれがあります。
＊エンジン周囲のカバー類を開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
❶エンジン停止後30分経過してから開ける。
❷点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドのおそれがないことを確認する。

重 要

各部への給油と交換
＊点検するときは乗用管理機を水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示さないことがあります。
＊使用するエンジンオイル，ミッションオイルは，必ず指定**“クボタ純オイル”**を使用してください。

エンジンの始動と停止

 警　告

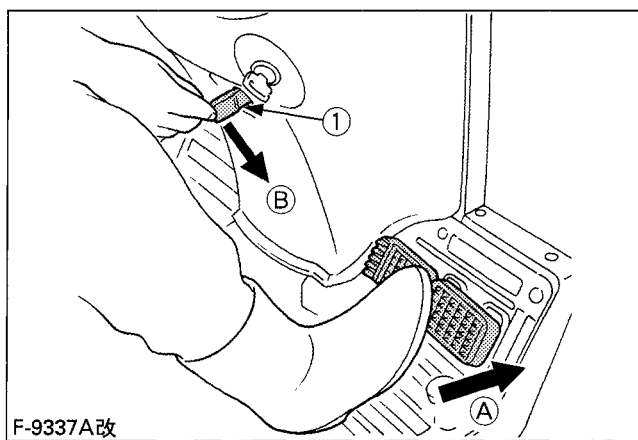
＊この取扱説明書前編の黄色のページの"安全に作業するために"の内容を必ずお読みください。
＊乗用管理機に貼ってある⚠表示ラベルの内容を必ずお読みください。
＊エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，主変速，副変速やＰＴＯ変速レバーが"中立"(N)かどうか，また駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。
＊乗用管理機が突然動き出すおそれがあるため，地上に立ってエンジンを始動したり，スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。
＊室内やビニールハウス内などで運転する場合は，換気を十分に行なってください。
換気が不十分であると排気ガスにより，一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

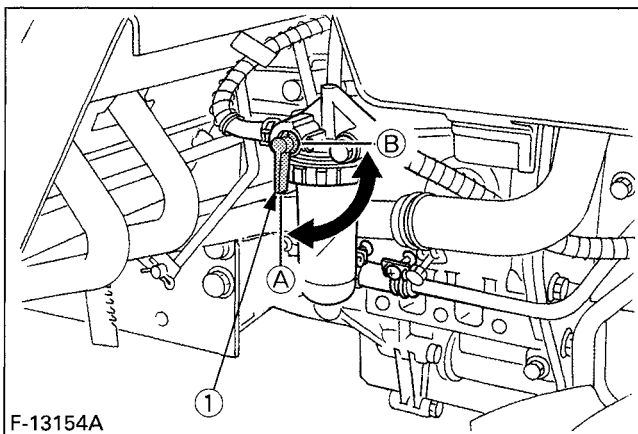
始動のしかた

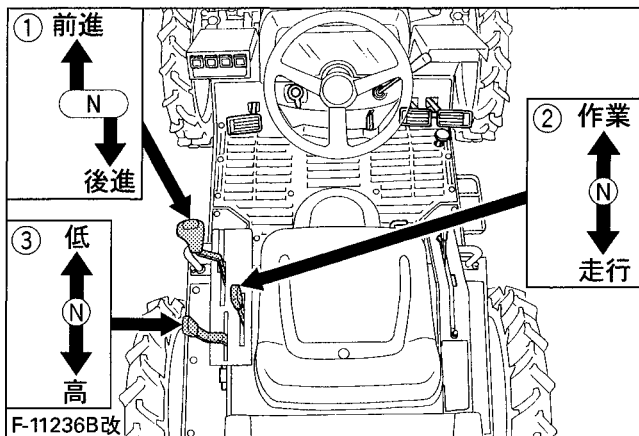
1.駐車ブレーキをかけます。

 注　意

＊連結ボルトを外さないでください。

ブレーキペダルを左右連結して踏込み，レバーを"下げ"たまま足をはなすと駐車ブレーキがかかります。

①駐車ブレーキレバー　Ⓐ"踏込む"
Ⓑ"下げる"

2.燃料フィルタコックを"開"にします。

①燃料フィルタコック　Ⓐ"開"
Ⓑ"閉"

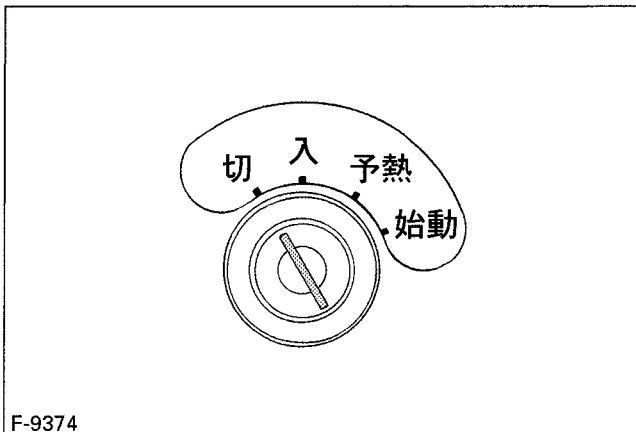
3.主変速(グライドシフト)レバー，副変速レバー，PTO変速レバーを“中立”(N)にします。

①主変速(グライドシフト)レバー　Ⓝ“中立”
②副変速レバー
③PTO変速レバー

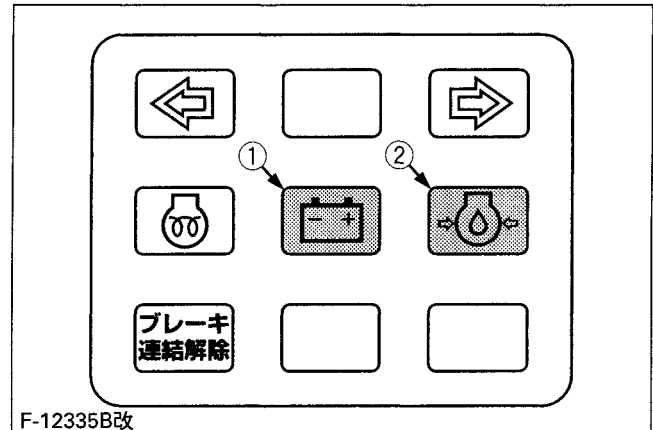
補　足

＊ 副変速レバー及びPTO変速レバーを**“中立”(N)**にしないと，安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。

4.キースイッチにキーを差込み“入”位置にします。

■キースイッチ

切　………… エンジンが停止し，キーが抜き差しできる位置。
入　………… エンジン回転中の位置。
予熱　……… 燃焼室内を予熱する位置。
始動　……… エンジンを始動する位置。
手を離せば自動的に**“入”**に戻ります。

◆イージーチェッカランプ

キースイッチを**“入”**位置にすると，①②ランプが点灯します。

①バッテリチャージランプ(バッテリ充電警告灯)
②エンジンオイルランプ(エンジン油圧警告灯)

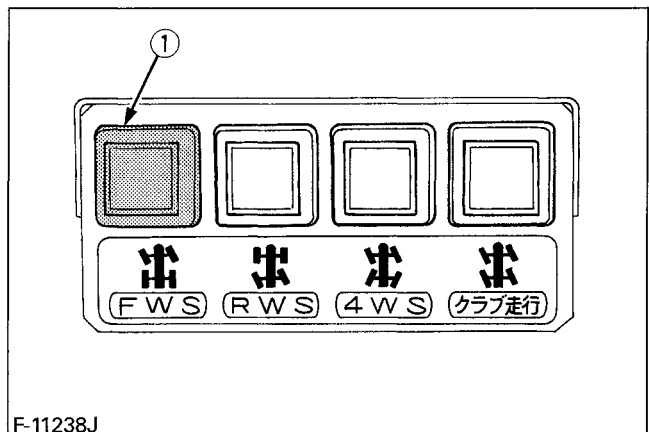
補　足

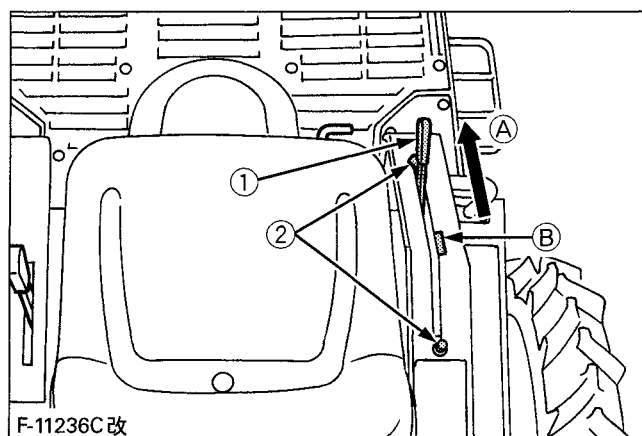
＊ 各レバーやスイッチの位置により，上記以外のランプも点灯又は点滅する場合があります。

◆操舵切換スイッチ

キースイッチを**“入”**位置にすると，FWSスイッチのランプが点灯します。

補　足

＊ FWSスイッチのランプが点滅し，ピーピーというブザーが鳴る場合は，後輪がまっすぐになるようハンドルを回してください。ブザーが止まり，FWSスイッチのランプは点灯します。【詳細は**“操舵切換えスイッチ”**の項を参照】

①FWSスイッチ(ランプ)

5.油圧レバーを"前方に倒し"作業機を下げます。

F-11236C改

①油圧レバー　Ⓐ"下げる"
②止め金具　Ⓑ"防除タンク搭載位置"

補　足

＊油圧ロックされている場合，作業機は下がりません。
【詳細は**"油圧"**の項を参照】

注　意

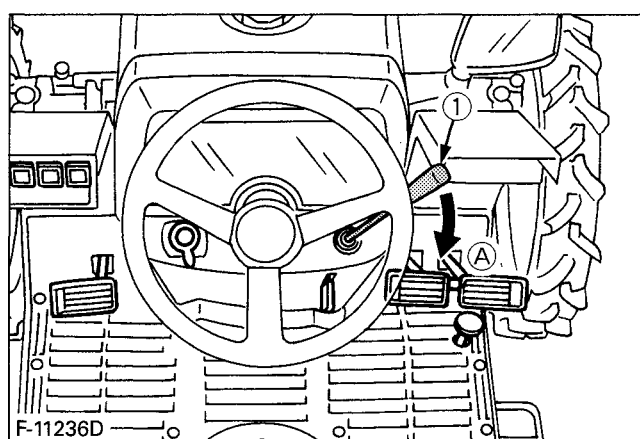
＊防除タンクを搭載しているときは，油圧レバーは"防除タンク搭載位置"で止め金具で，ロアーリンクは"ロックバー"でそれぞれ固定してください。
＊固定を忘れると，タンクが移動し大変危険です。

6.アクセルレバーを"中程"まで引きます。

F-11236D

①アクセルレバー　Ⓐ"加速"

7.クラッチペダルを"踏込み"ます。

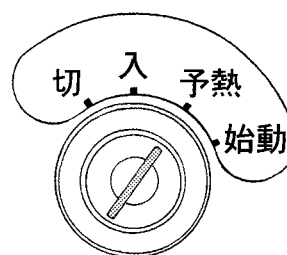
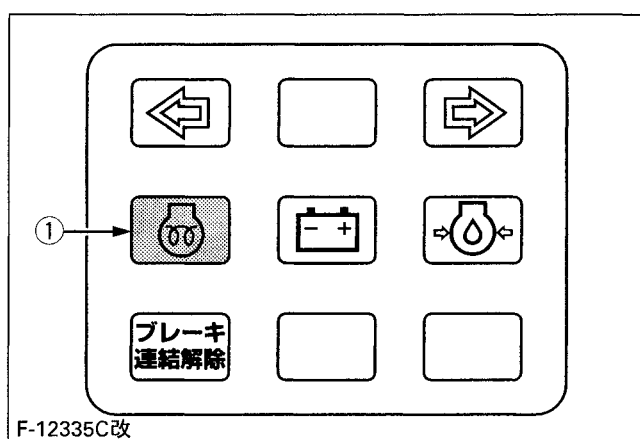
補　足

＊エンジンはクラッチペダルを踏込まなくても始動できますが，安全確保のため踏込んでください。

8.キーを"予熱"位置に回します。

予熱時間は，下表を参考に行なってください。
エンジンが暖まっている場合，予熱は不要です。

気　温	予　熱　時　間
0℃以上	2～3秒
0～－5℃	5秒
－5～－15℃	10秒

補　足

＊予熱中のみ，グローランプが点灯します。

F-9374改

F-12335C改

①グローランプ

9.キーを**"始動"**位置に回します。

補　足

＊ 副変速レバー及びPTO変速レバーを**"中立"(N)**にしないと安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。

重　要

＊ セルモータは，大電流を消費しますので，10秒以上の連続使用は避けてください。
10秒以内で始動しなかった場合は，いったんスイッチを切って，30秒以上休止してから同じ操作をくり返してください。

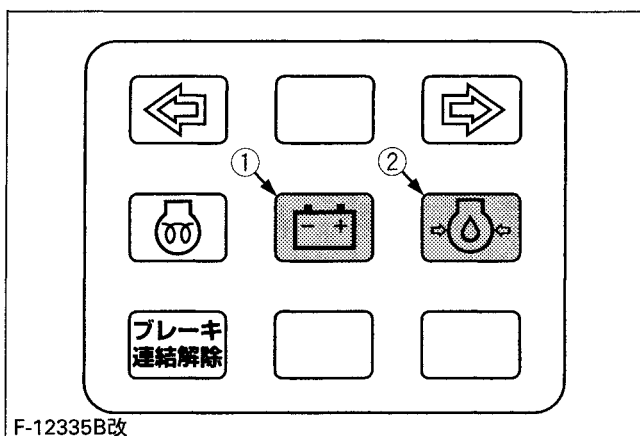
10.エンジンが始動したら，キーから手をはなしてください。

自動的に**"入"**にもどります。

重　要

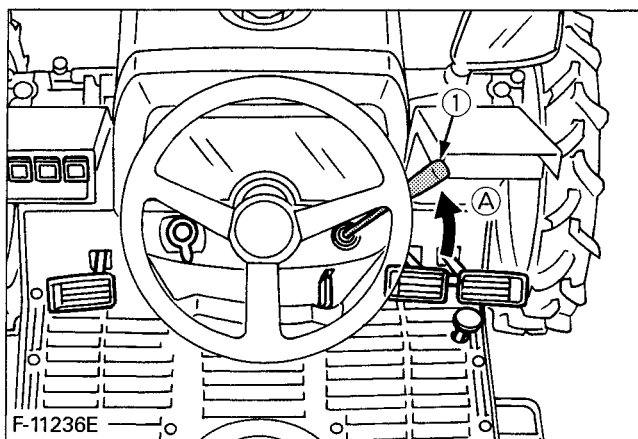
＊エンジン回転中は，キーを**"始動"**位置にしないでください。セルモータ破損の原因になります。

11.イージーチェッカランプが"消灯"したか確認します。

もし，ランプが消灯しない場合は，エンジンを停止し，点検してください。

エンジン始動後消灯するランプ：①②

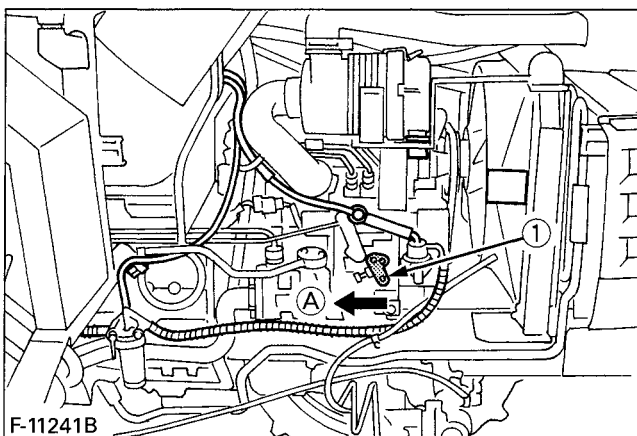
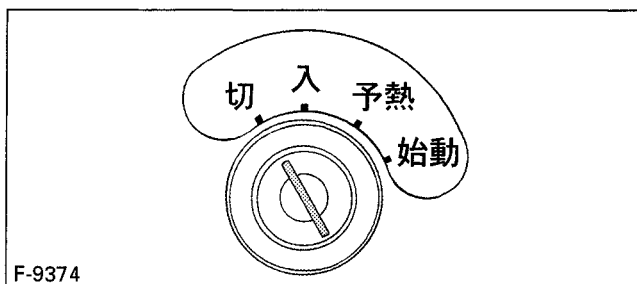
12.エンジン回転を下げ，クラッチペダルからゆっくり足を離し，そのまま5分程度暖機運転しましょう。

停止のしかた

1.アクセルレバーをいっぱい前へ"押し"てアイドリング状態にします。

①アクセルレバー　　　Ⓐ"アイドリング"

2.キースイッチのキーを"切"の位置にすると，エンジンは停止します。

重　要

＊ 万一停止しないときは，ボンネットを開けエンジン横のエンジンストップレバーを矢印側にいっぱい動かすと停止します。

①エンジンストップレバー　　Ⓐ"引く"

3.キーは必ず"抜き"ましょう。

寒冷時の暖機運転

注　意

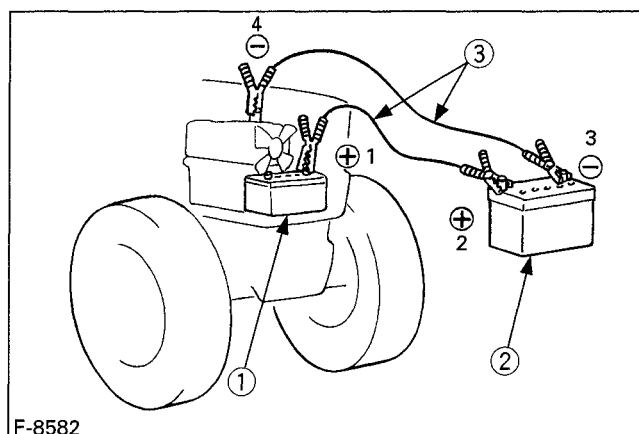
＊ 換気が不十分な所では，暖機運転はしないでください。
換気が不十分であると排気ガスにより，一酸化炭素中毒になるおそれがあります。
＊ 暖機運転中は必ず駐車ブレーキをかけてください。

始動後，約５分間は負荷をかけずに暖機運転をしてください。オイルを各メタルに十分ゆきわたらせるためで，始動してからすぐ負荷をかけると，焼付きや破損など故障の原因になりますのでご注意ください。

◆グライドシフト・パワーステアリング
乗用管理機は，ミッション**【グライドシフト】**や**【ステアリング】**を油圧で作動させており，その油圧オイルはトランスミッションオイルを兼用しております。そのため必ず下記の要領で暖機運転を行ない，トランスミッションを暖めてください。暖機運転を行なわないと，満足な機能が得られないばかりか故障の原因になります。

気　温	暖機運転時間
0℃以上	約５分間
0℃以下	10分間以上

バッテリあがりの処置

ブースタケーブル(別売)があれば，他車のバッテリを電源としてエンジンを始動することができます。
❶ブースタケーブルを図の番号順で接続します。
＊バッテリの⊕端子同士を接続します
＊マイナスケーブルの他端④の接続位置は，バッテリから離れたエンジン本体に接続します。
(マイナスケーブルの他端④を直接バッテリの⊖端子に接続すると，バッテリから発生する可燃ガスに引火するおそれがあります。)

①放電した乗用管理機バッテリ
②救援車バッテリ
③ブースタケーブル

❷救援側の車を始動し，少しエンジン回転を高めに保ちます。
❸乗用管理機のエンジンを始動します。
(始動手順は**“エンジンの始動と停止”**の項を参照)
❹ブースタケーブルを接続順序の逆で外します。

重　要

＊ 救援車は必ず12Vバッテリ車を使用してください。
＊ ケーブル接続の際には，⊕と⊖端子を絶対に接触させないでください。
＊ ケーブルが冷却ファンなどに巻込まれないようにしてください。

乗用管理機の運転

警　告

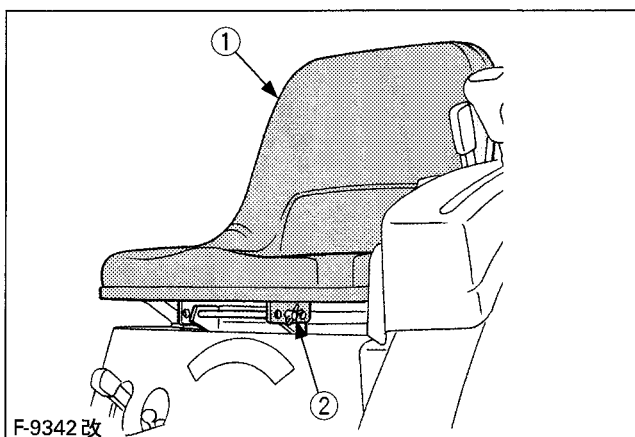
＊乗用管理機を発進するときは前後左右をよく確認し，付近に人(特に子供)を近づけないでください。また，防護フレームに当たる障害物がないかも確認してください。
＊子供はもちろん，運転者以外の人を乗せて乗用管理機を運転しないでください。また，必ずシートに座って運転してください。
＊溝や穴の近く，路肩など乗用管理機の重みでくずれやすい所では運転しないでください。転落事故のおそれがあります。
＊急な坂道の登坂はバックで行なうか，作業機をできるだけ下げ，転倒防止に心がけてください。
＊下り坂は，エンジンブレーキを使用してください。ブレーキペダルを踏むだけで降りないでください。
＊負荷の大きい場合には徐々に発進し，乗用管理機が後へ転倒しないように注意してください。
＊高速で旋回すると，横転するおそれがあります。デフロックペダルの解除を確認して，必ずスピードを落としてゆっくりと回ってください。
＊運転席足元に空缶，部品などの物を置くとブレーキペダルやクラッチペダルの下にはさまり，ブレーキ操作，クラッチ操作ができなくなり危険です。
＊走行はFWS(前輪操舵)以外を使用しないでください。蛇行や，急旋回で横転，転落するおそれがあります。
＊防除機を装着時は頭上の障害物や，左右前後の障害物に十分注意し，低速で運転してください。タンク内に薬剤を入れたまま運転すると薬液のゆれにより思わぬ方向に機体が揺れたり傾いたりするおそれがあります。移動するときはタンク内を空にして移動してください。

ならし運転(最初の約50時間)

この期間中は，特に次のことを厳守してください。
1. 急なスタート，急ブレーキは慎んでください。
2. 必要以上のスピードや負荷をかけないようにしましょう。
3. 運転は，エンジンが十分暖まってから行なうようにしましょう。
4. 悪路や傾斜地では，速度を落とし安全を確認しながら走行しましょう。
5. 50時間使用後，**“定期点検箇所一覧表”**に従い各部の点検，オイル交換などを行なってください。

運転席回りの調節

■シート

1. シート下のピン穴を移動すると，前後３段階に調節できます。
2. 雨のときは，シートを前に倒しておくと座席がぬれません。

①シート
②調節穴

■防護フレームとシートベルトについて

警告

転倒・転落による死傷事故防止のため，下記のことを守ってください。

＊ 乗用管理機を使用するときは，防護フレームを外して運転しないでください。

＊ 納屋の出入りなど，防護フレームが当たる場合を除き，運転時はいつも防護フレームを立て，必ずシートベルトを着用してください。

＊ 防護フレームを折りたたんだ状態では，シートベルトを絶対にしないでください。折りたたみ式防護フレームは，折りたたんだ状態では防護フレームの役目をしません。

＊ 防護フレームの改造を絶対にしないでください。又強度に影響する破損，折れ曲がりなどが発生した場合，交換してください。

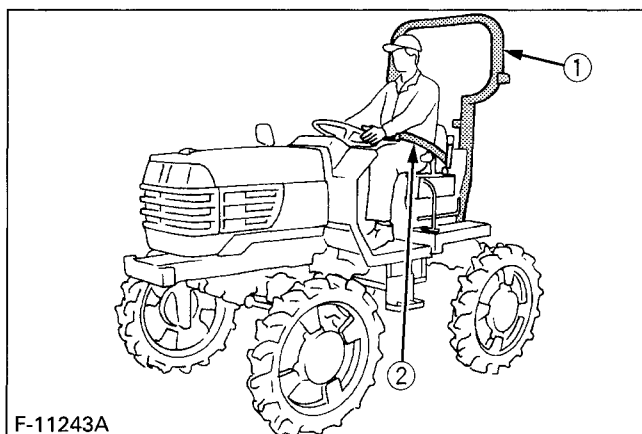
＊ 防護フレームを立てたときは，左右のレバーを押し込んで確実に固定してください。また日常点検時，レバーにガタがないか確認してください。

＊ 防護フレームが確実に固定されているか確認してください。

＊ シートベルトは作業者の身体に合わせ長さを調節してください。

＊ 防護フレームを折りたたんだり，立てたりするときは，平坦な場所で必ず作業機を地面に降ろし，エンジンを止め，駐車ブレーキを掛けてから行なってください。

補足

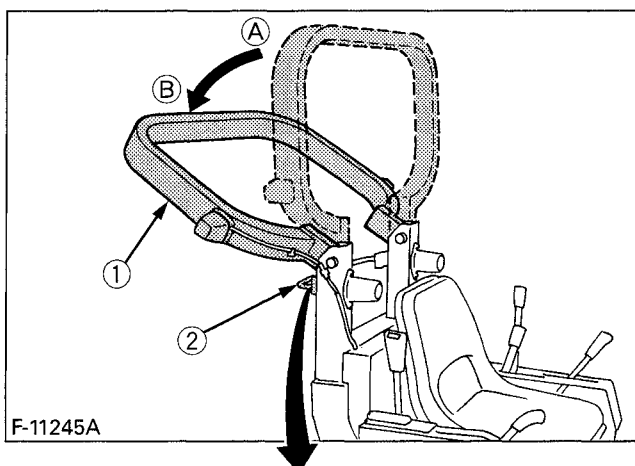
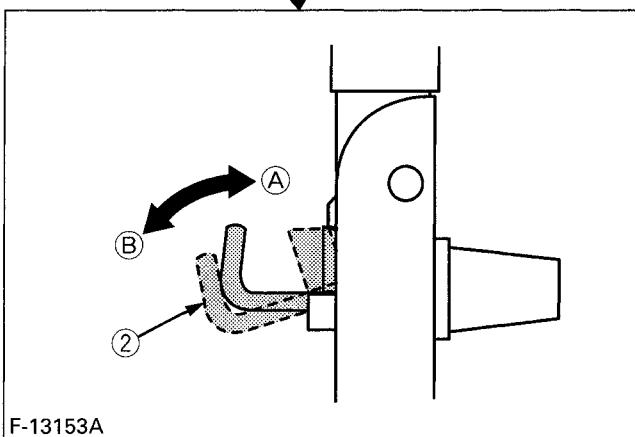
＊ 防護フレームは，万一のときに少しでも被害を軽くするためのものであって，すべての傷害を防げるものではありません。

①防護フレーム
②シートベルト

◆折りたたみ方法

❶ レバーを後方へ引き，そのまま少し下側に下げロックを解除します。(左右共)

❷ 次に，防護フレームをゆっくりと後方へ折りたたんでください。

補足

＊ 防護フレームを折りたたむと，作業機の状態によっては接触する場合があります。接触しないことを確認して折りたたんでください。

①防護フレーム　Ⓐ"固定位置"
②レバー　Ⓑ"折りたたみ位置"

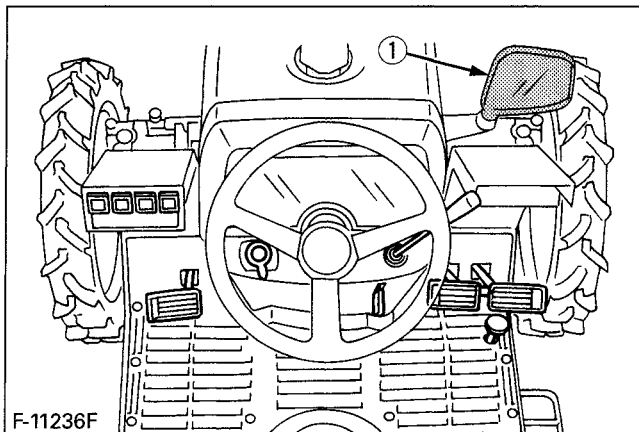
◆起こす方法

❶ 防護フレームを前方へ動かなくなる位置まで完全に起こす。

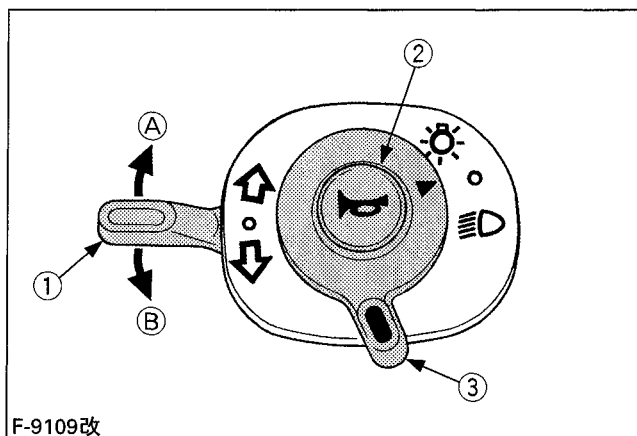
❷ レバーをそのまま前方へ確実に押し込んでください。(左右共)

❸ 防護フレームにガタがないか確認してください。

■バックミラー

後方視野が十分に確認できる位置に調整してください。

①バックミラー

灯火類の操作

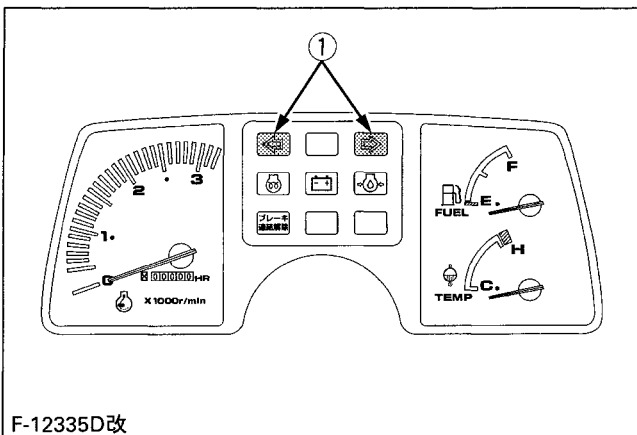
■コンビネーションスイッチ

①ウインカスイッチ　Ⓐ“右点滅”
②ホーンボタン　Ⓑ“左点滅”
③ライティングスイッチ

◆ライティングスイッチ

○……　ヘッドランプ消灯位置。

≣D……　ヘッドランプ点灯位置。

◆ウインカスイッチ

1. スイッチを操作すると，ウインカランプ及びウインカパイロットランプが点滅します。
2. 右折又は左折が終ったら，スイッチを中央に戻しましょう。

①ウインカパイロットランプ

◆ホーンボタン

ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。

発進・走行

1.ブレーキペダルの確認

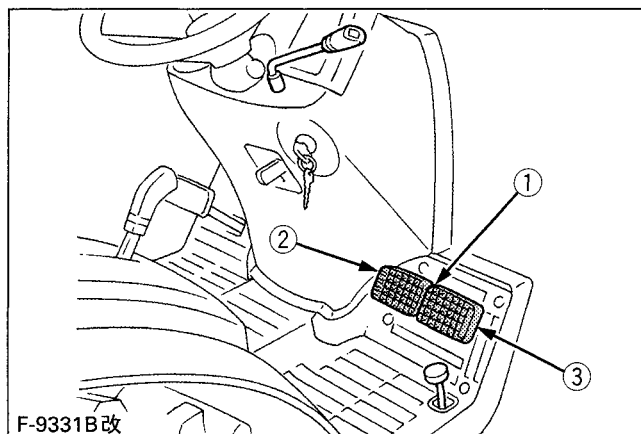
■ブレーキペダル

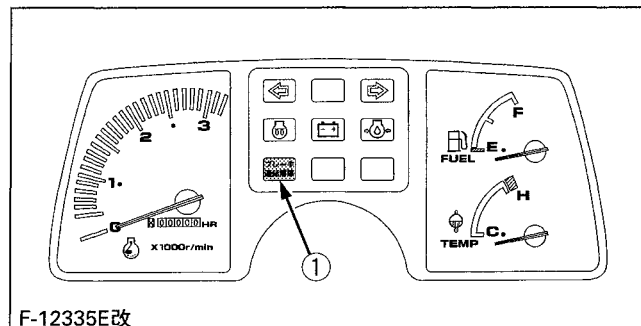
警 告

＊ ブレーキペダルの左右を連結金具で，必ず連結してください。乗用管理機のブレーキは，左右独立のブレーキが付いていますが効き具合を調整するためのものです。
移動中に片ブレーキを踏むと車体が振られ，横転や転落のおそれがあります。

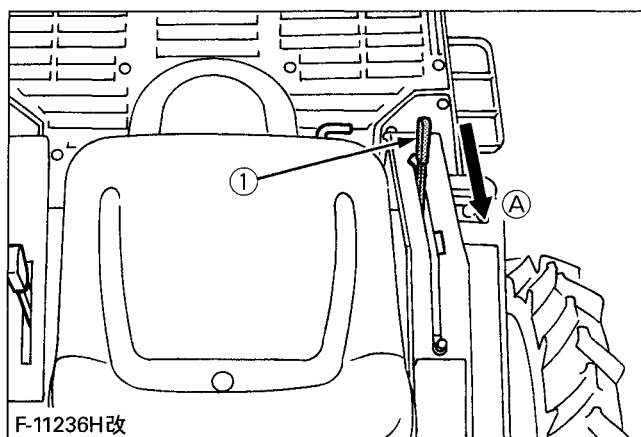
注 意

＊ ブレーキの連結ボルトは解除しないでください。
片ブレーキを踏んで操向すると後輪の中点がズレて直進できない場合があります。作業時に小回りが必要なときは，4WSとグライドシフトを使用します。

ブレーキは，強制的に機体を停止させる装置です。連結金具でブレーキペダルをつなぐと，左右両輪のブレーキが同時に働きます。

①連結金具(連結ボルトを外さないでください)
②ブレーキペダル(左)
③ブレーキペダル(右)

◆ブレーキペダル連結解除ランプ
ブレーキペダル連結金具を外すとブレーキ連結解除ランプが点灯します。
連結金具をかけ，ブレーキ連結解除ランプの消灯を確認してから，走行してください。

①ブレーキペダル連結解除ランプ

2.油圧レバーを“後方に引き”作業機を上げます。

〔詳細は“油圧”の項を参照〕

①油圧レバー　　Ⓐ“上げる”

注 意

＊ 防除タンクを搭載しているときは，油圧レバーは“防除タンク“搭載位置”で止め金具で，ロアーリンクは“ロックバー”でそれぞれ固定してください。
＊ 固定を忘れると，タンクが移動し大変危険です。

3.クラッチペダルを踏込みます。

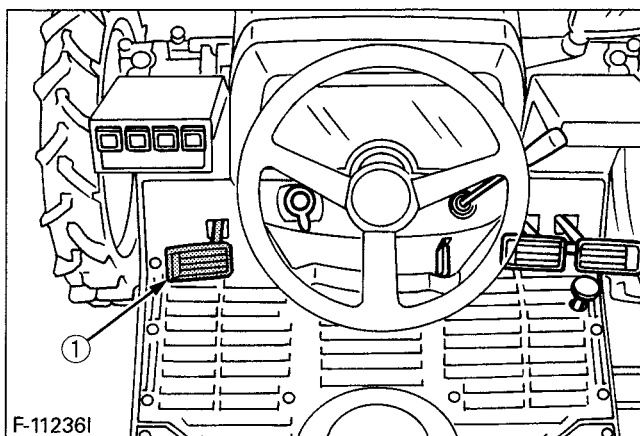
 注　意

＊ 急にクラッチを離すと，急に飛出すおそれがあります。ゆっくり行なってください。

■クラッチペダル

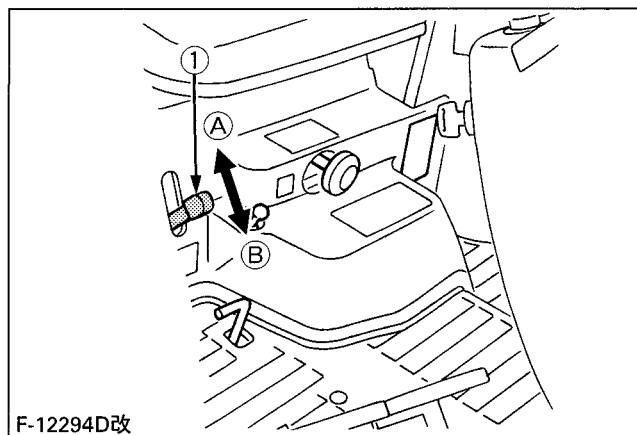
クラッチは，エンジンの動力を各作動部に断続する装置です。
ペダルを踏込む…………クラッチが切れる。
ペダルから足を離す……クラッチがつながる。

補　足

＊ 下記レバーを操作するときは，必ずクラッチペダルを踏み乗用管理機を完全に停止させてから行なってください。
・副変速レバー
・前輪駆動レバー
・ＰＴＯ変速レバー

①クラッチペダル

4.作業に応じ必要なレバー類を操作します。

■前輪駆動レバー

前輪駆動の断続に使用するレバーで，クラッチペダルを踏込み操作します。
前輪駆動**“入”**…………４輪が駆動される。
（常時**“入”**で使用してください。）
前輪駆動**“切”**…………前輪駆動が切れる。

①前輪駆動レバー　　Ⓐ前輪駆動“入”
Ⓑ前輪駆動“切”

重　要

＊ 前輪駆動レバーは，**“入”**か**“切”**の位置にしてください。中間の位置で運転すると故障の原因になります。

■操舵切換スイッチ

 警　告

衝突，転落や転倒等防止のため下記のことを厳守してください。

＊ 移動走行時は，必ずFWSを使用してください。（RWS・4WS・クラブモードでは走行しないでください）

＊ スイッチの切換えは，必ず乗用管理機を停止させてから行なってください。

＊ スイッチランプが点滅しブザーが鳴っているときは，必ずハンドルを左右に回しブザーを停止させてから，発進・走行してください。

＊ 発進・走行前，自分の選択したステアリングモードであるか再確認してください。

◆始動時

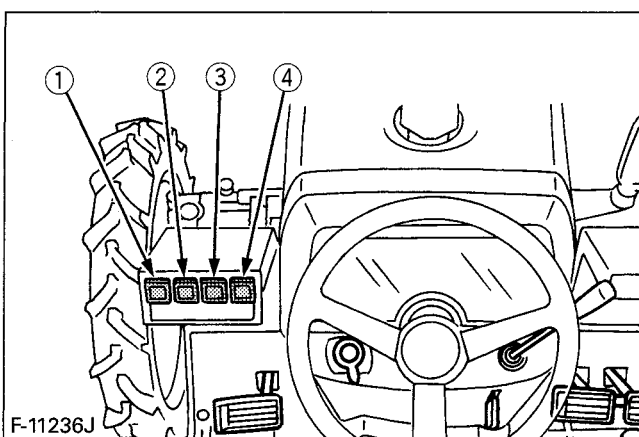
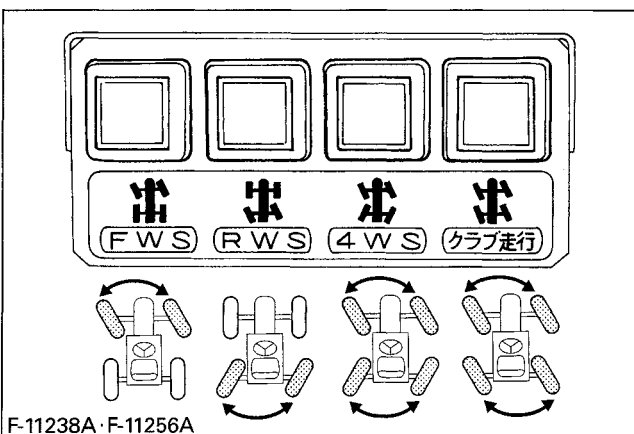
エンジン始動時は操舵モードがFWS（前輪操舵）になるように設定されていますが，ブザーが鳴った場合は，後輪の動きが止まるまでハンドルをまわしてください。ブザーが止まると自動的にFWSになります。

◆切換スイッチと作業

● **FWSスイッチ**
押すとFWS（前輪操舵）になります。
通常の作業や移動時に使用します。
走行時はFWSで走行してください。

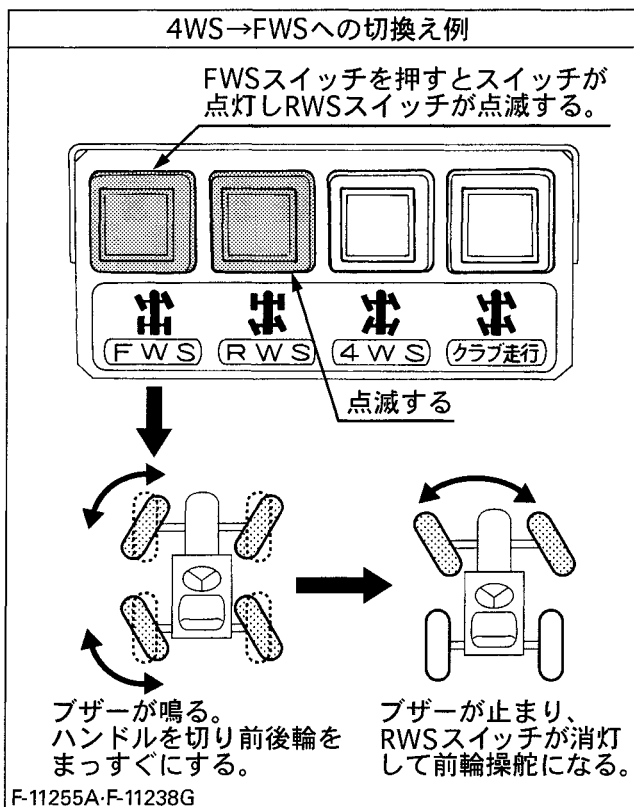
● **RWSスイッチ**
押すとRWS（後輪操舵）になります。
後進で直進性を要するときに使います。

● **4WSスイッチ**
押すと４輪操舵になります。
ほ場や作物をいためずに小さく旋回できます。

● **クラブスイッチ**
押すとクラブ走行（前後輪同方向）になります。
幅寄せをするときに使います。

①FWSスイッチ
②RWSスイッチ
③4WSスイッチ
④クラブスイッチ

◆操舵切換えのしかた

❶使用したい操舵ボタンを押します。スイッチランプが点灯し，中立に戻すランプが点滅しブザーが鳴ります。

❷前後のタイヤがまっすぐになるように，ブザーが止まり元の操舵ボタンのランプが消灯するまでハンドルを切ります。

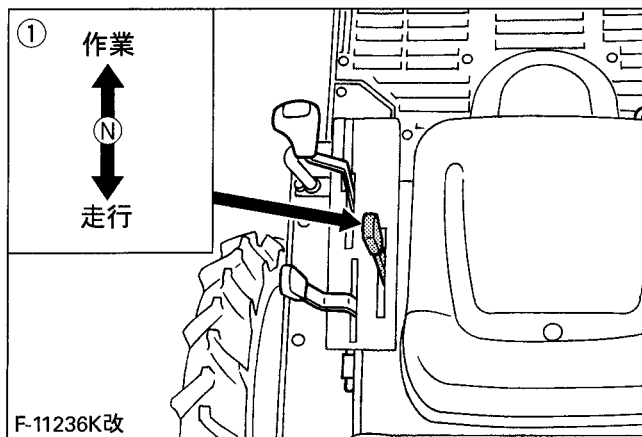
❸ブザーが止まり，自動的に切換わります。

■高速ケンセイ装置

● 副変速が**"走行"**に入っているときは，**"4WS"**又は**"クラブ"**のスイッチを押してもブザー音（ピピー，ピピー）がして**"4WS"**又は**"クラブ"**の操舵モードには入りません。

● **"4WS"**又は**"クラブ"**の操舵モードに入っているときに副変速を**"走行"**にすると，自動的に**"FWS"**のランプが点灯し**"FWS"**操舵に切換わります。このとき，後輪が中点（進行方向に平行）になっていないときはブザー（ピピー，ピピー）が鳴り**"RWS"**ランプは点滅します。ハンドルを回して後輪が中点に復帰しブザー音が消え，**"FWS"**ランプが点灯し，前輪が動くのを確認してください。

■故障の表示

操舵モードのコントロール不良が発生した場合は，ランプが４個共点滅しブザーが鳴ります。このような場合はすぐに運転を中止し販売店に連絡してください。

5.副変速レバーを“作業”又は“走行”に入れます。

①副変速レバー

■副変速レバー

“作業”位置で低速，**“走行”**位置で高速が得られます。
副変速**“作業”**…主に農作業に使用します。
副変速**“走行”**…主に走行に使用します。

重　要

* 副変速レバーの切換えは，必ず主変速（グライドシフト）レバーを**“中立”**(N)の位置にし，走行をいったん止めてから行なってください。
* 副変速レバーは，走行中に変速することはできません。クラッチペダルを踏込んで乗用管理機を停止させてから行なってください。
* 副変速レバーの操作時，レバーが入りにくくなるときがあります。そのときは，副変速レバーを**“中立”**(N)に戻しクラッチをつないでください。
そのまま主変速（グライドシフト）レバーを少し動かしてから**“中立”**(N)に戻し，再度クラッチペダルを踏込み副変速レバーを操作してください。

6.エンジンを加速します。

■アクセルレバーとアクセルペダル

◆アクセルレバー

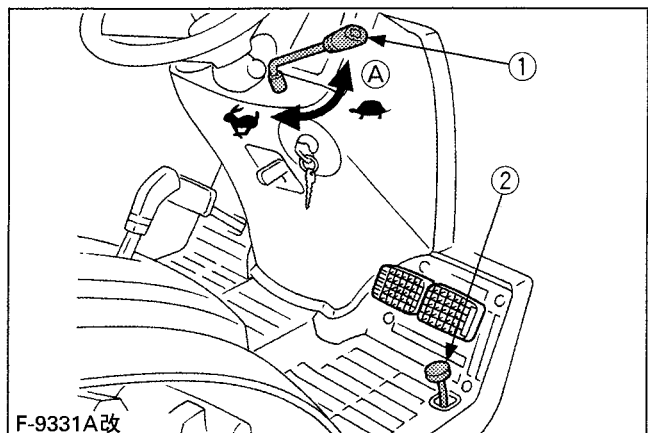
主に農作業時に使用する。

……レバーを手前に引くと，エンジン回転が上がる。

……レバーを前側に押すと，エンジン回転が下がる。

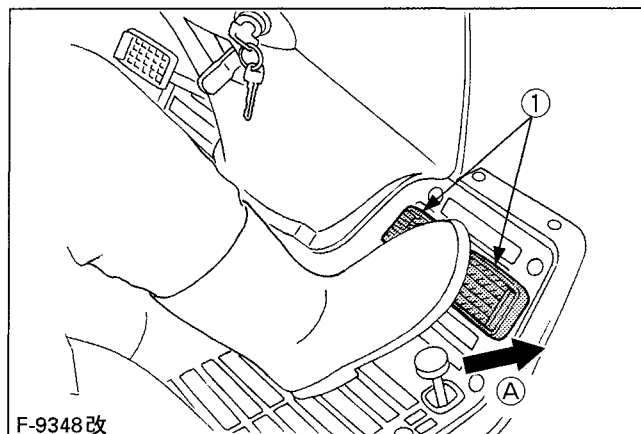
◆アクセルペダル

主に走行時に使用する。

ペダルを踏込む…………エンジン回転が上がる。
ペダルから足を離す……アクセルレバーで設定しているエンジン回転。

①アクセルレバー　　Ⓐ “アイドリング”
②アクセルペダル　　(亀) “低速”
　　　　　　　　　　(兎) “高速”

7.駐車ブレーキを解除します。

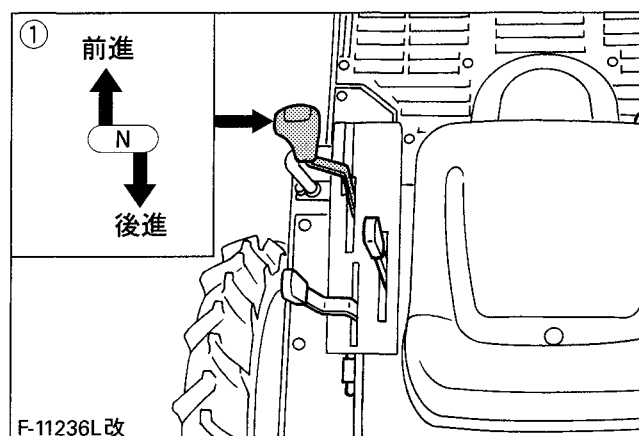
■駐車ブレーキ

ブレーキペダルを**"踏込む"**と駐車ブレーキレバーが，解除されます。

①ブレーキペダル　　Ⓐ"踏込む"

8.クラッチペダルをゆっくり離します。

重　要

＊クラッチの寿命を伸ばすため，半クラッチの使用時間・回数を少なくするように，次の点にご注意ください。
- 速度調節はクラッチで行なわないようにしてください。
- 作業に応じた車速及びエンジン回転を選択してください。
- クラッチペダルの上に足を乗せたまま運転しないでください。知らないうちに半クラッチを使用していることになります。

9.主変速(グライドシフト)レバーをゆっくり操作し発進します。

①主変速(グライドシフト)レバー

重　要

＊グライドシフトレバーを前進または後進にしたままクラッチを使用して発進させないでください。クラッチを**"入"**にするときはグライドシフトレバーを**"中立"**(N)にしてください。坂道ではクラッチを**"入"**にし，グライドシフトレバーを進む方向に少し動かしながらブレーキを解除してください。

■主変速(グライドシフト)レバー

注　意

＊安全と機械保護のため，主変速(グライドシフト)レバーの急激な変速は避けてください。また，前後進の切換えはレバーを"中立"(N)の位置にし，走行をいったん止めてから行なってください。

レバーを前に押して**"前進"**，手前(後)に引いて**"後進"**です。
発進及び走行中にクラッチペダルを踏まずに(ノークラッチ)，変速することができます。
乗用管理機を効率よく性能を維持して使っていただくために，作業はできるだけエンジン回転を1500回転/分以上で使用してください。

補　足

＊主変速(グライドシフト)レバーは前進６段，後進３段の位置に保持できます。ただし，急ブレーキ，急発進等，過負荷がかかつた場合には減速側に戻ることがあります。これは機械を保護し，安全に作業するためのもので，構造上問題はありません。

停車・駐車

警　告

* グライドシフトは油圧ミッションのため，変速ギヤを入れてエンジンを止めても，エンジンブレーキはききません。駐車後乗用管理機が動き出さないよう，必ず駐車ブレーキをかけてください。

注　意

* 駐車するときは，平坦で乗用管理機が安定する場所を選び，各変速レバー(主変速・副変速・PTO)を“中立”(N)にします。作業機を“下げ”，駐車ブレーキを“掛け”，エンジンを“停止”してキーを抜いてください。
  やむをえず坂で駐車する場合は，タイヤに車止めをしてください。
* 乾いた草やワラなど可燃物のある場所には，駐車しないでください。
* 格納などで乗用管理機にシートをかける場合は，マフラやエンジンが十分冷えてから行なってください。
* 停車時，空吹かしをしたり，高回転にしたりすると排気管の熱や排気ガスにより，ワラなどに着火するおそれがあります。
* 乗用管理機から降りるときは，ロータリなどのＰＴＯ作業機が完全に止まるまで待ってください。

1. アクセルレバーを前方に押して，エンジン回転をアイドリング状態にします。
2. クラッチ及びブレーキペダルを“踏込み”ます。
3. 完全に停止してから，主変速，副変速及びPTO 変速レバーを“中立”(N)にします。
4. 作業機を取付けている場合は，油圧レバーをゆっくり“前方に倒し”作業機を下げます。(防除機を除く)
5. 駐車ブレーキを確実に“ロック”してください。

①駐車ブレーキレバー　Ⓐ“踏込む”
Ⓑ“下げる”

6. キースイッチを“切”にして，エンジンを停止します。

運転中の作動確認

乗用管理機の運転中は，各部が円滑に作動しているかどうかを，たえず注意してください。

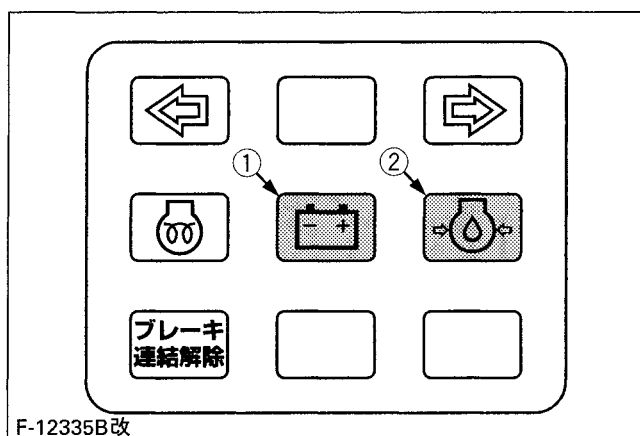
■次の場合には，直ちにエンジンを止めてください。

1. 回転が急に下降したり上昇したりする。
2. 突然，異常な音をたてた。
3. 排気色が急に黒くなった。

運転中，メータ類に異常がないか，またイージーチェッカランプが点灯していないかを，たえず注意してください。

■イージーチェッカ

運転中イージーチェッカ内の下記警告ランプが点灯したとき，すみやかにエンジンを止め，点灯した箇所の点検をしてください。もし原因がわからないときは，購入先にご相談ください。

F-12335B改

① バッテリチャージランプ
(バッテリ充電警告灯)
エンジン回転中，充電系統が異常のとき点灯する充電警告灯です。
キースイッチを**"入"**にすると点灯し，始動すると消灯します。

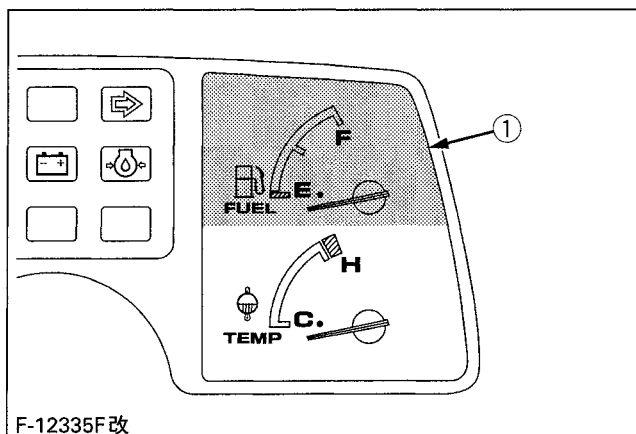
② エンジンオイルランプ
(エンジン油圧警告灯)
エンジン回転中，潤滑系統が異常のとき点灯するエンジンオイル油圧警告灯です。
キースイッチを**"入"**にすると点灯し，エンジンを始動すると消灯します。
点灯したままのときは，エンジンオイル量を点検してください。

■燃料計

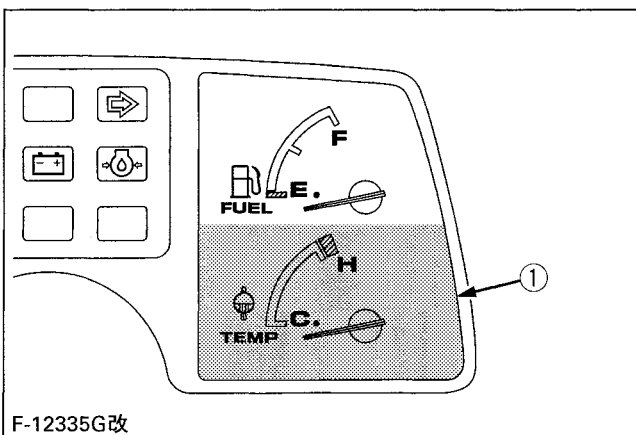
指針が **"E"** に近づいたら早めに燃料を補給してください。
からにすると燃料系統に空気が入るので，空気抜きが必要です。
(**"必要に応じた点検・整備"**の**"燃料の空気抜きのしかた"**の項を参照)

F-12335F改

①燃料計

■水温計

＊ ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをするおそれがあります。停止後30分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

指針が **"H"** (レッドゾーン)を示すときは，オーバヒート状態ですから下記に従って点検してください。

F-12335G改

①水温計

◆オーバヒートしたときの処置

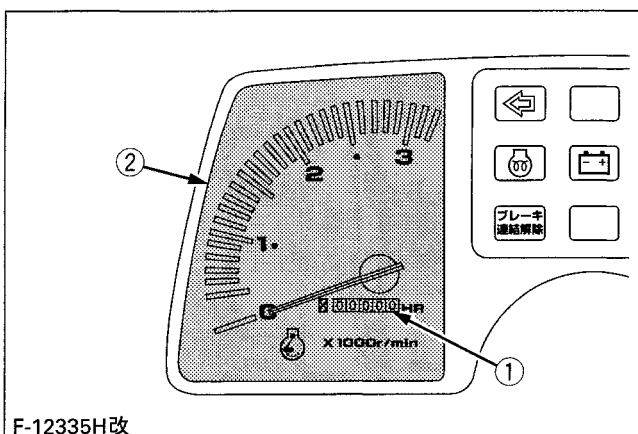
オーバヒート(水温計の針が**"H"**にあるとき)したときは,

❶作業を中止し,
❷エンジンを約5分間アイドリング回転してから,
❸エンジンを停止し,停止後30分以上たって冷えてから,次の点検・整備をしてください。

1. リザーブタンク,ラジエータの冷却水の量(不足),及び水もれがないか。
2. 防虫網及びラジエータフィンとチューブの間に,泥やゴミが付着していないか。
3. ファンベルトのゆるみがないか。

重 要

* リザーブタンクのオーバフローパイプから蒸気が噴き出たら,上記**"◆オーバヒートしたときの処置"**を行なってください。

■乗用管理機メータ

①積算時間計
②エンジン回転計

◆積算時間計

積算時間計は5桁になっており,初めの4桁は時間,最後の1桁は1/10時間(6倍すると**"分"**単位)を示します。

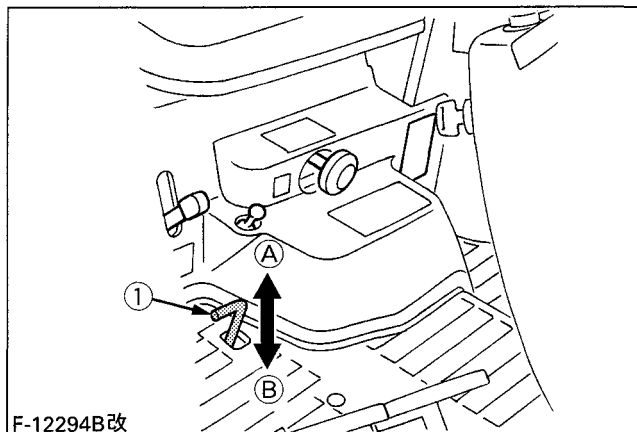
◆エンジン回転計

1分間のエンジン回転速度を示します。

デフロックの使い方

■デフロックペダル

左右の後輪が同じ回転速度で駆動される装置で,スリップ防止に効果があります。

ペダルを踏込む………ロックされる。
ペダルから足を離す…自動的に外れる。

①デフロックペダル　Ⓐ離す"解除"
　　　　　　　　　　Ⓑ踏む"ロック"

◆デフロックの使い方

* **デフロックを入れたままで旋回できません。旋回の前に必ず解除してください。**
* **走行時には絶対にデフロックを使用しないでください。ハンドル操作ができなくなります。**

デフロックは,下記のような場合に役立ちます。

1. 農場への出入りなど,片車輪がスリップして直進できないとき。
2. 農場の一部軟弱なところに片車輪が入り込み,スリップして走行がしにくくなったとき。

重 要

* デフロックを入れるときは,エンジン回転を下げてから行なってください。
* 抜けにくいときは,ブレーキペダルを軽く踏んでください。
* 使用しないときは,足をペダルにのせないでください。

旋回のしかた

 注 意

* 高速で回ると横転するおそれがあります。デフロックペダルの解除を確認し，できるだけエンジン回転を落としゆっくり回ってください。
* 操作スイッチの切換えとタイヤの動きを覚えてから作業をしてください。
* 操作スイッチの切換えと操作の練習は広い場所で行なってください。
* 左右ブレーキの連結は，ブレーキ調整時以外に解除しないでください。（連結ボルトを外さないでください）
* 乗用管理機は，トラクタと同じように左右のブレーキを使用して旋回すると，中点（中立位置）が狂い正常な走行ができなくなるおそれがあります。左右ブレーキを使用しての旋回は行なわないでください。
* 中立位置が狂った場合は，操舵モードを変更し，再度使用したいモードに戻して，ハンドルを操作すれば，正常位置に復帰します。戻らない場合は，運転を中止して販売店に連絡してください。

ハンドルを回す方向と前後タイヤの動きをよく確認してください。

タイヤの動き

操舵切換えスイッチ	ハンドルを回す方向	
	右回転	左回転
FWS		
RWS		
4WS		
クラブ		

操舵切換えスイッチの使い方

○印 使用可能　×印 使用不可

操舵切換えスイッチ	ほ場内		ほ場外	
	副変速			
	作業	走行	作業	走行
FWS	○	○	○	○
RWS	○	○	×	×
4WS	○	×	×	×
クラブ	○	×	×	×

補 足

* ほ場内で枕地旋回以外の前進で作業するときは**"FWS"**でハンドル操作をしてください。
* **"RWS"**はほ場内で後進するときだけ使用してください。
* **"RWS""クラブ"**はほ場以外での作業機の取付け，納屋での幅寄せなどにも使えます。
* ほ場以外で止むを得ずFWS以外を使用するときは副変速レバーは**"作業"**にしエンジン回転を下げて，主変速レバーを操作し低速で使用してください。
* 旋回は4WSと主変速（グライドシフト）を使用すれば，作物を痛めるのを少なくし，隣接ターンも簡単に行なえます。

坂道での運転

* ブレーキペダルの連結及びデフロックの解除を確認してください。
* 坂道では主変速を中立にしたり，クラッチを切ったりして惰性で走行しないでください。
  ▶ 惰性運転をすると，スピードが出すぎて制動不能や，転倒事故を引起こすおそれがあります。
* グライドシフトは，油圧ミッションのため，エンジンブレーキがききにくくなります。下り坂は副変速を低速にして十分スピードをおとして走行してください。スピードをさらにおとす必要があるときはクラッチを踏まず，主変速(グライドシフト)レバーで減速してください。

1. 坂道状況に応じた安全なスピードで，エンジンにできるだけ負担をかけないように走行しましょう。
2. 登り坂ではノッキングさせないように早めに遅い変速位置にしましょう。
3. 下り坂ではエンジンブレーキを活用しましょう。車速を下げるほどエンジンブレーキはよくききます。

ほ場への出入り時の注意

* 左右のブレーキペダルは，必ず“連結”しておいてください。
* ほ場への出入りは，高低差が大きいと危険です。アユミ板などを利用してください。
* ほ場への出入りは，あぜと直角に行なってください。
* ほ場への出入りの際は，あらかじめ遅い車速で運転し，途中で変速しないでください。
* グライドシフトは，油圧ミッションのため，エンジンブレーキがききにくくなります。下り坂は副変速を低速にして十分スピードをおとして走行してください。スピードをさらにおとす必要があるときはクラッチを踏まず，主変速(グライドシフト)レバーで減速してください。
* “4WS”，“クラブ”での運転は転倒のおそれがあります。使わないでください。

1. 作業機を下げて進むと，前輪が浮き上がりません。常に前・後輪のバランスを考えながら操作してください。
2. あぜを上がるとき，４輪駆動の特色を生かして，バックで上がると格段に上がる能力が増します。

走行中の注意

警　告

* この乗用管理機は道路運送車両法の小型特殊自動車に該当しません。乗用管理機で公道を走行すると道路運送車両法に違反します。公道を移動するときはトラックに積んで運搬してください。

注　意

* 走行するときは，左右のブレーキペダルを必ず連結してください。(連結ボルトは外さないでください)連結しないと，ブレーキが片ぎきになり，車体が急旋回して，転倒・転落・衝突などの事故を引起こすおそれがあります。
* 乗用管理機を発進するときは前後左右をよく確認し，付近に人(特に子供)を近づけないでください。また，防護フレームに当たる障害物がないかも確認してください。
* 子供はもちろん，運転者以外の人を乗せて乗用管理機を運転しないでください。また，必ずシートに座って運転してください。
* 溝や穴の近く，路肩など乗用管理機の重みでくずれやすい所では運転しないでください。転落事故のおそれがあります。
* 急な坂道の傾斜地登坂はバックで行うか，作業機をできるだけ下げ，転倒防止に心がけてください。
* 負荷の大きい場合には徐々に発進し，乗用管理機が後へ転倒しないように注意してください。
* 高速で旋回すると，横転するおそれがあります。必ずスピードを落としてゆっくりと回ってください。
* 運転席足元に空缶，部品などの物を置くとブレーキペダルやクラッチペダルの下にはさまりブレーキ操作，クラッチ操作ができなくなり危険です。
* 走行はFWS(前輪操舵)以外を使用しないでください。急旋回で横転や転落のおそれがあります。
* 防除機装着時は，頭上の障害物や，前後左右の障害物に十分注意し低速で運転してください。
* タンク内に薬液を入れたまま運転すると，薬液のゆれにより思わぬ方向に機体が揺れたり傾いたりするおそれがあります。移動をするときはタンク内を空にして移動してください。
* 走行時には水平切換スイッチを必ず“切”にして走行してください。

トラックへの積み・降ろし

注　意

* 左右のブレーキペダルは，必ず“連結”してください。(連結ボルトは外さないでください)
* アユミ板は，十分な強度・幅・長さ(傾斜が15度以下になる長さ：トラック荷台高さの4倍以上)のあるすべり止め付きのものを使用し，乗用管理機の重量でアユミ板が傾いたりしない場所を選んでください。
* 積み・降ろしはあらかじめ遅い車速で運転し，途中での変速はしないでください。
* トラックへの積み・降ろしは，登りは後進，下りは前進で行なってください。
* トラックは必ず駐車ブレーキを掛け，タイヤに車止めをしてください。
* 積み・降ろしは平坦な場所で行なってください。
* 車体をトラックの荷台に，ゆるまない様にしっかり固定してください。
* 乗用管理機は積込み後必ず駐車ブレーキを掛けてください。
* トラックの積み・降ろしは必ず“FWS”で行なってください。
“4WS・RWS・クラブ”で操舵すると転落のおそれがあり大変危険です。
* 防除タンクを搭載しているときは，タンク内を空にしてください。
* 防除機のブームは必ず，外してください。
* 必ず前輪駆動レバーを“入”にしてください。

ステアリングの取扱い

注 意

＊ ステアリングはエンジン運転中，ハンドル操作が大変軽くなりますので，走行は慎重に行なってください。

重 要

＊ パワーステアリングは，エンジン運転中だけ作動します。
ただし，エンジン回転が低速のときは多少ハンドルが重くなります。
なお，エンジン停止時は，ハンドルの遊びが大きくなりますが，機能上問題はありません。

＊ 乗用管理機を止めたままハンドルを操作すると，途中重くなることがあります。このときは，低速で乗用管理機を移動させながらハンドルを操作してください。

＊ ハンドルをいっぱい切ると，安全弁の作動音(リリーフ音) が出ます。この音が鳴ったまま使用しないでください。(短い時間ではかまいません。)
また，ハンドルのフル回転状態での連続使用は，できるだけ避けてください。

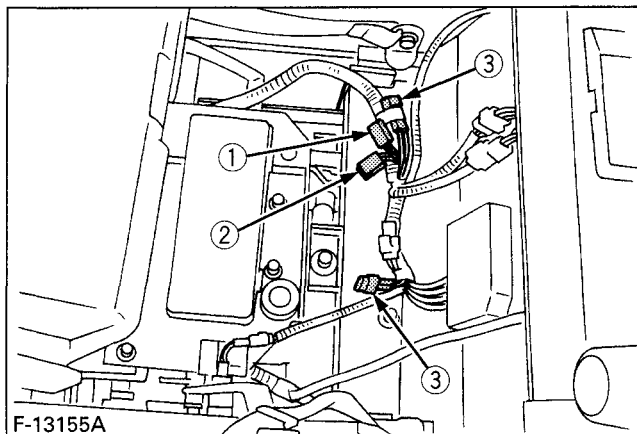
＊ 不必要なハンドルのスエ切り(走行しないでハンドルを切る)は，タイヤ及びリムなどの損耗を早めるので避けてください。

＊ 冬期は暖機運転を十分行なってから使用してください。

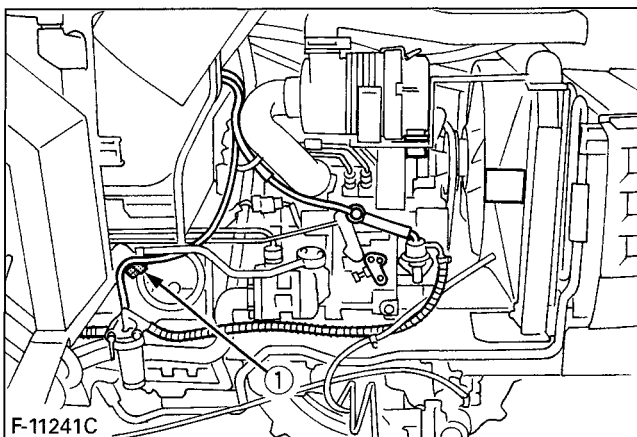
＊ 発進前に，必ずハンドルを左右に回してください。この時，左右両端でハンドルが重い場合は，数回ハンドル操作をすると軽くなります。これは異常ではありません。

外部電源取出端子

■作業灯用カプラ，インプルメント用カプラ

作業灯またはインプルメントを使用するときは，シート後部にカプラがあります。

①作業灯用カプラ(10A)……白色
②インプルメント用カプラ(20A)……黒色
③少量散布防除機用カプラ(信号取出し)

防除機装着時のカプラ取出

防除機を使用するときは，右側面にカプラがあります。

①防除機用カプラ(20A)

(KBM-410D防除機使用の場合は防除機の取扱説明書を参照してください。)

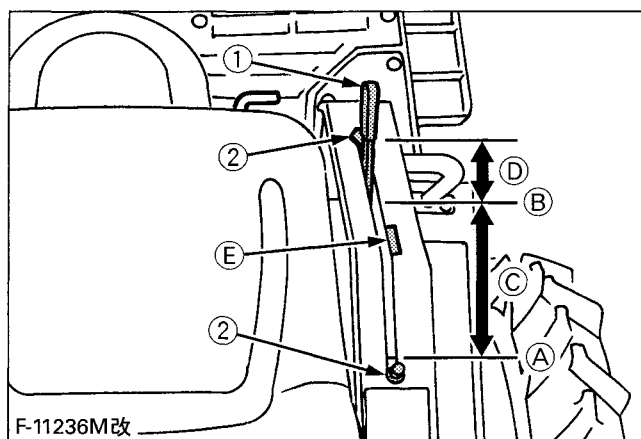
油圧・4点リンク・PTO

油圧

油圧装置は，クラッチの断続に関係なくエンジン回転中は常に作動します。

■油圧(ポジションコントロール)レバー

油圧レバーは，油圧によって作業機を上下させる装置で，
レバーを後方に引く……作業機が上昇する。
レバーを前方に倒す……作業機が下降する。

	レバー位置	作業機	作業機の位置
ポジション範囲	下げ方向に移動させる	下がる	この範囲では，作業機を任意の位置にセット・保持できます。
	上げ方向に移動させる	上がる	
フローティング範囲	下げ位置	下がる	この範囲では，作業機はいっぱいまで下がります。

①油圧レバー
②レバーストッパ
Ⓐ"上がる"
Ⓑ"下がる"
Ⓒ"ポジション範囲"
Ⓓ"フローティング範囲"
Ⓔ"防除タンクセット位置"

■レバーストッパ(下降側)の使い方

❶油圧レバーで，希望する作業位置を決めます。
❷その位置にレバーストッパを固定します。
❸その後は，油圧レバーをレバーストッパに当るまで動かすことにより，同一の作業位置が得られます。

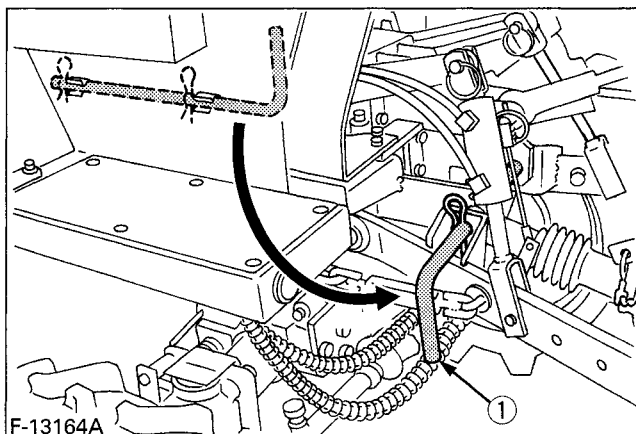
■レバーストッパ(上昇側)の使い方

レバーストッパ(上昇側)は作業機の最上昇位置を規制したい場合のみ調整します。(標準位置は最後方位置)
❶油圧レバーで，希望する最上昇位置を決めます。
❷その位置にレバーストッパ(上昇側)を固定します。

重 要

* レバーストッパ(上昇側)は，外さないでください。外すと油圧システムに故障が生じるおそれがあります。

■防除機セット時の固定位置

防除機のタンクを搭載したときはロアーリンクの **"ロックバー"** を取付後，上下のレバーストッパを油圧レバーの前後で締付け，油圧レバーを固定してください。

①ロックバー

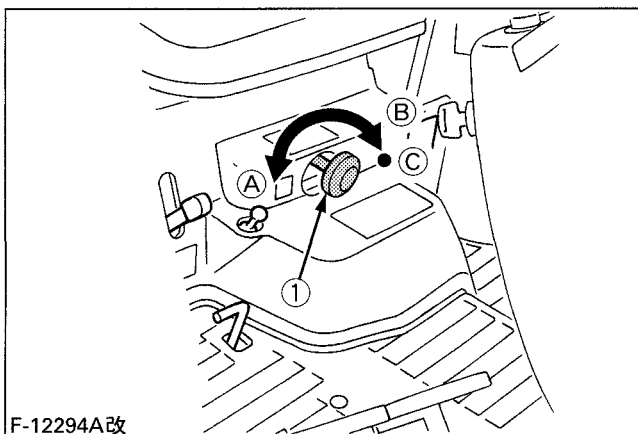
注 意

* **防除機のタンクを搭載したときはロアーリンクにロックバーを取付けた後，必ず油圧レバーをレバーストッパで固定してください。**
  固定せず，油圧レバーを操作するとタンクが上下し，ケガや，破損の原因になります。
* **防除タンクを取外したときはレバーストッパを前後両端の位置に戻してください。**

■作業機落下速度の調整

 注 意

＊ロータリなど作業機を点検する場合は，必ず落下速度調整グリップで，作業機が落下しないようにロックしてください。
落下速度調整グリップでロックした後，油圧レバーを"前方に倒して"，作業機が落下しないことを必ず確認してください。

落下速度調整グリップを回すことにより作業機落下速度が調整できます。

①落下速度調整グリップ　Ⓐ"速い"
Ⓑ"遅い"
Ⓒ"停止"

"速い"方向に回す：油圧回路が開き，作業機の落下速度が早くなります。
"遅い"方向に回す：油圧回路が閉じ，作業機の落下速度が遅くなります。
(**"停止"**方向に軽く締込むと，油圧がロック(停止)します。)

作業機の落下速度は，上昇位置から接地するまで２～３秒が適当です。

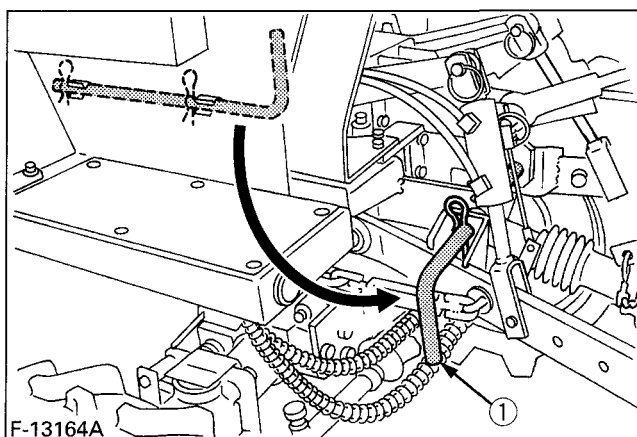
重 要

＊グリップは軽く回すだけで油圧がロックされますから無理に回さないでください。

◆ 油圧ロックの取扱い

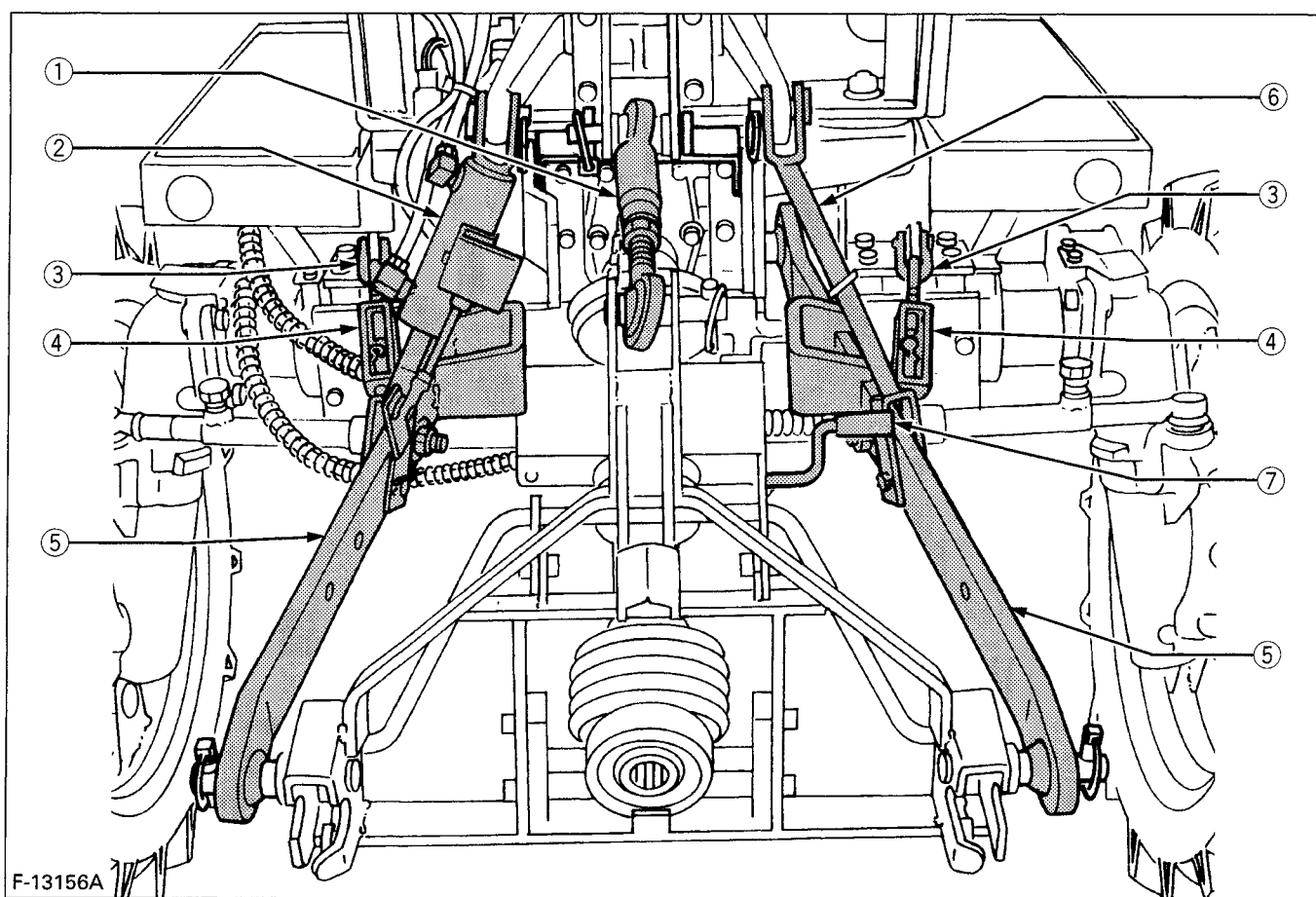
1. 乗用管理機の格納は，作業機を降ろした状態にして保管してください。
2. 作業機を上げた状態で保管する場合は，次の要領で行なってください。
作業機を上げた状態で長時間保管すると，油圧ロックをしていても下降することがあります。
❶エンジンをかけた状態で落下速度調整レバーを油圧が停止する側に回して，軽く締込んでください。
❷油圧レバーを**"前方に倒して"**ください。
（このとき，作業機が下がらないことを確認してください。）
❸エンジンを停止してください。

■作業機落下の防止

防除タンクを装着して作業するときは油圧の自然落下や、油圧レバーに不意に触れロアーリンクが動くのを防止するため**"ロックバー"**を取付けてください。

①ロックバー

 注 意

＊防除タンク装着時は，油圧の自然落下や，ロアーリンクが動くのを防止するため"ロックバー"を取付けてください。
＊防除タンク装着時は，落下速度調整グリップは必ず"停止"する側に回して軽く締込んでください。
＊防除タンク装着時は"油圧レバー"は"ロックバー"取付け後，必ずストッパで固定してください。
＊防除タンク装着時は，左右の水平を確認した後，モンローマチックの水平切換スイッチは必ず切(手動)の位置にしてください。
＊防除タンク装着時は，モンローマチックの角度調節ダイヤルはさわらないでください。
上記の事項を守らない場合，タンクが動きケガや破損のおそれがあります。

特殊４点リンク

①トップリンク
②リフトシリンダ(リフトロッド左)
③チェックチェーン
④ターンバックル
⑤ロアーリンク
⑥リフトロッド右
⑦着脱レバー

1.インプルメント取付け前の準備

■トップリンクの調整

特殊4点リンクのトップリンクは調整しないでください。作業機の脱着ができなくなることがあります。

2.作業機の着脱

■特殊4点リンク用作業機の着脱（防除機を除く）

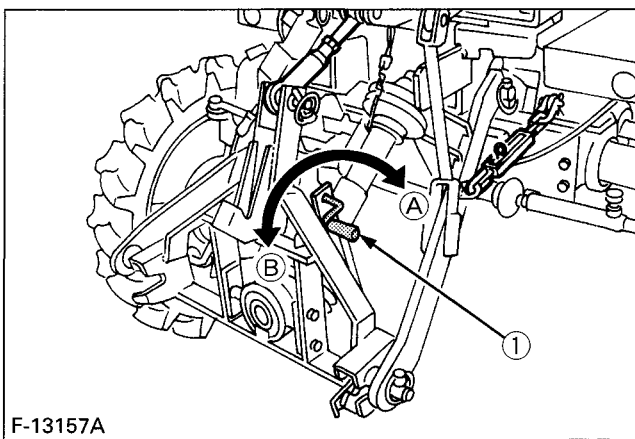
警告

＊ PTOスプラインを合わすときは、作業機のロータリ爪先端が地上より300㎜以上浮いた状態でPTOレバーを入れてください。作業機を300㎜以上浮かさないでスプライン合わせをすると、地面に回転している爪が当り機体が飛び出し衝突する危険があります。
＊ 作業機の着脱は固い水平で平坦な場所で行なってください。
＊ 乗用管理機から降りるときは変速レバー類を“中立”(N)にし，必ず駐車ブレーキを掛け，エンジンを停止してください。
怠りますと，機体が思わぬ動きをして，傷害事故をおこすおそれがあります。
＊ 作業機の着脱時は，乗用管理機と作業機の間には入らないで，必ず横から作業をしてください。挟まれるおそれがあります。
＊ 作業機の着脱がうまく行かないときに，作業機を無理に押したり，ゆすったりしないでもう1度順序にしたがって作業してください。挟まれたり，衝突したり思わぬ事故を起すおそれがあります。
＊ 作業機の着脱時は，回りに人を近づけないでください。共同作業をするときは，合図をし意志を統一して行動してください。怠りますと，挟まれたり，巻込まれたりするおそれがあります。

◆取付け

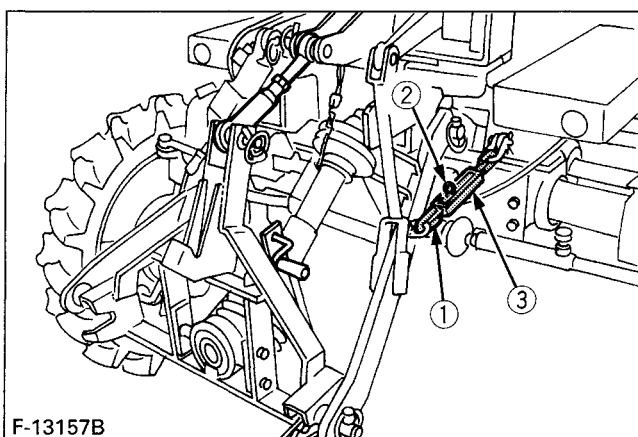
❶ 作業機側の姿勢を決める。(スタンドを取付ける。)トップマスト側がさきにすくえるよう作業機を前傾させる。
❷ 特殊4点リンクの着脱レバーを**“脱”**の位置にする。
❸ 乗用管理機を運転し特殊4点リンクのトップマストのすくい位置を合わす。
❹ 油圧レバーを操作し作業機を吊り上げる。
❺ PTOレバーを**“低”**に入れクラッチを入れる。
❻ スプラインが合ったらPTOレバーを**“中立”(N)**に戻す。
❼ 着脱レバーを**“着”**に入れる。
❽ 作業機のスタンドを格納する。

◆取外し

❶ 作業機のスタンドを取付ける。
❷ 着脱レバーを**“脱”**にする。
❸ 乗用管理機のエンジンを始動し油圧レバーを下げにする。
❹ 乗用管理機を低速でゆっくり前進させる。
❺ 防除機の取付け，取外しは防除機に付属している組立・取扱説明書に従ってください。
❻ 防除機の取付け後は，GR16取扱説明書に記載している防除機搭載時の警告・注意の項を必ず守ってください。

①着脱レバー　Ⓐ“着”
Ⓑ“脱”

■チェックチェーン

ターンバックルを回して，作業機の横振れを制限してください。
調整後はスナップピンでターンバックルを固定してください。

作　業　機	チェーンの張り具合
防除機	機体の中心を合わせ左右を振り分けしっかりしめる。
ロータリ，カルチベータ	２～３㎝動くように軽く締める

①チェックチェーン
②スナップピン
③ターンバックル

PTO

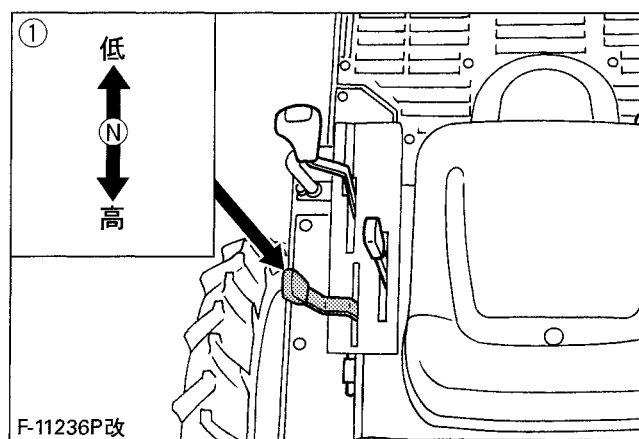
■PTO変速レバー

注 意

＊ 作業機に指定されたPTO回転速度を厳守してください。
低速回転で使用すべき作業機を，高速回転で使用しないでください。

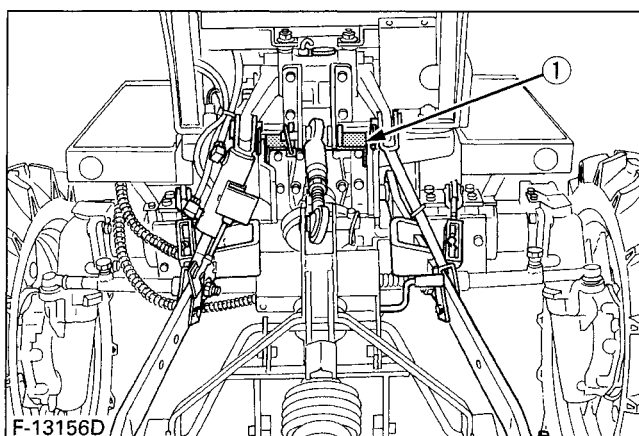
PTO軸(動力取出し軸)の回転速度を，正転２段階に変速できます。
変速操作時は，必ず主クラッチを切ってから行なってください。

①PTO変速レバー　　Ⓝ“中立”

重 要

＊ メーカ指定以外の作業機を使用しないでください。故障の原因になります。

■PTO軸カバー

注 意

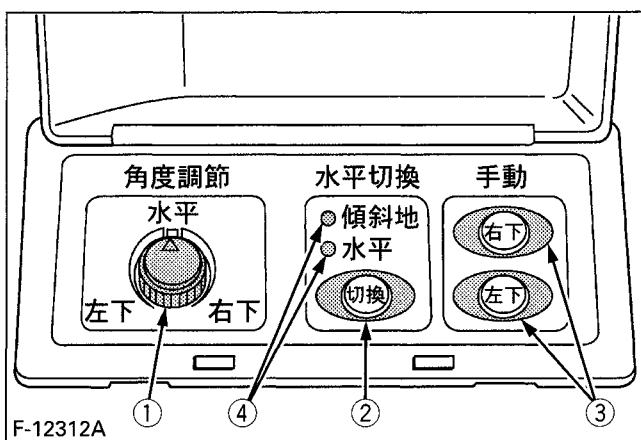
＊ PTO軸カバーは常に取付けておいてください。
＊ PTO軸カバーの上に乗らないでください。

①PTO軸カバー

モンローマチック

モンローマチックはマイクロコンピュータで電子制御を行なっております。正しい取扱いですぐれた性能を発揮させてください。

スイッチの名称

重 要

＊スイッチですので軽い操作力で作動します。無理な力を加えないでください。

①角度調節ダイヤル
②水平切換スイッチ
③手動スイッチ
④スイッチランプ

モンローマチックの使い方

■水平切換スイッチ

 警 告

＊防除タンクを搭載しているときは左右の水平を確認した後，必ず"手動"にしてください。

＊防除タンク搭載時は落下速度調整グリップ，油圧レバーをロックして油圧が働かないようにしてください。
又，ロックバーも必ず取付けてください。
怠りますと破損や損傷事故を起こすおそれがあります。

 注 意

＊走行時は必ず"切"にして走行してください。
また，落下速度調整グリップを回して油圧をロックし作業機の落下を防止してください。

スイッチを押す毎に**"水平➡傾斜地➡切(手動)"**の順に切り換わります。
下記作業に応じ，いずれかを選択してください。
水平選択時…スイッチランプ(A)点灯
傾斜地選択時…スイッチランプ(B)点灯
切(手動)選択時…スイッチランプ(A・B)消灯

①水平切換スイッチ　Ⓐスイッチランプ(A)
Ⓑスイッチランプ(B)

◆水平

乗用管理機の傾きにかかわらず作業機を常に水平または地面に対し一定の角度に保ちたいとき使用します。

1. 角度調節ダイヤルが**"水平"**位置の場合
   (作業機は常に水平に保たれます。)
   ＊適応作業：水平な畑の管理作業等
2. 角度調節ダイヤルが**"水平"**位置以外の場合
   (作業機は水平面に対して常に一定の角度に保たれます。)

◆傾斜地

傾斜のあるほ場で，作業機を常にほ場面と平行に保ちたいとき使用します。

＊適応作業：傾斜のある畑の管理作業

補 足

＊水平切換スイッチが**"傾斜地"**の場合，作業機を上端付近まで上げたときは，作業機の姿勢は本機に平行に保持されます。

＊**"傾斜地"**選択時，凹凸の激しいほ場で十分な精度が得られない場合は，**"切"**(手動)で使用してください。

＊**"傾斜地"**選択時，斜面と作業機の傾きの差が著しく大きいときは，手動スイッチにより，傾きの差が小さくなるように補正できます。

- 乗用管理機が水平状態にあるときは調整できません。
- 調整幅いっぱいまで動かしても傾きの差が大きいときは，**"切"**又は**"水平"**で使用してください。
- エンジンを再始動すると，補正量は標準値に戻ります。
  (乗用管理機では，**"切"(手動)**で車体と作業機が平行の方がうまく作業できる場合が大半)

◆切(手動)

モンローマチックの自動制御が解除され，**位置制御**になります。

＊適応作業：防除作業は必ず**"切"**(手動)

：軟らかいほ場での中耕培土・作業機の脱着

＊その場合は必ず，車体と作業機を水平方向に対し，平行にしてください。

補 足

＊水平切換スイッチが**"切"**(手動)では，作業機を上端付近まで上げても，本機と平行の場合を除き作業機の姿勢は本機と平行にはなりません。

従って，取付けている作業機を上げるときは注意してください。

＊**位置制御**とは：

このモードは，常にリフトシリンダの位置を一定に保ちたい場合に使用します。

水平切換スイッチを**"切"**(手動)にすると，リフトシリンダの長さを**"手動"**スイッチで設定した長さに制御します。したがって，車体が傾いても長さは，変化しません。

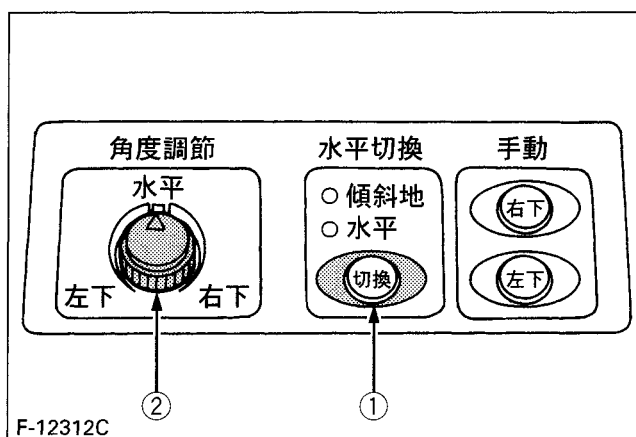
重 要

＊モンローマチックが不要の場合には，**"切"**で作業してください。

＊**"手動"**で作業機を傾斜させているとき，作業機を上端に上げると，ジョイント騒音が高くなる場合がありますので注意してください。

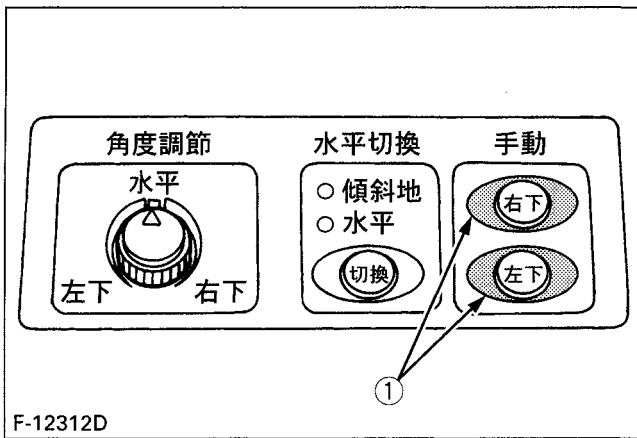
＊チェックチェーンを張りすぎますと，モンローマチック作動時に三点リンクに無理な力が加わりますので，チェックチェーンは手で軽く締める程度にしてください。(防除機搭載時を除く)

■角度調節ダイヤル

水平切換スイッチが**"水平"**の場合，作業機の姿勢を調節するときに角度調節ダイヤルを使用します。

①水平切換スイッチ
②角度調節ダイヤル

1. ダイヤルを**"水平"**位置にすると，作業機は水平に保持されます。
2. ダイヤルを**"左下"**方向に回すと，作業機が左下りに保持されます。
3. ダイヤルを**"右下"**方向に回すと，作業機が右下りに保持されます。

■手動スイッチ

作業機の姿勢を調節するときに使用します。
水平切換スイッチの選択状態により，スイッチの働きが変わります。

①手動スイッチ

◆水平切換スイッチが“切”(手動)のとき

“左下・右下”：作業機を乗用管理機に対して傾けて使用したいときに使用します。作業機はスイッチから手を離した任意の角度に保持されます。同時に押すと作業機が車軸と平行になります。

◆水平切換スイッチが“水平”のとき

“左下・右下”：作業機を水平に対して傾けて使用したいときに使用します。作業機はスイッチを押している間，押している側へ傾きを増し，スイッチから手を離すと角度調節ダイヤルで定めた位置に戻ります。

◆水平切換スイッチが“傾斜地”のとき

“左下・右下”：斜面に対し作業機の傾きの差を補正したいときに使用します。

補　足

＊中耕培土作業で水平切換を**“水平”**や**“傾斜地”**ではうまく作業ができないときは，水平切換スイッチを**“切”(手動)**にし，作業機を本機と平行(車軸と平行)にしてください。

＊ほ場が軟弱でロータリの深さ調節ができない場合は上記設定のうえ，油圧レバー(ポジションレバー)で作業深さを調節してください。浅めにするとうまくいく場合が多いです。

■故障・異常の表示

水平制御の部品に異常が発生した場合は，水平切換スイッチ部のスイッチランプ(２個)が点滅します。この場合，安全のため機能の一部が働かなくなります。

◆緊急時の対応方法

● 作業機の傾け方
水平切換を**“切”**(手動)にし**“左下・右下”**スイッチで作業機を傾けます。

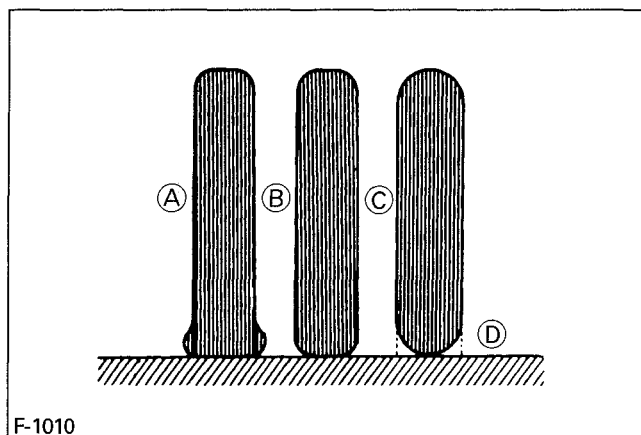
タイヤ

タイヤ

警 告

＊ タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引き起こす原因になります。
＊ タイヤに傷があり，その傷がコード(糸)に達している場合は，使用しないでください。
タイヤ破裂のおそれがあります。
＊ タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。
(特別教育を受けた人が行うように，法で決められています。)

■タイヤの空気圧

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。外観から判断する目安は次のとおりです。

Ⓐ空気が不足
Ⓑ標準
Ⓒ空気が多い
Ⓓ接地面

◆標準空気圧

	タイヤ	空気圧　kPa(kgf/㎠)
前輪	130/90-21AG	400(4.00)
後輪	130/90-21AG	400(4.00)

輪　距

■輪距

輪距は出荷時GR16-60：1190㎜(C―1)
GR16-75：1250㎜(C―1)
にセットしています。

■輪距調整

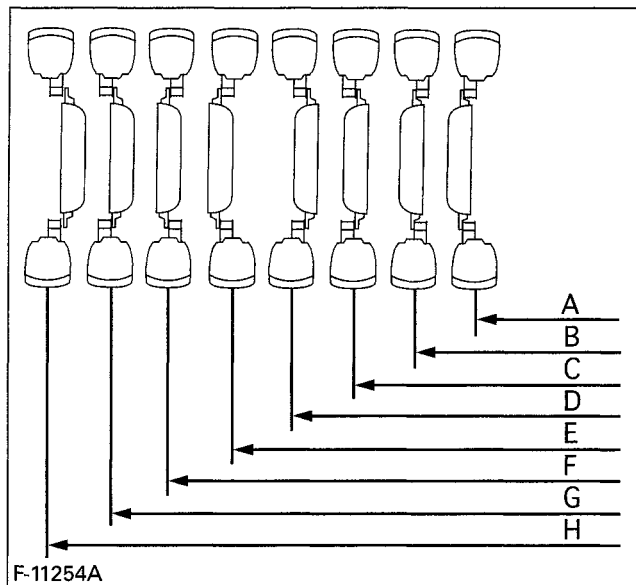
警　告

* 輪距の調整は，平坦な広い場所で行なってください。怠ると機体が動き転倒事故などの危険があります。
* 作業機を装着している場合は，取外してください。怠ると傷害事故を起こすおそれがあります。
* ジャッキアップする場合，エンジンを止めジャッキと乗用管理機の安定を確認してください。
  怠ると傷害事故を起こすおそれがあります。
* ジャッキアップをしていない側のタイヤには移動防止のため，タイヤ止めをつけてください。
  これを怠ると交換中に機体が動き傷害事故を起こすおそれがあります。
* 輪距の調整は左右，前後必ず同じ位置にしてください。
  異なった箇所で使用するとハンドル操作時，タイヤの中立点がくるい，思わぬ方向に車体が動き衝突，転落のおそれがあります。
* 調整後は，タイヤ，タイロッド固定ボルト，ラック固定金具など，ゆるめたボルトは確実に締め付けてください。
  怠ると転倒，転落，破損が発生するおそれがあります。

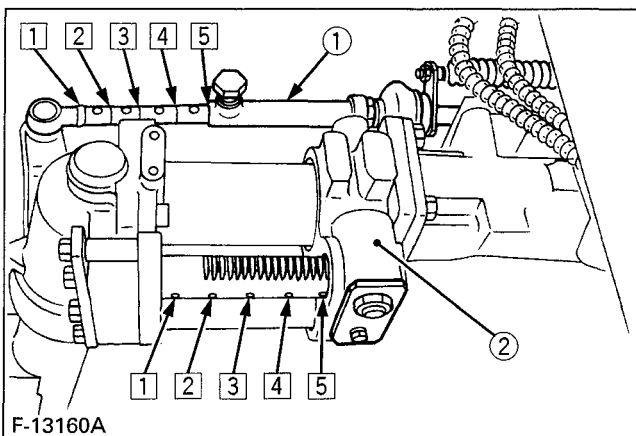
◆輪距組合せ表

下表の組合せの選択が可能です。作物の条間に合わせあらかじめ調整してから使用してください。
上段：GR16-60　下段：GR16-75

タイヤ調節位置	本機側輪距調節位置				
	1	2	3	4	5
A	1090	1160	1220	1280	1340
	使用不可	1220	1280	1340	1400
B	1140	1210	1270	1330	1390
	1200	1270	1330	1390	1450
C	1190	1260	1320	1380	1440
	1250	1320	1380	1440	1500
D	1240	1310	1370	1430	1490
	1300	1370	1430	1490	1550
E	―	―	―	1420	1480
	―	―	―	1480	1540
F	―	―	―	1470	1530
	―	―	―	1530	1590
G	使用不可				
H					

◆タイヤ調整位置

補　足

* B，D，Fを使用するときは左，右のタイヤを交換してください。
* タイヤは，側面の矢印が前進時の回転方向に合うように取付けてください。

◆本機側輪距調整位置

①タイロッド
②ラック

補　足

* 本機側は，車軸のラック・タイロッドで調整します。
  【詳細は，**“ラック・タイロッドの調整”**の項参照】

■ラック・タイロッドの調整

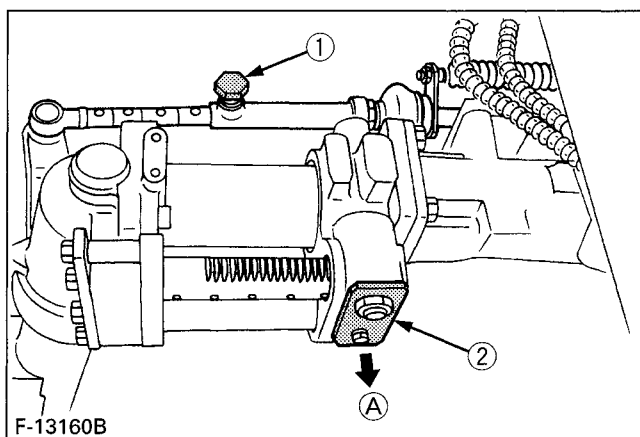
 警 告

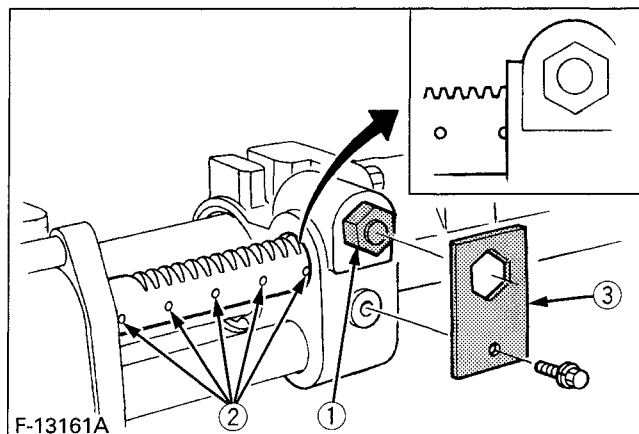
＊輪距の調整時，タイロッドホルダ・タイロッドジョイント・シリンダの間はさわらないでください。出荷時に設定しているトーインが狂いハンドル操作をすると乗用管理機が思わぬ方向に動き，転落，衝突など傷害事故を起こすおそれがあります。

＊タイロッドの固定ボルトは，ジャッキアップする前にゆるめてください。
輪距の調整後に締付けるときは，ジャッキアップした状態で位置を決め，仮締めをして，本締めはジャッキを外したあとに行なってください。
怠るとタイヤが動き挟まれるおそれがあります。

＊調整後はタイロッド固定ボルト，ラック固定金具は確実に締付け，固定してください。
怠ると運転中に輪距が変わり転落，衝突のおそれがあります。

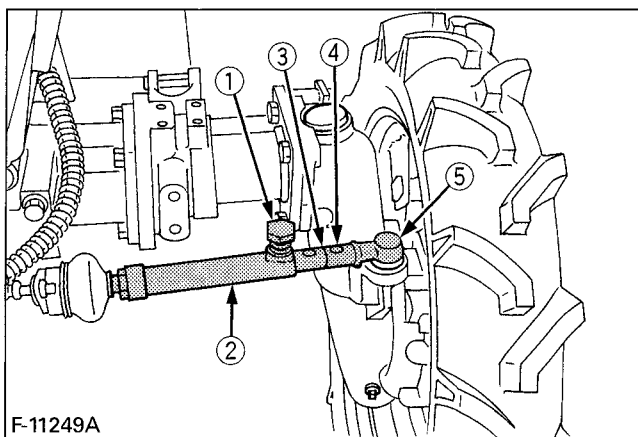
＊調整後は前輪後輪左右タイヤがそれぞれ平行になっているか確認してください。
平行になっていない場合は，ラックとタイロッドの固定位置が異なっています。
この様な状態で使用すると車体が思わぬ方向に動き，転落，衝突事故を起こすおそれがあります。

❶タイロッドの固定ボルトをゆるめます。
❷ジャッキアップします。
❸ラックの固定金具を外します。

①固定ボルト　　Ⓐ"外す"
②固定金具

❹輪距組合せ表に従って，ラックの目盛り（座ぐり）1～5のいずれかとケースの端面が合うように，伸縮ナットをスパナで回して調整してください。
❺固定金具を固定します。

①伸縮ナット
②目盛り
③固定金具

＊ケース端面と座ぐりの中心の合う位置が伸縮ナットに固定金具を固定できる位置です。

❻ラックの目盛りと同じ位置にあたるタイロッドの目盛り（線）に，タイロッドの端を合わせ，座ぐりにはまる位置で固定ボルトを仮締めします。

①固定ボルト　　④座ぐり
②タイロッドホルダ　　⑤タイロッド
③線

❼ジャッキを外しタイロッドの固定ボルトを締付けます。
❽調整終了後は，前後４輪の位置，平行が合っていることを確認してください。
❾輪距，タイヤの平行を確認した後，乗用管理機のエンジンを始動し各変速が**"中立"（N）**の状態でハンドルの操舵モードを**"FWS"**，**"RWS"**に入れ後輪，前輪の中立点（タイヤが機体の前進方向に平行）が狂っていないか確認してください。狂っているときは左右どちらかのラック，タイロッドの固定位置が異なっています。再度調整してください。
❿輪距を広げた場合は，前車軸，ミッションケースの油量を給油（水）一覧表及び点検の項を参照し補充してください。

乗用管理機の簡単な手入れと処置

注 意

＊給油及び点検整備するときは
❶乗用管理機を平たんな広い場所に置き
❷作業機を降ろし
❸駐車ブレーキをかけ
❹エンジンを止め
❺キーを抜き，安全を確認してから行なってください。
そうしないと傷害事故を引起すおそれがあります。

廃棄物の処理について

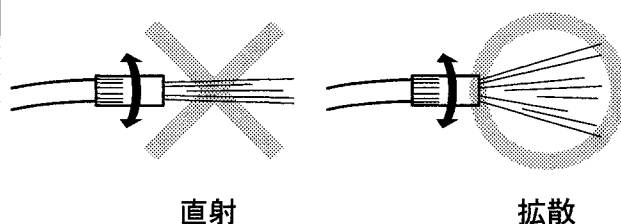
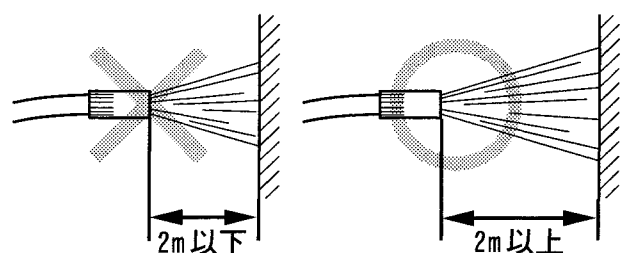
警 告

廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは
＊機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
＊地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
＊廃油，燃料，冷却水(不凍液)，冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者等に相談して，所定の規則に従って処理してください。

洗車時の注意

高圧洗車機の使用方法を誤ると人を怪我させたり，機械を破損・損傷・故障させることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って，正しく使用してください。

注 意

機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし，2m以上離して洗車してください。
もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，
＊電気配線部被覆の損傷・断線により，火災を引き起こすおそれがあります。
＊油圧ホースの破損により，高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。
＊機械の破損・損傷・故障の原因になります。
例)(1)シール・ラベルの剥がれ
(2)電子部品，エンジン・トランスミッション室内，安全キャブ室内等への浸入による故障
(3)タイヤ，オイルシール等のゴム類，樹脂類，ガラス等の破損
(4)塗装，メッキ面の皮膜剥がれ

定期点検箇所一覧表 〔専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは，購入先にご相談ください。〕

次の定期点検箇所に従って，定期点検を実施しましょう。

No.	項目	時期	アワーメータ表示時間																それ以後	参照ページ
			50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800		
1	エンジンオイル 年間使用時間が100時間以上の場合	交換	◎	○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	49
	エンジンオイル 年間使用時間が100時間以内の場合	交換																	1年ごと	49
2	エンジンオイルフイルタ	交換	◎			○				○				○				○	200時間ごと	53
3	ミッションオイル	交換	◎					○						○					300時間ごと	55
4	油圧オイルフイルタ	交換	◎			○				○				○				○	200時間ごと	54
5	油圧ミッションオイルフイルタ	交換	◎			○				○				○				○	200時間ごと	54
6	フロントギヤーケースオイル	交換	◎					○						○					300時間ごと	56
7	前車軸ケースオイル	交換						○						○					300時間ごと	56
8	グリースの注入	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	45
9	エンジン始動システム	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	46
10	操舵切換センサ用ワイヤ	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	46
11	タイヤ取付けボルト	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	48
12	ワイヤハーネス，バッテリコード	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	48
13	中点設定	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	47
14	クラッチハウジング	水抜き	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	47
15	パワーステアリングホース	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	47
		交換																	2年ごと	59
16	燃料パイプ	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	48
		交換																	2年ごと	59
17	操向用油圧シリンダ	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	49
18	油圧ミッションホース	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	49
		交換																	2年ごと	59
19	バッテリ電解液	点検		○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	50
20	エアクリーナエレメント シングルエレメント	清掃		○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	51
		交換																	1年又は6回清掃ごと	57
21	エアクリーナエレメント ダブルエレメント【オプション】 アウター	清掃		○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	51
	アウター	交換																	1年又は6回清掃ごと	57
	インナー	交換																	アウター交換時	57
22	ファンベルト	調節		○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	52
23	クラッチペダル	調節	◎	○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	52
24	ブレーキペダル	調節		○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	53
25	トーイン・タイロッド	点検				○				○				○				○	200時間ごと	54
26	ラジエータホース	点検				○				○				○				○	200時間ごと	55
		交換																	2年ごと	59
27	燃料フイルタ	交換								○								○	400時間ごと	57
28	前部デフケース前後遊び	調節												○					600時間ごと	57
29	エンジンバルブクリアランス	調節																○	800時間ごと	57
30	ラジエータ	洗浄																	2年ごと	59
31	冷却水	交換																	2年ごと	58
32	モンローシリンダホース	交換																	2年ごと	59
33	燃料系統の空気抜き	—																	必要に応じて	59
34	ヒューズ類	交換																	必要に応じて	60
35	ランプ類	交換																	必要に応じて	60

【注】◎はならし運転の50時間後に必ず行なってください。

バッテリ電解液は年間使用時間が100時間以内の場合，1年ごとに点検を行なってください。

給油(水)一覧表

給油（水）項目	容量（L）		使用オイル
	GR16-60	GR16-75	
燃料	20		ディーゼル軽油
冷却水（ラジエータ）	3.1		清水又はクボタ不凍液（50%）
冷却水（リザーブタンク）	0.6		
エンジンオイル	2.8 （オイルゲージ上限全量，フィルタ部も含む。）		クボタ純オイル（ディーゼルエンジン用） D30又はD10W30
※ミッションオイル	18	19	クボタ純オイル スーパーUDT　又は バイオスーパーUDT
フロントギヤーケースオイル	2.3		
※前車軸ケース	4.0	5.0	
グリースの注入 ・クラッチペダル ・ブレーキペダル	少量		シャーシグリース
グリースの塗布 ・ラック ・関接球 ・チェックチェーン ・トップリンク ・バッテリターミナル	塗布		

※は出荷時の油量です。輪距組合せ表の5で常時使用する場合は，ミッションオイルは1L，前車軸ケースオイルは0.5L足してください。

推奨オイル・グリース一覧表

必ず下表の指定オイルを使ってください。

■エンジンオイル・ミッションオイル

メーカ	エンジンオイル	ミッションオイル フロントギヤーケースオイル 前車軸ケースオイル
新日本石油	クボタ純オイル （ディーゼルエンジン用） D30又はD10W30	クボタ純オイル スーパーUDT　又は バイオスーパーUDT
コスモ石油		
ジャパンエナジー		
昭和シェル石油		
富士興産		

■グリース

メーカ	グリース	
	シャーシグリース	ホイールベアリンググリース
新日本石油	エピノックグリースAP№2	PAN WBグリース
コスモ石油	ダイナマックスEP№2	ロードマスター№2
ジャパンエナジー	リゾニックスグリースEP№2	リゾニックスグリース№2
昭和シェル石油	レチナックスCD	サンライトグリース№2
モービル石油	プレックス47	モービルグリースJL
エッソ石油	シャーシグリースL	リスタンWB2
出光興産	シャーシグリース	アポロイルオートレックスA
ゼネラル石油	シャーシグリース№2	WBグリース№2
キグナス石油	シャーシグリース№2	MPグリース№2

ボンネットの開閉及びサイドカバーの外し方

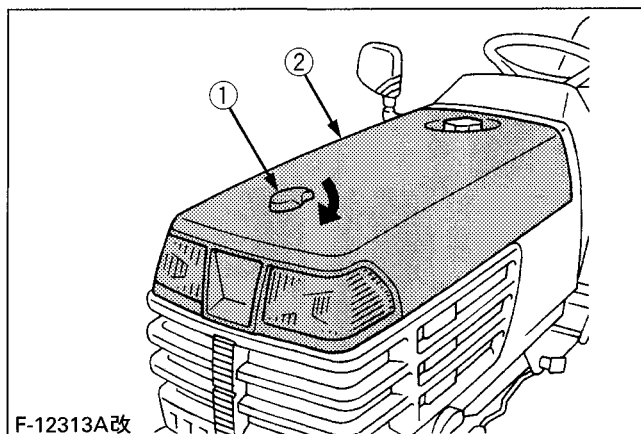
注 意

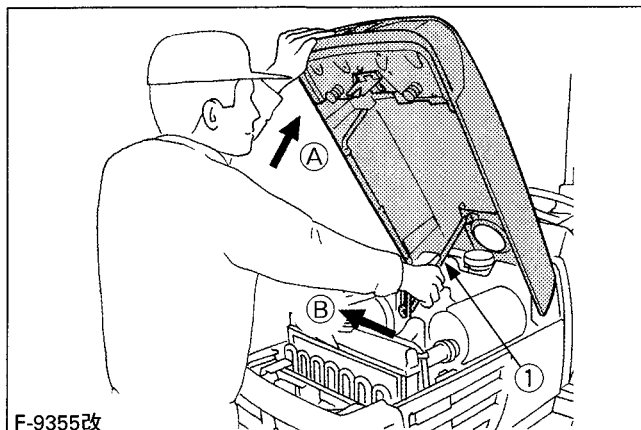
* エンジン回転中は絶対にボンネットを開けないでください。
* マフラが熱いときさわらないでください。ヤケドすることがあります。

■ボンネットの開閉

注 意

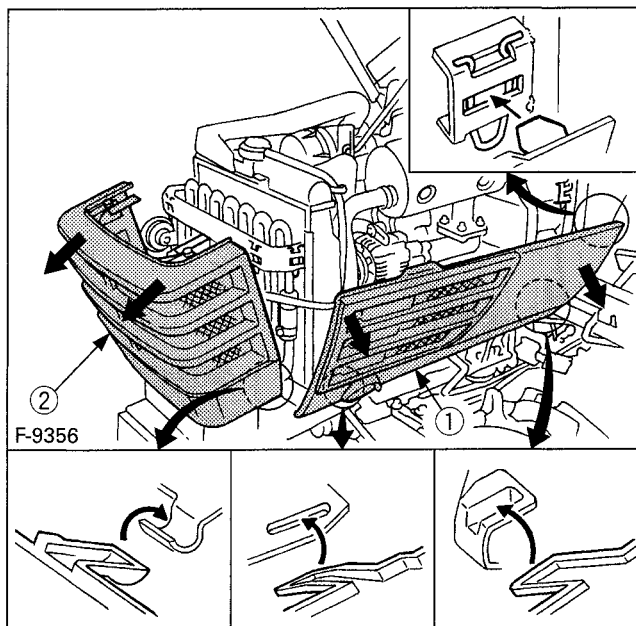
* ボンネットを開き点検・調整するときは，必ずボンネット固定金具が“ロック”されたか確認してから作業をしてください。

❶ボンネットを開けるときは，マスコットを“矢印”の方向に回すとロックが外れ，ボンネットの先端を持ち上げると開きます。

①マスコット
②ボンネット

❷ボンネットを閉めるときは，ボンネット固定金具を手前に引き“解除”してから閉じてください。

①ボンネット固定金具　Ⓐ“ささえる”
Ⓑ“引く”

■フロントグリル及びサイドカバーの外し方

❶カバーの矢印部を外側に引くとカバーは外れます。

❷カバーを取付けるときは，カバー下側のノッチ部を合わせ，矢印部を内側に押し取付けてください。

①サイドカバー
②フロントグリル

日常点検

注 意

* 火気厳禁
* 点検をするときは，必ず作業機を降ろしエンジンを停止してから行なってください。
* 燃料・オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
* 乗用管理機は常に清掃しておいてください。
  バッテリ，配線，マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると，火災の原因になります。
* 運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が吹き出してヤケドをすることがあります。
* エンジン周囲のカバー類を開けて点検・整備するときは，内部が十分に冷え，ヤケドのおそれがないことを確認してから行なってください。

1.前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば，使用前に支障がないか点検してください。

2.乗用管理機の回りを歩いて

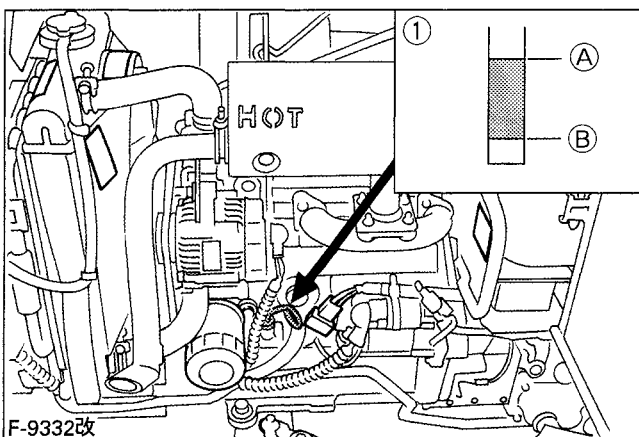
1. ボルトやナットのゆるみ及び作業機取付けピンの脱落
2. 車体各部の変形や損傷
3. 油や水もれなど異常がないか，点検してください。

■エンジンオイルの量及び汚れ

 注　意

＊点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

❶オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき，差込んでから再び抜き**“下限と上限の間”**にオイルがあるかを調べます。

❷**“下限”**以下の場合は補給してください。ただし，**“上限”**以上には入れないでください。

①オイルゲージ　Ⓐ“上限”　Ⓑ“下限”

重　要

＊点検するときは，乗用管理機を水平な場所に置いてください。傾いていると正確な量が示されません。

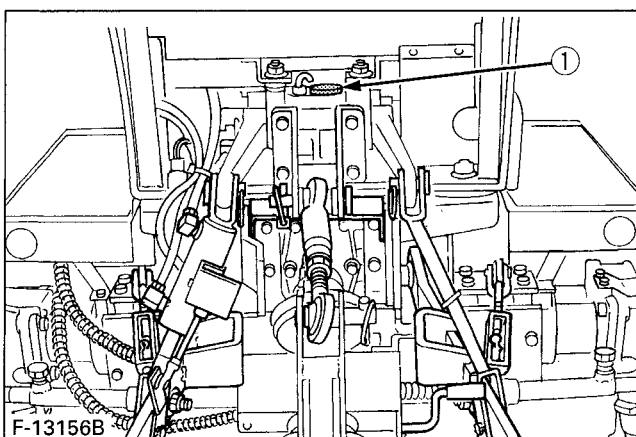
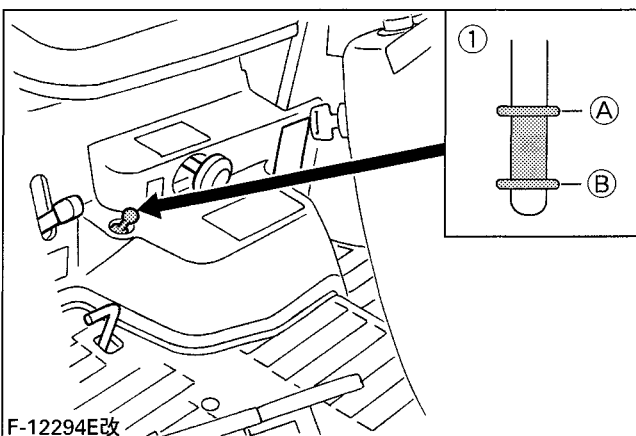
＊オイル量はエンジン始動前か，エンジンを止めてから約５分以上たってから点検してください。そうでないと，オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。

■ミッションオイルの量及び汚れ

 注　意

＊点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

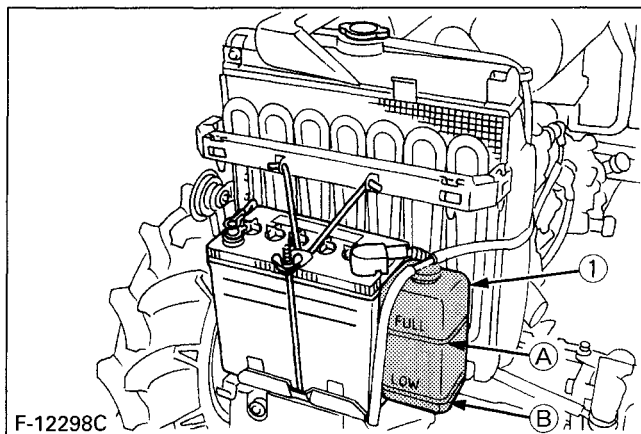
❶オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき，差込んでから再び抜き**“下限と上限の間”**にオイルがあるかを調べます。ロータリ付の場合は，ロータリを下げて確認してください。

❷**“下限”**以下の場合は補給してください。ただし，**“上限”**以上には入れないでください。

①給油口

①オイルゲージ　Ⓐ“上限”　Ⓑ“下限”

■冷却水の量

注　意

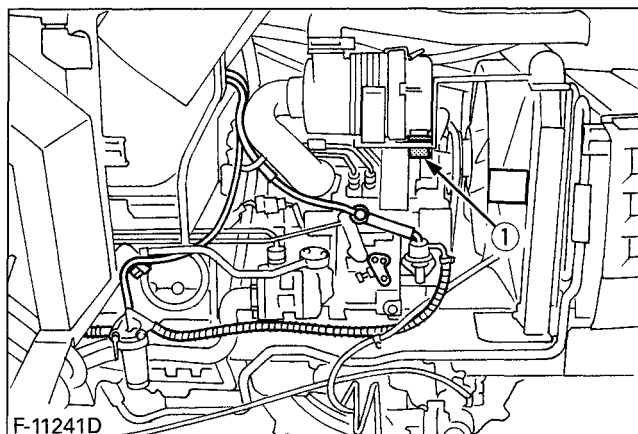
＊ ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後30分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

ラジエータには，リザーブタンクが付いており，ラジエータ内の冷却水が少なくなると，リザーブタンクから自動的に補給される構造になっています。
冷却水の量はリザーブタンク内の量を点検してください。**"FULLからLOWの範囲"**であれば正常です。冷却水がLOW以下の場合は，FULLのレベルまで補給してください。
FULL以上は入れないでください。

①リザーブタンク　Ⓐ"FULL"
Ⓑ"LOW"

補　足

＊ ラジエータ本体のキャップは，冷却水点検及び交換するとき以外開けないでください。

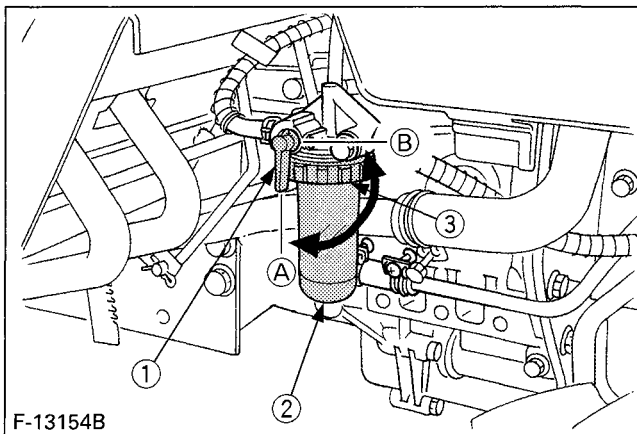
■バキュエータバルブの清掃

バキュエータバルブを開き，ゴミを取除いてください。水分があるときは，エアクリーナを掃除してください。

①バキュエータバルブ

■燃料フィルタの水，沈殿物の点検

燃料中に含まれる水・ゴミがフィルタ内に沈殿します。水・ゴミがたまったら燃料フィルタコックを閉じ，フィルタを外し，水・ゴミを取除いてください。
燃料が満タンに近い場合はカップを外したとき，燃料戻りチューブからフィルタに燃料が逆流します。
フィルタエレメント交換の作業は，燃料タンクの燃料が半分以下のときに実施してください。
このときは，必ず空気抜きをする必要があります。
❶ 燃料フィルタコックを**"閉"**にしてください。
❷ カップ上部のリテーナリングをゆるめてカップを外し，内部を軽油で洗浄します。

重　要

＊ 組付けるときは，チリやホコリが付着しないように注意しましょう。
＊ エレメントを交換したのちは，必ず空気が抜けたことを確かめた後，運転してください。
(**"必要に応じた点検・整備"**の**"燃料の空気抜きのしかた"**の項を参照)

①燃料フィルタコック　Ⓐ"開"
②燃料フィルタ　Ⓑ"閉"
③リテーナリング

■タイヤの空気圧，及び摩耗，損傷

警　告

＊ タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引き起こす原因になります。

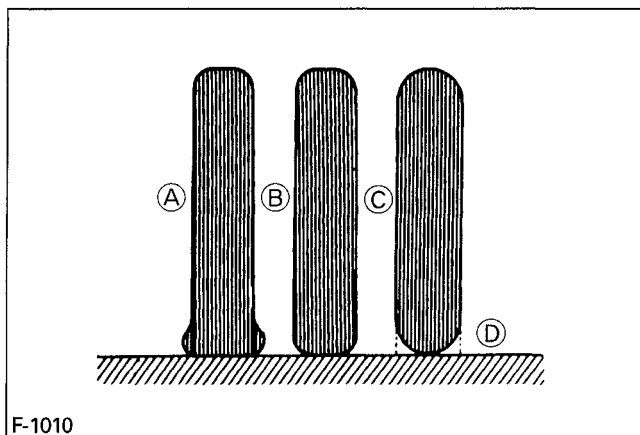
＊ タイヤに傷があり，その傷がコード(糸)に達している場合は，使用しないでください。
タイヤ破裂のおそれがあります。

＊ タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。
(特別教育を受けた人が行うように，法で決められています。)

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。
外観から判断する目安はつぎのとおりです。

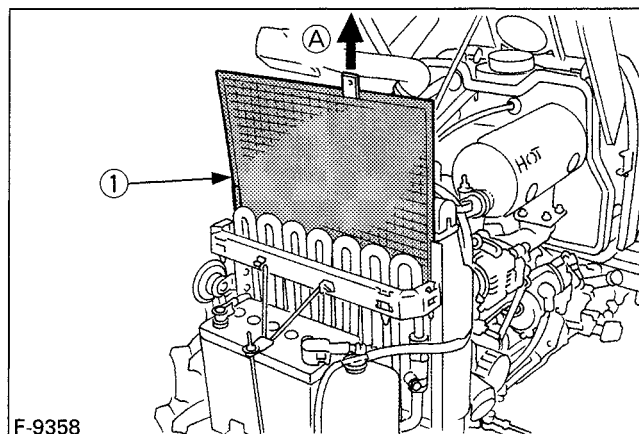
Ⓐ空気が不足
Ⓑ標準
Ⓒ空気が多い
Ⓓ接地面

◆標準空気圧

	タイヤ	空気圧　kPa(kgf/㎠)
前輪	130/90-21AG	400(4. 00)
後輪	130/90-21AG	400(4. 00)

■防虫網の清掃

注　意

＊ エンジンを必ず停止して清掃してください。

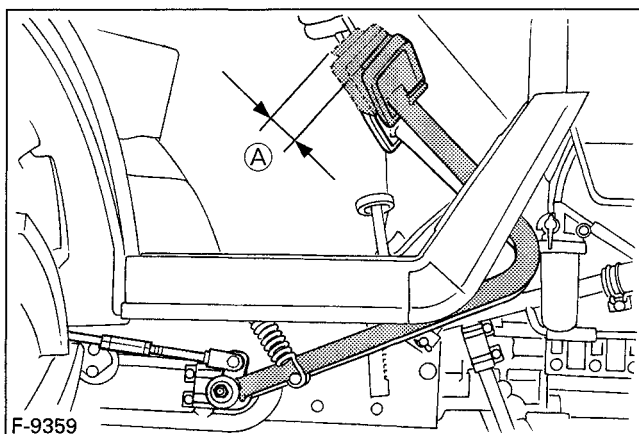
管理作業や夜間作業に使用すると，防虫網に草の実やこん虫が付着し詰まることがありますので，こんなときは防虫網を清掃してください。
防虫網を引出して掃除します。

①防虫網　Ⓐ“引出す”

3.運転席に座って

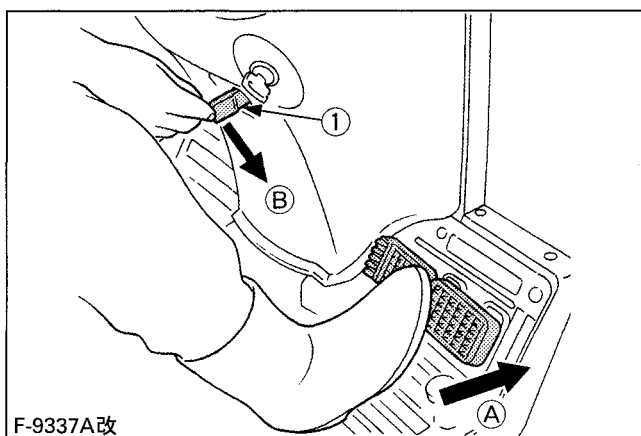
■ブレーキペダルの遊び・点検

 警 告

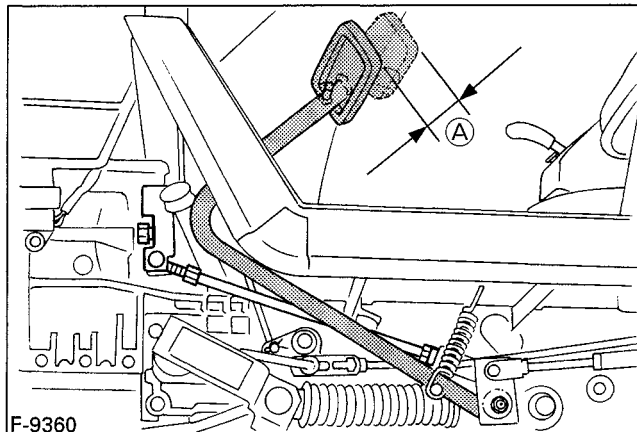
＊ ブレーキの調整が悪いと，人身事故にもつながります。常に作動状態に注意してください。
＊ ブレーキの調整は購入先へ連絡してください。
＊ ブレーキの連結ボルトは外さないでください。

ペダルを踏んで遊び量が **"20～30㎜"** かどうかを調べます。
(調整のしかたは **"100時間ごとの点検・整備"** の **"ブレーキペダルの点検・調整"** の項を参照)

Ⓐ"遊び"

■駐車ブレーキの作動点検

ブレーキペダルを踏込み，レバーを **"下げ"** たまま足をはなすと駐車ブレーキがかかります。
外すときは，ペダルを踏込めば外れます。

①駐車ブレーキレバー　Ⓐ"踏み込む"
Ⓑ"下げる"

■クラッチペダルの遊び・点検

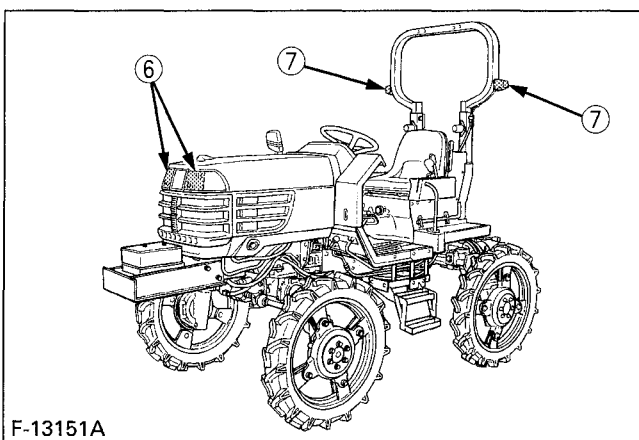
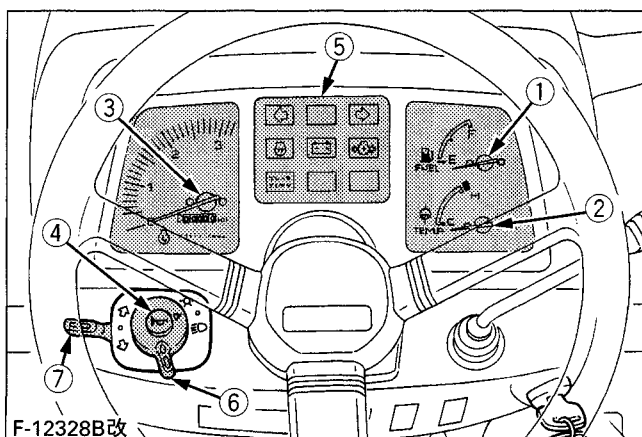
ペダルの遊び量が **"20～30㎜"** あるか確認してください。
(調整のしかたは **"100時間ごとの点検・整備"** の **"クラッチペダルの点検・調整"** の項を参照)

Ⓐ"遊び"

重 要

＊ クラッチの調整が悪いと，クラッチ切れ不良，すべりを起こし損傷につながります。

4.エンジンを始動して

■メータ・ランプ類の作動

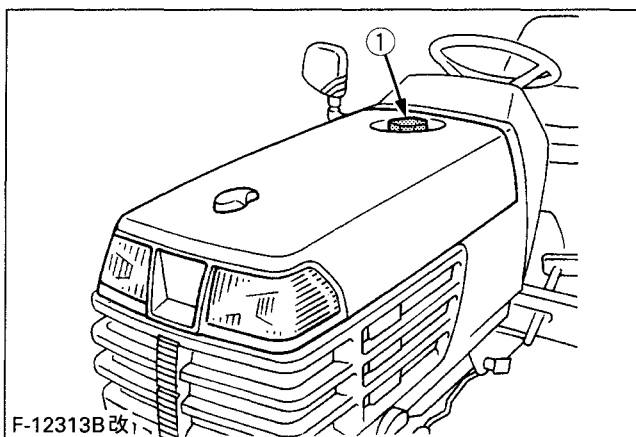
下記メータ及びランプ類が正しく作動するか点検してください。
①燃料計
②水温計
③エンジン回転計
④ホーン
⑤イージーチェッカ
⑥ヘッドライト
⑦ウインカ

5.燃料の補給

注　意

＊燃料を補給するときは，エンジンを必ず停止してください。
＊火気厳禁。

燃料には，**“ディーゼル軽油”**を使用してください。ディーゼル軽油には下表の種類があります。地域・季節に見合ったものを使用してください。

種　　　類	ディーゼル軽油の流動点(℃)
特　1　号	+5以上
1　　　号	0 及び −5
2　　　号	−10
3　　　号	−15 及び −20
特　3　号	−25 及び −30

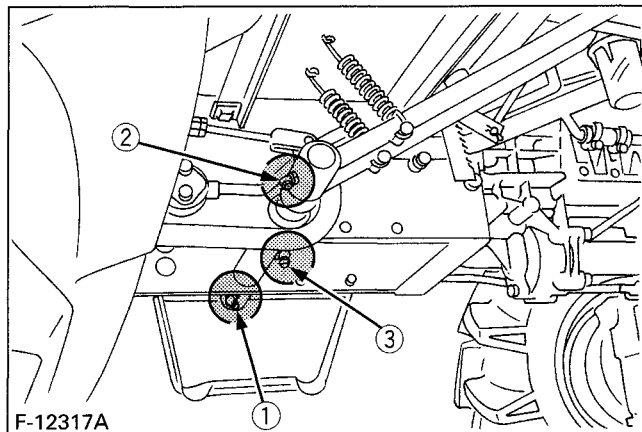
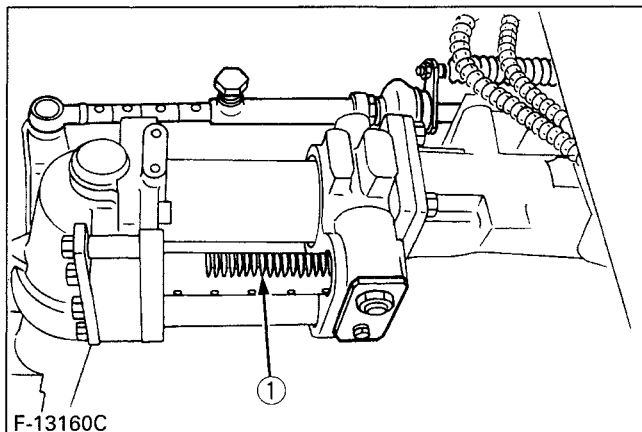
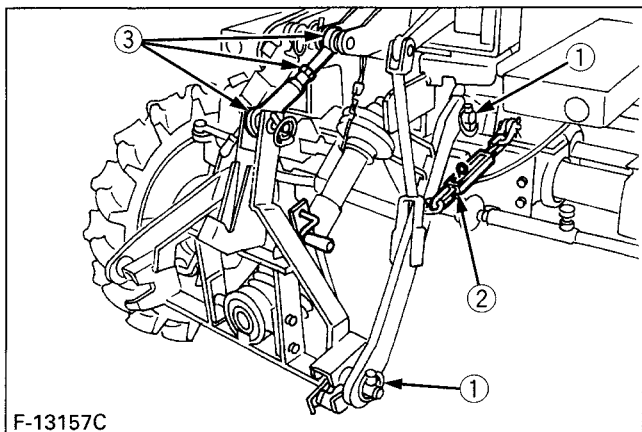
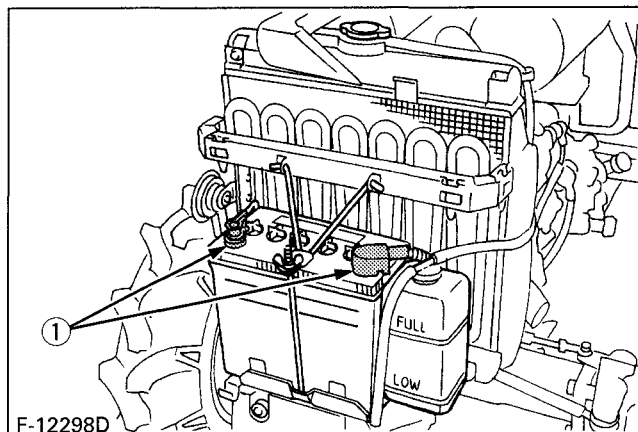
流動点付近以下の温度になると燃料の流動性が悪くなり，始動が困難になります。

①燃料給油口

重　要

＊燃料中にゴミや砂が混入していると，燃料噴射ポンプが作動不良になりますので，注意してください。
＊燃料キャップの空気穴が土やゴミでふさがれていないか点検してください。
＊燃料キャップが締まっているか確認してください。

50時間ごとの点検・整備

■グリースの注入

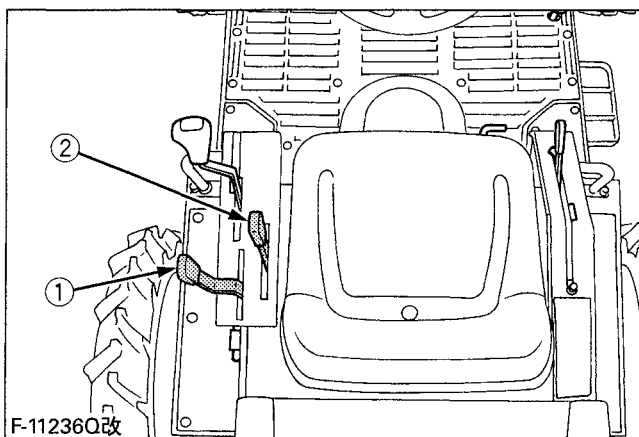
作業中に泥水の中に入ったときは，１日の作業が終ったあと必ずグリースアップをしておきましょう。グリースは，**"クボタ推奨グリース"**を使用してください。

①クラッチペダル軸
②ブレーキペダル
③ブレーキペダル軸

①ラック

①３P関節球
②チェックチェーン
③トップリンク

①バッテリターミナル

■エンジン始動システムの点検

注　意

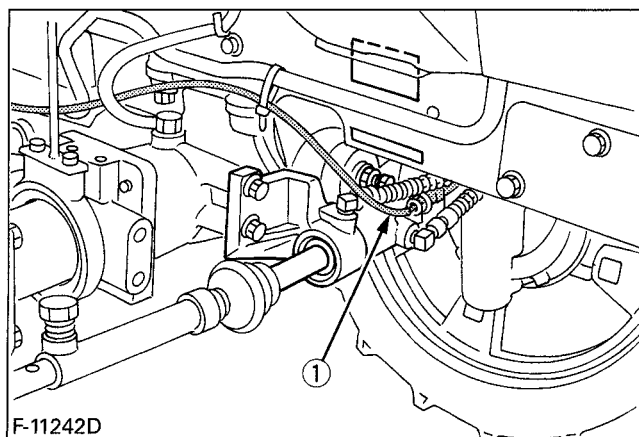
＊点検中，乗用管理機に人を近づけないようにしてください。
＊装置に異常があれば必ず整備をした後，ご使用ください。

◆点検

❶運転席に座り，主変速，副変速及びPTO変速レバーを**"中立"(N)**にします。
❷駐車ブレーキを掛け，エンジンを停止します。
❸アクセルレバーを**"最低速"**位置にします。
❹クラッチペダルを一杯踏込み，キースイッチを瞬時**"始動"**位置に回します。
この時，エンジンが回れば正常です。
❺次に，副変速又はPTO変速レバーをいづれかの位置に変速し，クラッチペダルを一杯踏込み，キースイッチを瞬時**"始動"**位置に回します。
この時，エンジンが回らなければ正常です。
❻もし，不良の場合は，購入先へご相談ください。

①PTO変速レバー
②副変速レバー

■操舵切換センサ用ワイヤの点検

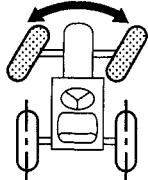
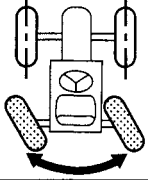
注　意

＊センサ用ワイヤにサビ付がないか，アウターの締付け部にゆるみがないか点検してください。ゆるみ，サビ付があるとセンサが働かず，そのまま運転すると傷害事故を引き起こすおそれがあります。
＊アウター，インナーの調整ボルトを，締めなおしたときには前・後車輪の中立位置がくるっていないか，確認してください。くるっている場合は乗用管理機を購入いただいた販売店に連絡して，修理してください。中立位置がくるったまま運転すると傷害事故を引き起こすおそれがあります。

①操舵切換センサ用ワイヤ

■中点設定のしかた

警　告

＊ 中点設定は購入した販売店に連絡してください。

＊ 車輪の中点位置が大きくくるった状態で走行しないでください。
中点がズレていると，衝突，転倒，転落事故の原因になり，大変危険です。

注　意

＊ 中点設定時にタイロッド調整金具はさわらないでください。トーインがくるい走行時傷害事故を引起こすおそれがあります。

＊ 左右ブレーキの連結は，ブレーキ調整時以外に解除しないでください。(連結ボルトを外さないでください)

＊ 乗用管理機は，トラクタと同じように左右のブレーキを使用して旋回すると，中点(中立位置)が狂い正常な走行ができなくなるおそれがあります。左右ブレーキを使用しての旋回は行なわないでください。

＊ 中立位置が狂った場合は，操舵モードを変更し，再度使用したいモードに戻して，ハンドルを操作すれば，正常位置に復帰します。戻らない場合は，運転を中止して販売店に連絡してください。

中点のズレとは

● FWSの時後輪が機体と平行にならないで直進できない状態。

● RWSの時前輪が機体と平行にならないで直進できない状態。

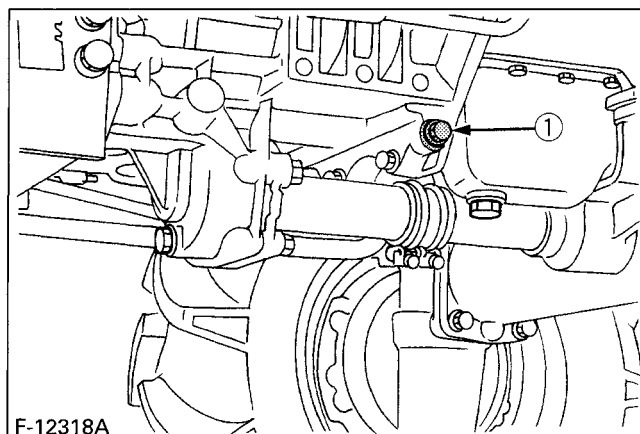
FWS		(1)後輪と機体が平行になっていない。 (2)斜めに歩く
RWS		(1)前輪と機体が平行になっていない。 (2)斜めに歩く

F-11253B改

補　足

＊ 旋回は4WSと主変速(グライドシフト)を使用すれば，作物を痛めるのを少なくし，隣接ターンも簡単に行なえます。

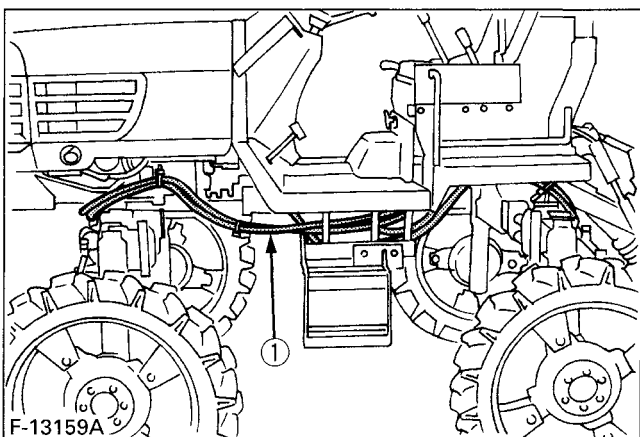
■クラッチハウジングの水抜き

防除作業・洗車・雨降りなどで，クラッチハウジングに多量の水がかかった場合，又は50時間使用ごとにクラッチハウジング底のドレーンプラグを外して，水の侵入がないことを確認してください。
もし水が入っていれば，完全に抜いて，内部をよく乾燥してください。

①ドレーンプラグ

■パワーステアリングホースの点検

注　意

＊ ホースの傷みは，必ず点検しましょう。
ホースが破損しハンドル操作ができなくなり，傷害事故を引起こすおそれがあります。

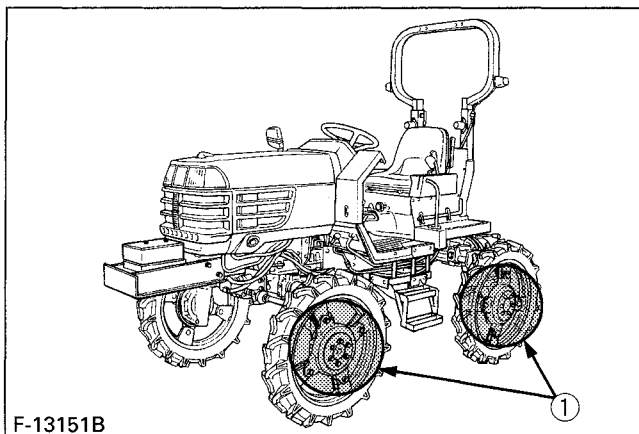
パワーステアリングホースは，使わなくても劣化する消耗品です。２年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。
ホースが傷んでいないか常に注意してください。

①パワーステアリングホース

重　要

＊ 交換時にホースなどにゴミが入らないように注意してください。ゴミが入ると作動不良の原因になります。

■タイヤ取付けボルトの点検

注 意

**＊ タイヤ取付けボルトやナットがゆるんだ状態で乗用管理機を運転しないでください。
ゆるんだまま走行すると，傷害事故を引起すおそれがあります。**

①ボルト／ナット

■ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの点検・交換

注 意

＊ ワイヤハーネス及びバッテリ⊕コードが損傷していると，ショートを起こすので必ず点検してください。

＊ バッテリ，配線及びマフラやエンジン周辺部にワラクズ，ゴミや燃料の付着などがあると，火災の原因となるので毎日作業前に点検してください。

ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの被覆は各部の角に接触，ネズミのかじりなどにより，損傷したり自然劣化することがありますので，下記の項目について定期的に点検してください。

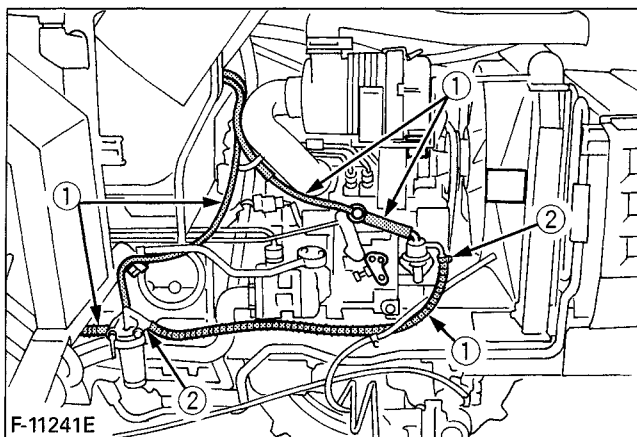
1. ワイヤハーネスの損傷及びクランプのゆるみがないこと。
2. ターミナル，ブロック(ソケット)の接続部のゆるみがないこと。
3. 各スイッチが確実に作動すること。

■燃料パイプの点検

注 意

**＊ パイプ類の傷みや締付けバンドのゆるみは，必ず点検してください。異常があれば交換・整備を行なってください。
燃料もれなどによる火災や傷害事故などの原因になります。**

燃料パイプなどのゴム製品は，使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドと共に２年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。

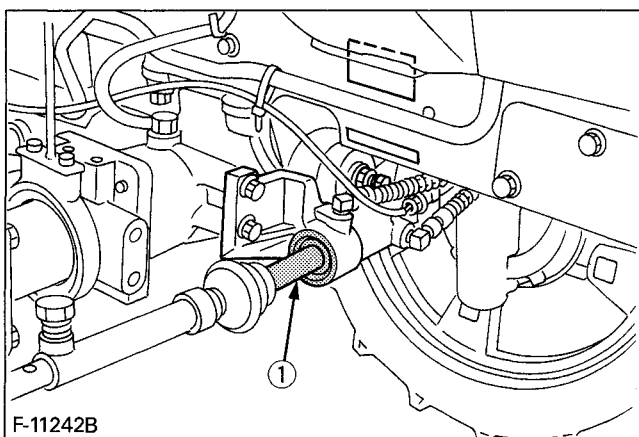
1. パイプ類や締付けバンドがゆるんだり，傷んでいないか常に注意してください。
2. 燃料パイプを交換した場合は，必ず空気抜きをする必要があります。
(**"必要に応じた点検・整備"**の**"燃料の空気抜きのしかた"**の項を参照)

①燃料パイプ
②締付けバンド

重 要

＊ 交換時にパイプや噴射ポンプなどにゴミが入らないように注意してください。ゴミが入ると，噴射ポンプの作動不良の原因になります。

■操向用油圧シリンダの点検

注　意

＊ シリンダピストンのキズやオイルシールから油もれがないか必ず点検しましょう。
ハンドル操作が出来なくなり傷害事故を引起こすおそれがあります。

①油圧シリンダ

■油圧ミッションホースの点検

油圧ミッションホースは，使わなくても劣化する消耗品です。２年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。
ホースが傷んでいないか常に注意してください。

重　要

＊ 交換時にホースなどにゴミが入らないように注意してください。ゴミが入ると作動不良の原因になります。

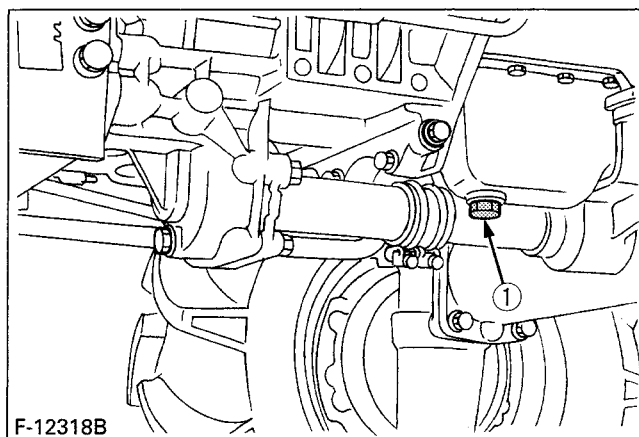
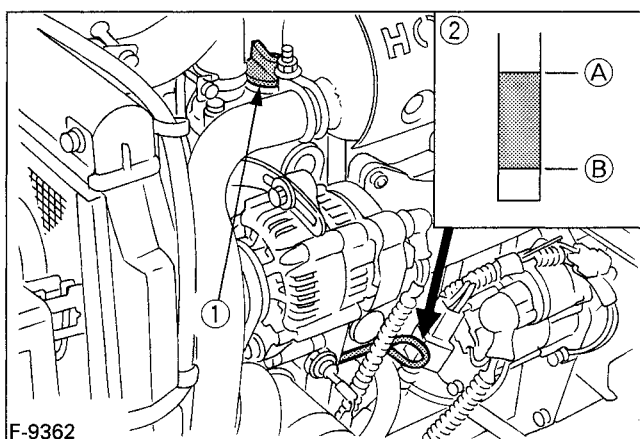
100時間ごとの点検・整備

■エンジンオイルの交換

注　意

＊ 交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

❶ドレーンプラグを外してオイルを排出します。このときオイルが暖まっている方が排出しやすくなります。ただしヤケドに注意してください。

①ドレーンプラグ

❷エンジンオイルを給油口から，規定量まで入れてください。このときオイルをこぼさないように注意してください。オイルゲージを外しておくと給油がしやすくなります。

①エンジンオイル給油口　Ⓐ"上限"
②オイルゲージ　Ⓑ"下限"

重 要

* 今まで使用していたオイルと異なるメーカ，あるいは粘度No.の異なるものを使用する場合は，オイルを全部排出してから，新しいオイルと交換してください。
  注ぎ足し使用は絶対しないでください。
* 気温により次のように使いわけてください。

15℃以下	D10W30(オールシーズン用)
15℃以上	D30，又はD10W30

* 冬期は必ずD10W30を使用してください。

■バッテリ電解液の点検

危 険

バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの2種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下の事を守ってください。

* バッテリは液面がLOWER(最低液面線)以下になったままで使用や充電をしないでください。
  LOWER以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
  すぐにUPPER LEVEL と LOWER LEVEL の間に補水してください。

警 告

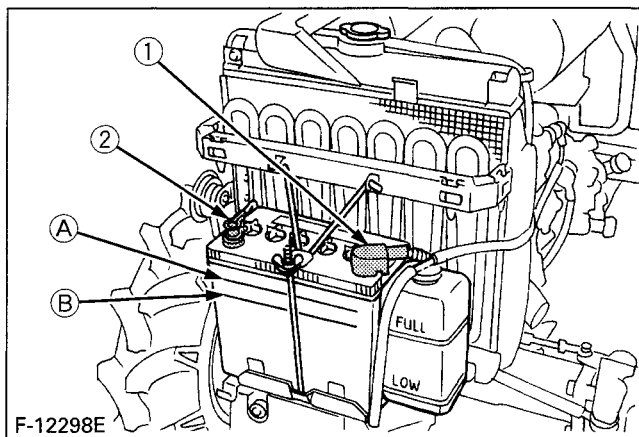
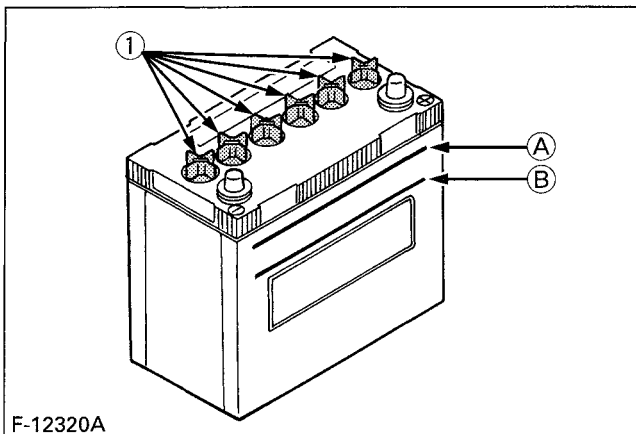
* バッテリ液は希硫酸なので扱いには十分注意し，身体や衣服に付けないようにしてください。もし付着した場合は，すぐに水で洗い流してください。
  状況により医師の診断を受けてください。
* バッテリの点検及び取外し時は，エンジンを必ず停止し，キースイッチを"切"位置にしておいてください。
* バッテリを取外すときは，短絡(ショート)事故を防ぐため，最初にバッテリ⊖コードを外し，接続するときは，最後にバッテリ⊖コードを接続してください。
* バッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり火を近づけないでください。
  バッテリは充電中，可燃性ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。

◆バッテリ液の点検

バッテリはMF(メンテナンスフリー)バッテリを使用していますので従来品に比べ，液の減り具合がきわめて少なくなっていますが側面に2本の線(レベル)があり，その間に液面があればよく，少ないときは上側の線(レベル)まで蒸留水を補給してください。

①⊕コード　　Ⓐ"UPPER LEVEL"(上限)
②⊖コード　　Ⓑ"LOWER LEVEL"(下限)

◆補水のしかた

❶バッテリ上フタの補水キャップを外します。
❷6個の補水穴から蒸留水を均一に上側の線(レベル)まで補水します。
❸キャップを元の穴にねじ込みます。

①補水キャップ　　Ⓐ"UPPER LEVEL"(上限)
Ⓑ"LOWER LEVEL"(下限)

◆バッテリの取付け，取外し

注 意

＊バッテリを取外すときは，バッテリ⊖コードを最初に外し，次に⊕コードを外してください。
＊取付けるときは，必ず⊕側から取付けます。
逆にすると，工具が当たった場合にショートします。

重 要

＊バッテリ液が不足するとバッテリを傷め，多過ぎると液がこぼれて車体の金属部を腐食させます。
＊新品のバッテリと交換する場合には必ず指定した型式(50B24L)のバッテリを使用してください。
＊バッテリを外し，再度取付けるときにはバッテリの⊕，⊖のコードを元どおりに配線し，まわりに接触しないように締付けてください。

◆補充電のしかた

警 告

＊バッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり，火を近づけないでください。
バッテリは充電中可燃ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。

1. バッテリは必ず車体から取外して充電してください。電装品の損傷の他に配線などを傷めることがあります。なお急速充電はできるだけ避けてください。
2. バッテリコードを接続するときは，⊕と⊖をまちがえないようにしてください。まちがえるとバッテリと電気系統が故障します。
3. 充電は，バッテリの⊕を充電器の⊕に，バッテリの⊖を充電器の⊖にそれぞれ接続して，普通の充電法で行なってください。
コードの接続をまちがわないように注意してください。

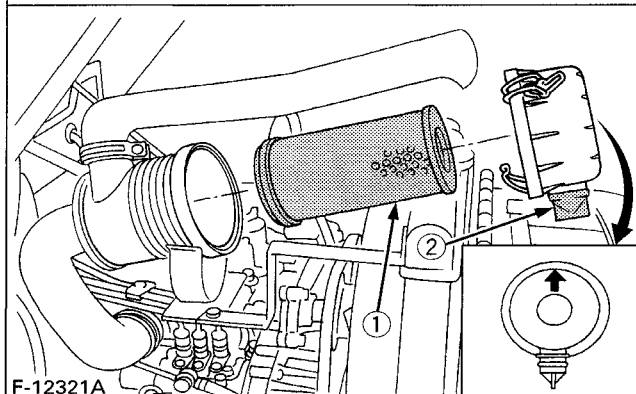
■エアクリーナエレメントの清掃

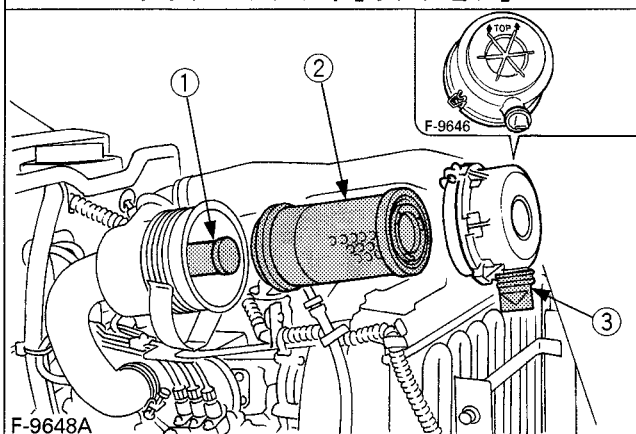
◆エレメントの清掃

乾いたちりやほこりの場合は，エレメントを傷めないように注意しながら，エアーで吹き飛ばしてください。(エアーの圧力は490kPa(5kgf/cm²)を越えないように注意し，ノズルとエレメントの間は適当にあけてください。)
ダブルエレメントのエアクリーナはアウターエレメントだけを清掃してください。【オプション】

◆エレメントの交換

エレメントの交換は1年間使用後，又は6回掃除ごとに交換が必要です。

シングルエレメント【標準仕様】

①エレメント
②バキュエータバルブ

ダブルエレメント【オプション】

①インナーエレメント
②アウターエレメント
③バキュエータバルブ

重　要

＊エレメントは，清掃・交換以外は不必要にさわらないでください。
＊乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用しないでください。
＊清掃時，エレメントをたたいて変形させないでください。
変形するとほこりがエンジンに侵入し，エンジンを損傷することがあります。
変形したときは，すぐに新しいエレメントと交換してください。
＊ダストカップの(⬆マーク)を必ず上向きになるように取付けてください。
＊インナーエレメントは交換時以外はさわらないでください。【**オプション**】

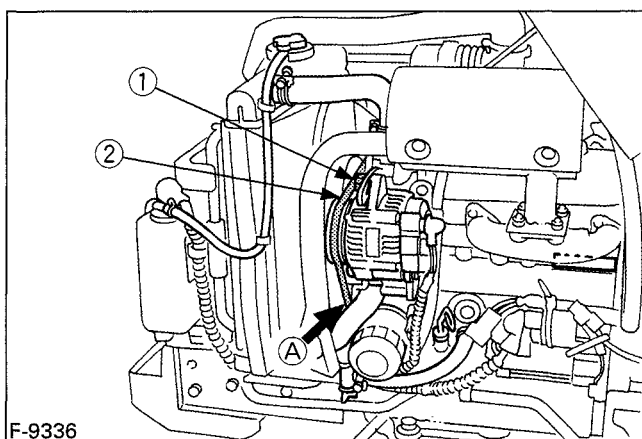
◆バキュエータバルブの清掃

バキュエータバルブを開き，大きなごみを取除いてください。

■ファンベルトの点検・調整

適正張り強さ	ベルトの中央部を指先で約10kgfの力で抑えて，約7㎜たわむ程度

◆調整方法

❶ダイナモを取付けているボルト・ナットをゆるめて，ダイナモを動かして調整します。
❷調整後はボルト・ナットを確実に締付けておいてください。

①ボルト　Ⓐ"押す"
②ファンベルト

重　要

＊ベルトの張りがゆるいと，オーバヒートや充電不足の原因になります。
＊き裂やはがれがあれば交換してください。

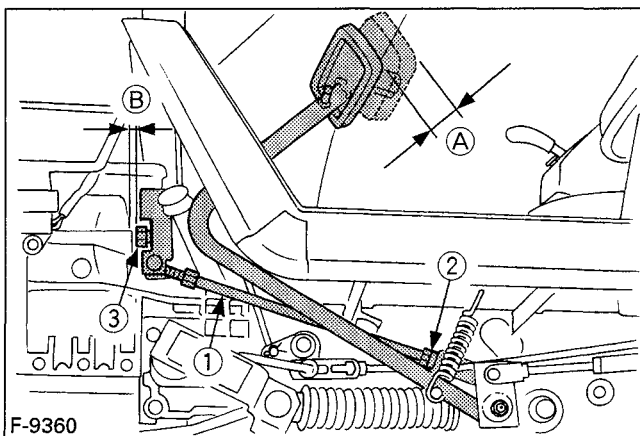
■クラッチペダルの点検・調整

適正遊び量	ペダルで20～30㎜

◆調整方法

❶ロックナットをゆるめクラッチロッドで，ペダルの遊びを調整します。
❷調整後はロックナットを確実に締め付けておいてください。
❸調整後クラッチペダルを解放し，スキマⒷを点検します。
もし調整が必要なときは，ボルト③で調整します。

①クラッチロッド　Ⓐ"遊び"
②ロックナット　Ⓑ 8.5㎜
③ボルト

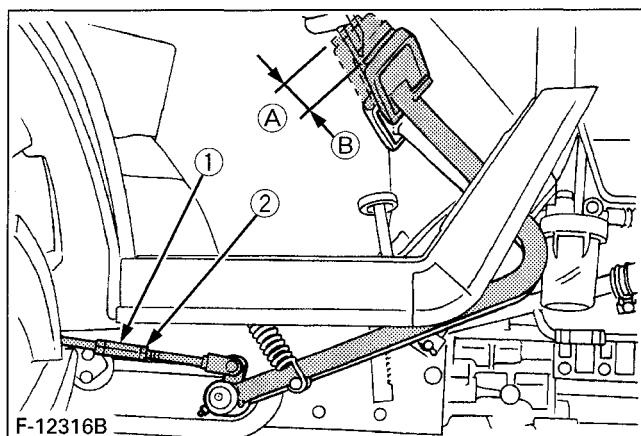
重　要

＊クラッチの調整が悪いと，クラッチ切れ不良，すべりを起し損傷につながります。

■ブレーキペダルの点検・調整

警 告

＊点検・調整をするときは，必ずエンジンを止めて行なってください。
＊ブレーキの調整が悪いと，人身事故にもつながります。
常に作動状態に注意してください。
＊調整時左右のペダルの踏込み量の差を必ず“5㎜以内”にしてください。差が大きいとブレーキが片ぎきになります。
ブレーキが片ぎきになると，傷害事故を引起すおそれがあります。
＊乗用管理機のブレーキは駐車ブレーキです。左右単独で操向，旋回に使用しないでください。車輪の中点が狂うおそれがあります。

適正遊び量	ペダルで20～30㎜

◆調整方法

①ブレーキロッド　Ⓐ“遊び”
②ロックナット　Ⓑこの位置でのペダルの左右差5㎜以内

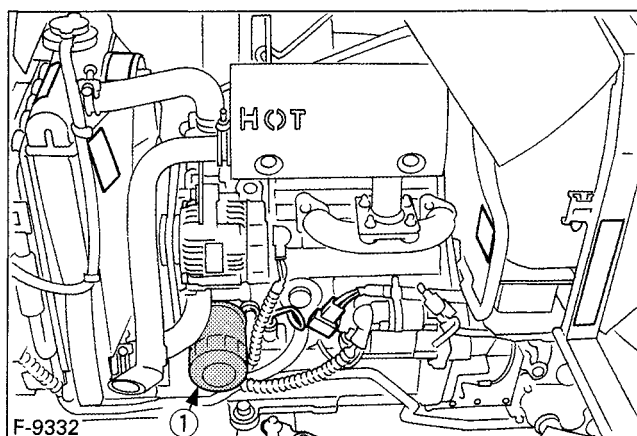
❶駐車ブレーキを解除します。
❷ロックナットをゆるめブレーキロッドで，ペダルの遊びを調整します。
❸調整後はロックナットを確実に締め付けておいてください。
❹駐車ブレーキロックが確実に作動するか確認してください。
❺調整後は左右ブレーキを必ず連結してください。
❻連結ボルトを必ず締付けてください。

200時間ごとの点検・整備

■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

注 意

＊交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

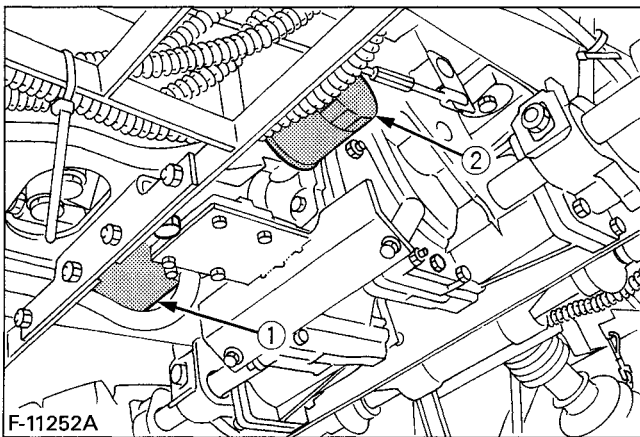
オイルフィルタは，カートリッジタイプです。
このオイルフィルタが詰まると，バイパスバルブが作動して，オイル系統からこのオイルフィルタを通らずに送油されるので，ろ過されないオイルで潤滑が行なわれます。これを防ぐため，オイルフィルタの詰まりがないように，規定時間で，新しい純正部品のカートリッジと交換してください。

①エンジンオイルフィルタカートリッジ

❶フィルタレンチでフィルタを取外します。
❷新しいカートリッジのOリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
❸エンジンオイルを規定量まで補給します。
❹約5分間運転し，オイルランプの作動に異常がないか又，油漏れがないか確認してからエンジンを止めます。
❺再びオイルゲージで油量を確認し，不足していれば補給してください。

■油圧オイルフィルタカートリッジの交換
■油圧ミッションオイルフィルタカートリッジの交換

 注 意

＊交換するときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

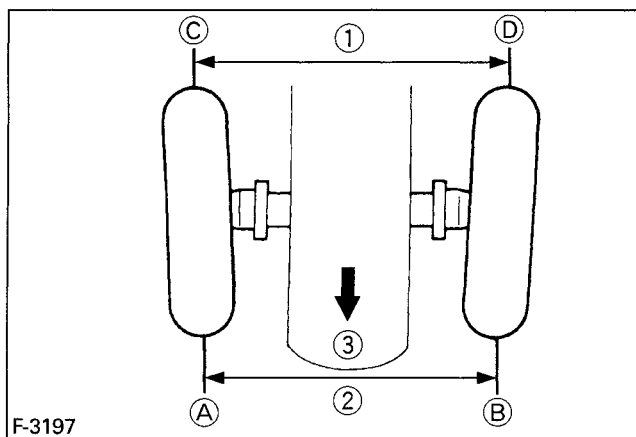
純正部品のカートリッジと交換してください。
指定の純正部品を使用しないと，油圧システムに問題を起こすおそれがあります。

①油圧オイルフィルタカートリッジ
②油圧ミッションオイルフィルタカートリッジ

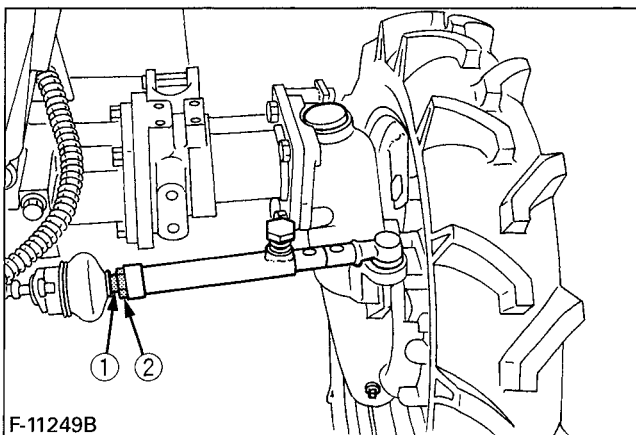
❶ミッションオイルを抜きます。
❷フィルタレンチでフィルタを取外します。
❸新しいカートリッジのOリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
❹ミッションオイルを規定量まで補給します。
❺約２分間運転し，作業機の昇降に異常がないか確認してからエンジンを止めます。
❻再びオイルゲージで油面を確認し，不足していれば補給してください。
（ミッションオイルの抜き方，補給のしかたは**“300時間ごとの点検・整備”**の**“ミッションオイルの交換”**の項を参照）

■トーイン調整・タイロッドの点検

 注 意

＊トーインの調整が悪いと，ハンドルを取られたり，異常に振れることがあります。
＊トーインは出荷時に調整しています。タイロッド関係に摩耗や変形がないときはさわらないでください。調整不良になりますと，タイヤの中心位置がくるい，走行時傷害事故を引起こすおそれがあります。
＊トーインにくるいが生じたときは購入先へご連絡ください。

◆点検
前輪の前幅Ⓐ Ⓑと後幅Ⓒ Ⓓを測り，Ⓒ Ⓓ－Ⓐ Ⓑ＝２～10㎜になっているかを調べます。

①後幅　②前幅　③前

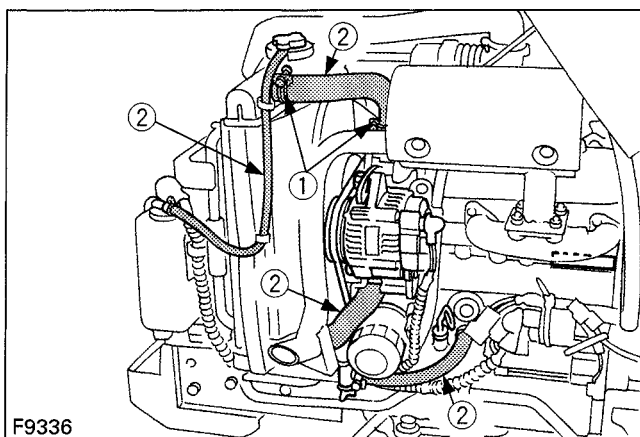
◆調整
❶ナットをゆるめ，タイロッドを回してⒸ Ⓓ－Ⓐ Ⓑ＝２～10㎜になるように調整します。
❷調整後はナットを確実に締付けておいてください。

①タイロッド
②ロックナット

補 足
＊トーインの点検・調整時，タイロッドエンド（関接球）やリンクに摩耗や変形がないか調べてください。

■ラジエータホースの点検

注　意

＊ラジエータホースの傷みや締付けバンドのゆるみがないか点検してください。異常があれば交換・整備を行なってください。
熱湯もれによるヤケドなどの原因になります。

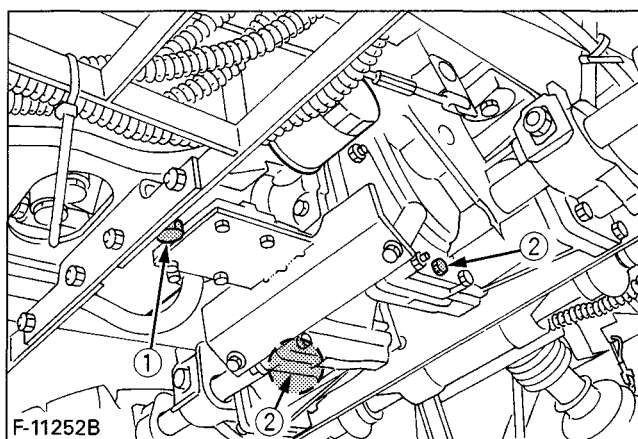
ラジエータホースなどのゴム製品は，使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドと共に２年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。

①締付けバンド
②ラジエータホース

300時間ごとの点検・整備

■ミッションオイルの交換

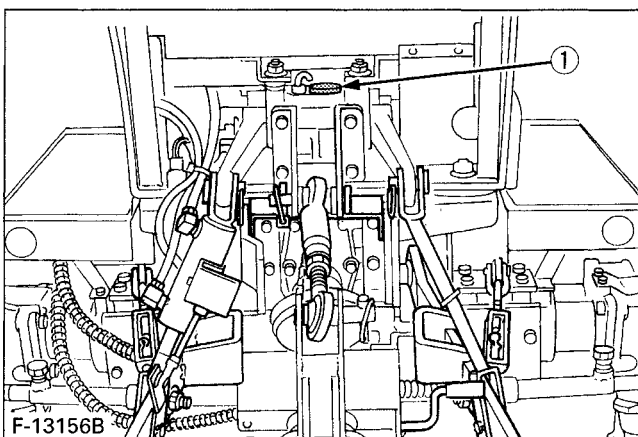
注　意

＊交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

❶ドレーンプラグを外してオイルを抜きます。

①ドレーンプラグ
②ドレーンプラグ(左右)

補　足

＊給油プラグを外すとオイルが抜けやすくなります。

❷ドレーンプラグを締めます。
❸給油口からミッションオイルを規定量入れてください。

①給油口

❹約５分間運転し，ドレーンプラグを締付けた所より油漏れがないか確認し，エンジンを停止します。

重　要

＊オイルが左右のケースに充満するまで時間がかかります。
給油の約10分後，オイルゲージで油面を点検し，不足していれば補給します。

①オイルゲージ　Ⓐ"上限"　Ⓑ"下限"

■フロントギヤーケースオイルの交換

❶ドレーンプラグを外してオイルを排出します。

①ドレーンプラグ

補　足

＊給油プラグを外すとオイルが抜けやすくなります。

❷ドレーンプラグを締めます。
❸給油口からミッションオイルを規定量いれてください。

①給油口(オイルゲージ付き)　Ⓐ"上限"　Ⓑ"下限"

■前車軸ケースオイルの交換

❶ドレーンプラグと給油プラグを外してオイルを抜きます。(左右とも)
❷ドレーンプラグを締めます。(左右とも)
❸給油口からミッションオイルを規定量入れてください。

①ドレーンプラグ(左右にある)　Ⓐ"上限"
②給油プラグ(オイルゲージ付き)　Ⓑ"下限"

重　要

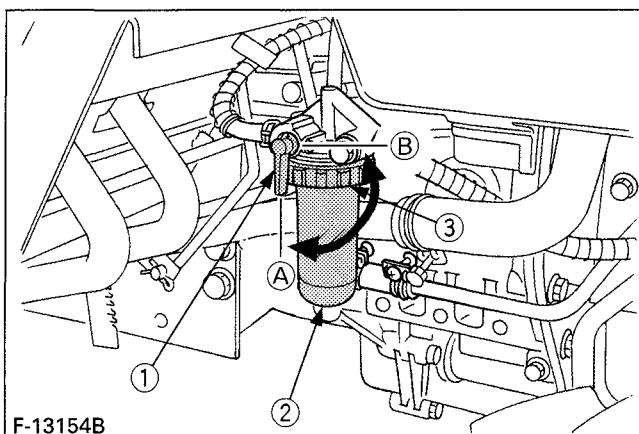
＊オイルが左右のケースに充満するまで時間がかかります。
給油の約10分後，給油プラグを差込み油面を点検し，不足していれば補給します。

400時間ごとの点検・整備

■燃料フィルタエレメントの清掃交換

燃料が満タンに近い場合はカップを外したとき，燃料戻りチューブからフィルタに燃料が逆流します。
フィルタエレメント交換の作業は，燃料タンクの燃料が半分以下のときに実施してください。
❶燃料フィルタコックを**"閉"**にしてください。
❷カップ上部のリテーナリングをゆるめてカップを外し，内部を軽油で洗浄します。
❸新しいフィルタエレメントと交換します。

重 要

＊組付けるときは，チリやホコリが付着しないように注意しましょう。
＊エレメント交換後は，必ず空気抜きをしてください。(**"必要に応じた点検・整備"**の**"燃料の空気抜きのしかた"**の項参照)

①燃料フィルタコック　Ⓐ"開"
②燃料フィルタ　Ⓑ"閉"
③リテーナリング

600時間ごとの点検・整備

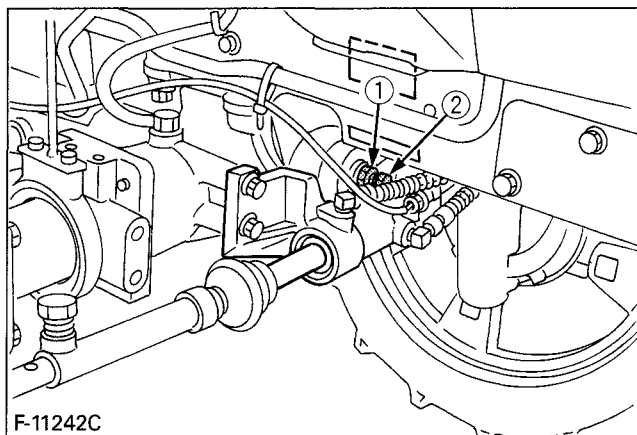
■前部デフケース前後遊びの調整

前部デフケース支持部の調整が悪いと，前輪が著しく振れたり，ハンドルに振動が伝わってきます。

◆点検

前後方向のガタを点検し，ガタがあれば調整します。

◆調整

前輪タイヤ(両輪)を持上げて，ロックナットをゆるめ，調整ボルトを締込み，ガタを調整します。

①ロックナット
②調整ボルト

800時間ごとの点検・整備

■エンジンバルブクリアランスの点検

購入先で交換及び点検をしてもらってください。

1年ごとの点検・整備

■エアクリーナエレメントの交換

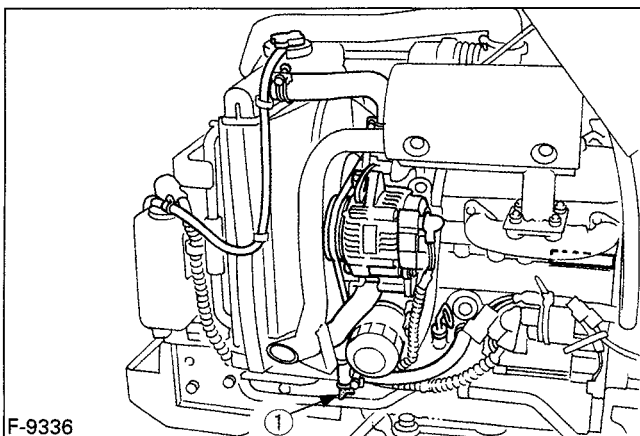
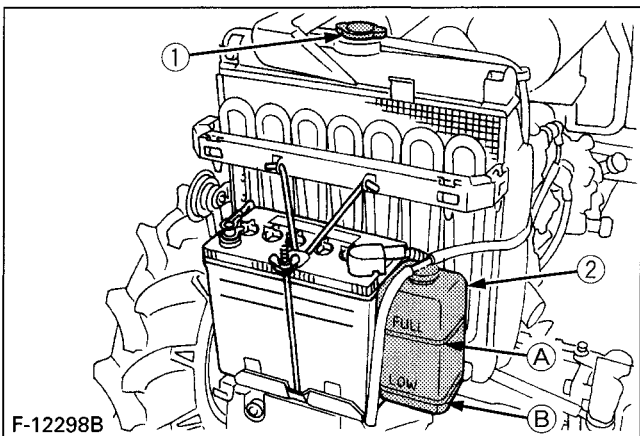
エレメントの交換は1年間使用後，又は6回掃除ごとに交換が必要です。ダブルエレメントのエアクリーナ【**オプション**】はインナー・アウターとも交換が必要です。
(**"100時間ごとの点検・整備"**の**"エアクリーナエレメントの清掃"**の項を参照。)

2年ごとの点検・整備

■冷却水の交換

注　意

＊ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後30分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

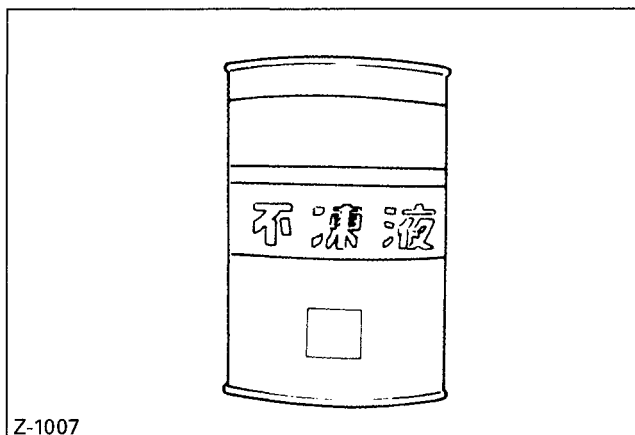
❶ラジエータ下側の排水コックとラジエータキャップを開き，冷却水を全部出します。
リザーブタンクの排水は，リザーブタンクを上方へ引き抜き排水します。

①排水コック

①ラジエータキャップ　　Ⓐ"FULL"
②リザーブタンク　　　　Ⓑ"LOW"

❷水道の水でラジエータ内を洗浄し，排水コックを締めオーバフローパイプを取付けます。

❸ラジエータ及びリザーブタンクに冷却水を注入したのち，ラジエータキャップを確実に締めてください。

◆**不凍液の使い方**

不凍液は水の凍結温度を下げる効果をもっており，冷却水凍結によるシリンダやラジエータの損傷を防ぎます。
冬期気温が0℃以下になるようなときは，必ず不凍液(ロングライフクーラント)を清水と混合しラジエータ及びリザーブタンクに補給するか又は，冷却水を完全に排水してください。
〔工場出荷時は，不凍液(ロングライフクーラント)が入っています。〕

重　要

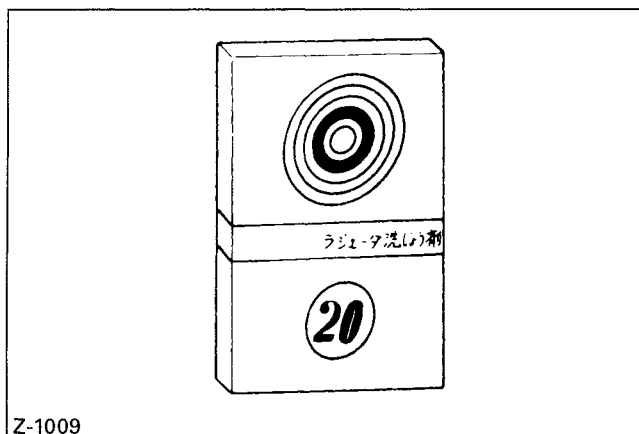
＊冷却水には，不凍液(ロングライフクーラント)を50%入れ，よく水と混ぜ合せてからお使いください。
＊不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはオーバヒートの原因になります。
＊不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入すると沈積物が生成することがあり，エンジン部品に悪影響を与えます。
＊クボタ不凍液(ロングライフクーラント)の有効使用期間は2年間です。
必ず2年で交換してください。

不凍液の保証不凍結温度

原液混合比	%	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
保証不凍結温度	℃	−4	−5	−8	−11.5	−15	−20	−25	−30	−35	−40

■ラジエータの洗浄

洗浄には，クボタラジエータ洗じょう剤No. 20を使用すれば，水アカなどきれいに洗浄できます。
＊２年使用ごと
＊不凍液を混入するとき
＊不凍液混入から水だけに変えるとき
などに使用してください。

Z-1009

■ラジエータホースの交換
■燃料パイプの交換
■パワーステアリングホースの交換
■モンローシリンダホースの交換
■油圧ミッションホースの交換

購入先で点検及び交換してもらってください。

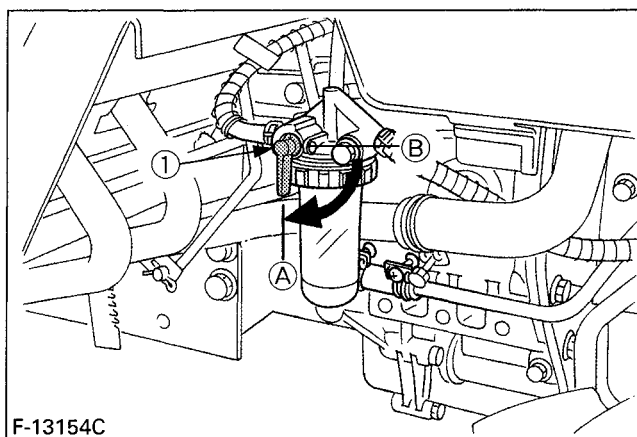
必要に応じた点検・整備

■燃料の空気抜きのしかた

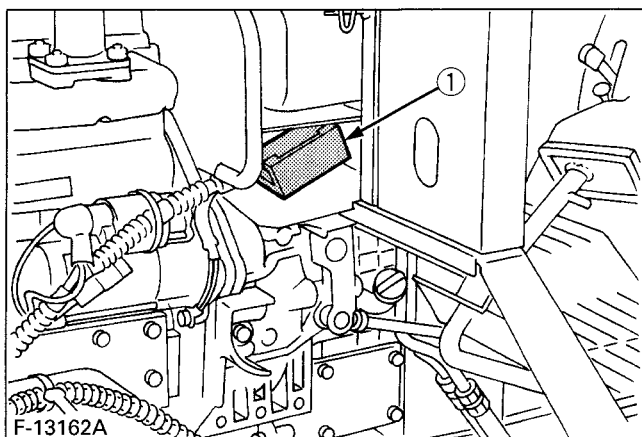
燃料の空気抜きは，次のようなときに行なう必要があります。

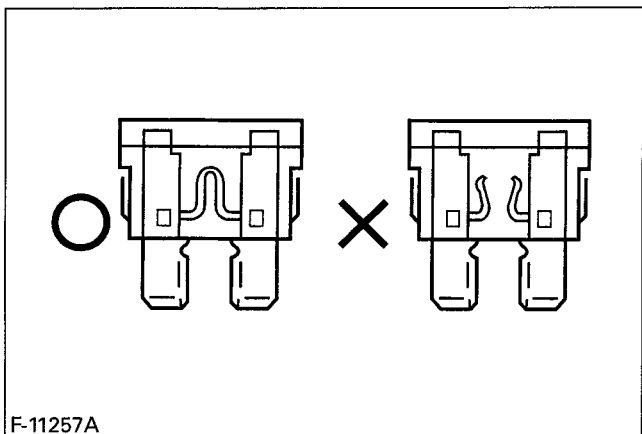
- 燃料フィルタ及び配管を取外したとき
- 燃料切れが起きたとき
- 乗用管理機を長時間使用しなかったとき

❶燃料フィルタコックを**"開"**にする。

F-13154C

①燃料フィルタコック　Ⓐ"開"　Ⓑ"閉"

❷タンクに燃料を満たす。
❸エンジンを始動し，約１分間運転後停止する。

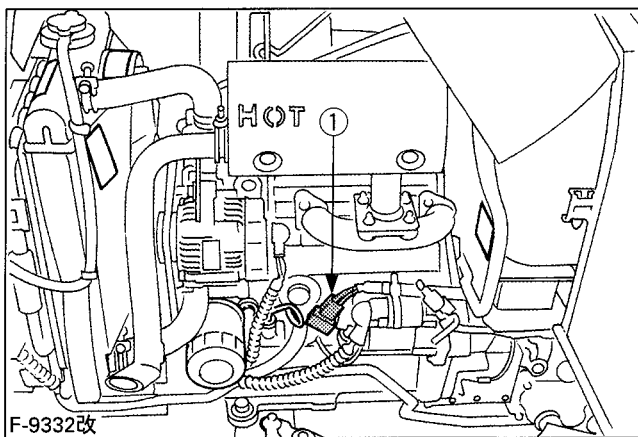
■ヒューズの交換

①ヒューズボックス

❶ヒューズボックスのふたを外す。
❷ヒューズを外す。
❸切れたものと同容量のヒューズと交換する。

重　要

＊ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金や銀紙などで代用せず，購入先で点検，修理してください。

補　足

＊乗用管理機に作業灯やラジオなどを取付けるときの電源取出しは，購入先にご相談ください。

■スローブローヒューズの交換

①スローブローヒューズ

スローブローヒューズは，配線を保護するためのものです。もし切れた場合は，切れた原因を必ず調べ，決して代用品を使用せず，純正部品を使用してください。

補　足

＊スローブローヒューズ ……………………… 50A

■ランプ類の交換

1. ヘッドランプは，ランプのボディ後部からバルブを取出して交換します。
2. その他のランプ
   レンズを外し，バルブを交換します。

格　納

注　意

＊長期格納時は，クラッチ固着防止のため，クラッチ“切り”に固定してください。クラッチが固着するとエンジン始動と同時に車体が動くことがあります。

＊シートをかける場合は，マフラやエンジン自体の冷却状態を確認してからにしてください。
火災を起こす原因になります。

長期格納時の手入れ

乗用管理機を長い間使用しない場合は，次の要領で整備してから格納しましょう。

1.不具合箇所は整備してください。

2.エンジンオイルを交換し，2000回転／分以上で10～15分間の防錆運転をし，各部にオイルをゆきわたらせてください。
その後も1～2カ月ごとに同様に防錆運転をしてください。

3.定期点検一覧表の項目を確認するようにしてください。

4.車体のさびやすい部分には，グリースかオイルを塗っておいてください。

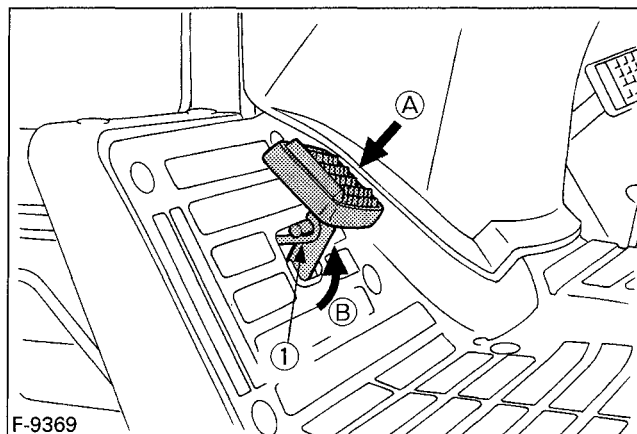
5.燃料フィルタコックを**“閉”**にしておいてください。

6.冷却水は抜いておいてください。但し，オールシーズンタイプのクーラントであれば抜かなくても構いません。

7.クラッチペダルは，クラッチ板のさび付きによりクラッチが切れなくなる場合がありますので，クラッチを踏込んだ状態で必ずロックしてください。

◆クラッチ“切”保持の方法

❶クラッチペダルをいっぱい踏込み，ロック金具をピンに引掛けてロックします。

❷使用するときは，クラッチペダルをいっぱい踏込み，ロック金具を外します。

①ロック金具　　Ⓐ“踏む”
Ⓑ“ピンに引掛けてロックする”

8.クラッチハウジング底のドレーンプラグを外して，水が侵入していないことを確認してください。

9.タイヤの空気圧は，標準より少し多いめにしてください。

10.バッテリを本機から取外し風通しの良い冷暗所に保管してください。また乗用管理機に取付けたまま保管するときは必ずアース側(⊖側)を外してください。

11.作業機は，外すか地面に降ろした状態にしてください。

12.後輪の前後に車止めをしておいてください。

13.各部の配線・バッテリコード・燃料配管などのキレツ・被覆の破れ・コードクランプの外れは，確実に点検・整備してください。

14.格納中バッテリは，1カ月に一回充電器で完全充電するようにしましょう。

15.格納場所は，周囲にワラなど燃えやすいものがない雨のかからない乾燥した平坦な場所を選定し，シートをかけるようにしましょう。

重　要

＊長期格納時，洗車するときはエンジンを止めてから行なってください。もしエンジンをかけて行なうときはエアクリーナの吸入口から水が入らないよう注意してください。もし水が入ると故障の原因となります。

＊格納時は，必ず**“切”**の位置でキーを抜いておいてください。

不調と処置

エンジンの不調と処置

もしエンジンの調子が悪い場合があれば，次の表により診断し，適切な処置をしてください。

現　　象	原　　因	処　　置
始動困難な場合	(1)燃料が流れない。	●燃料タンクを点検し，沈殿している不純物や水分を除く ●燃料フィルタを点検し，汚れていれば交換する。
	(2)燃料送油系統に，空気や水が混入している。	●パイプ・プラグ・袋ナット及び締付けバンドを点検し，ゆるみがあれば締め，損傷があれば新品と交換又は補修する。 ●空気抜きをする。 (**“必要に応じた点検・整備”**の項を参照)
	(3)寒冷時にオイル粘度が高く，エンジン自体の回転が重い。	●気温によってオイルの使い分けをする。 (冬期はD10W30を使用)
	(4)バッテリがあがり気味で，回転力が弱くなって圧縮を越す勢いがない。	●バッテリを充電する。
出力不足の場合	(1)燃料不足	●燃料を補給する。 ●燃料系統を調べる。(特に空気混入に注意)
	(2)燃料の流れ不足	●燃料フィルタの清掃をする。
	(3)エアクリーナの目詰まり	●エレメントを清掃する。
突然停止した場合	(1)燃料不足	●燃料を補給する。 ●燃料系統を調べる。(特に空気混入に注意)
	(2)燃料が流れない。	●燃料フィルタを点検し，汚れていれば交換する。
排気色が異常に黒い場合	(1)燃料が悪い。	●良質の燃料に交換する。
	(2)エンジンオイルの入り過ぎ。	●正規のオイル量にする。
	(3)エアクリーナの目詰まり	●エレメントを清掃する。
水温計の指針がレッドゾーン付近を示すとき	(1)冷却水が125℃付近になったため。	●冷却水の量(不足)及び水漏れの点検 ●ファンベルトの張り(ゆるみ)の点検 ●フロントグリル，ラジエータの防虫網にゴミの詰まりがないか点検する。
始動時青白煙が消えない。	(1)前の作業が長時間にわたるアイドリング運転で終わっている場合，又は冷機時アイドリング運転の繰返しであった場合，マフラ内部に湿りが残っている。	●負荷をかけてマフラを十分に加熱する。冷機時アイドリング運転の繰返し，及び，長時間にわたるアイドリング運転は極力避ける。
	(2)ノズル不良	●ノズルを点検する。
	(3)燃料不良	●良質の燃料に交換する。

☆わからない場合は，購入先にご相談ください。

付　表

主要諸元

■乗用管理機の主要諸元

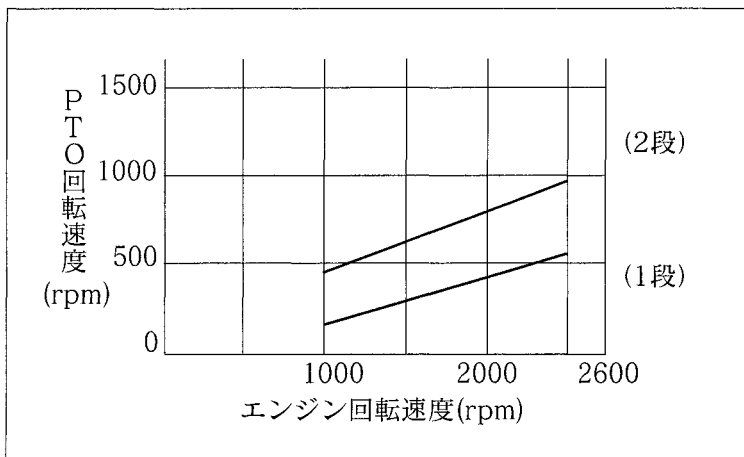
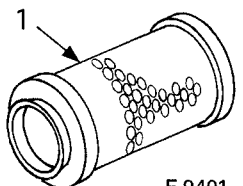
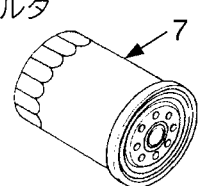
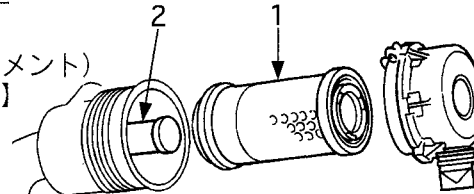
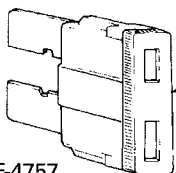
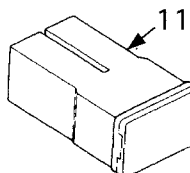
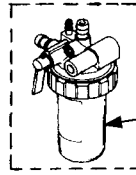
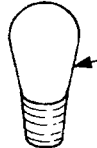
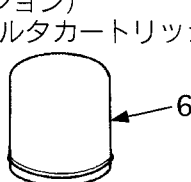
項目		GR16-60	GR16-75
型式名		GR16-2	
区分		GR16-60	GR16-75
駆動方式		四輪駆動	
機体寸法	全長(mm)(注)	2975(バンパ先端からロアーリンク後端まで)	
機体寸法	全幅(mm)	1375(輪距1190mmのときの外幅)	1440(輪距1250mmのときの外幅)
機体寸法	全高(mm)	2250	2400
機体寸法	軸距(mm)	1435	
機体寸法	輪距 前輪(mm)	※1　1100～1500	※1　1200～1600
機体寸法	輪距 後輪(mm)	※1　1100～1500	※1　1200～1600
機体寸法	最低地上高(mm)	※2　600	※2　750
質量(kg)		※3-1　930	※3-2　1024
エンジン	機関型式	クボタD905	
エンジン	形式	水冷４サイクル３気筒立形ディーゼル(E-TVCS)	
エンジン	総排気量(L(cc))	0. 898(898)	
エンジン	出力/回転速度 kW/rpm(PS/rpm)	11.8 / 2600 (16 / 2600)	
エンジン	使用燃料	ディーゼル軽油	
エンジン	燃料タンク容量(L)	20	
エンジン	始動方式	セルモータ式	
エンジン	バッテリ	50B24L-MF	
タイヤ	前輪	130/90-21AG	
タイヤ	後輪	130/90-21AG	
車体	クラッチ方式	乾式単板（シングル）	
車体	制動装置	一系統湿式ディスクブレーキ(機械式)	
車体	かじ取り方式	全油圧パワーステアリング・４モード切換式	
車体	差動方式	２ピニオンかさ歯車式(デフロック付)	
車体	変速方式	常時かみ合式併用　油圧無段変速併用	
変速	変速段数	前・後進無段	
変速	副変速	２段	
走行速度(km/h)	前進	0～12.5	
走行速度(km/h)	後進	0～5.4	
最小旋回半径(m)		2.1(輪距1190mmのとき)	2.1(輪距1200mmのとき)
PTO	回転速度/エンジン回転速度 rpm	低：549 / 2600 高：981 / 2600	
PTO	軸寸法(mm)	JIS35	
作業昇降装置	制御方式	ポジションコントロール	
作業昇降装置	装着方式	Aフレーム４P式(緊プロ規格)	

※１：対応可能条間を示す。
※２：有効クリアランスを示す。(ステップ，ミッションケース中央下部を除く)
※３-１：フロントウエイト50kg付き
※３-２：フロントウエイト75kg付き
※この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

■走行速度表

(km/h)

副変速レバー	主変速レバー	
	前進	後進
作業	0～3.8	0～1.9
走行	0～12.5	0～5.4

■PTO回転速度表

標準付属品

品　　名	数量/台	備　　考	品　　名	数量/台	備　　考
10−12スパナ	1		ヒューズ	各1	10アンペア,15アンペア,20アンペア(ヒューズボックスの中にある)
14−17スパナ	1				
19−22スパナ	1		メインスイッチキーアッシ	1	
24−27スパナ	1		取扱説明書	1	
プライヤ	1		保証書	1	

主な消耗部品一覧表(純正部品を使いましょう)

エアクリーナ
エレメント
(シングルエレメント)
1
F-9401

エンジンオイルフィルタ
カートリッジ
7
F-4756

エアクリーナ
エレメント
(ダブルエレメント)
【オプション】
2 1
F-10177A

ヒューズ
8・9・10
F-4757

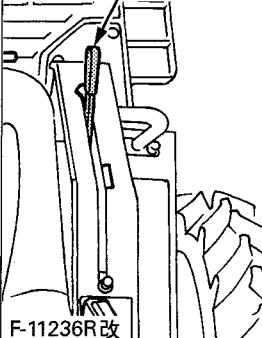
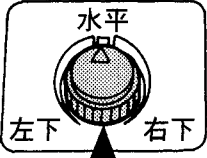
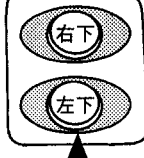
スローブローヒューズ
11
F-5849

燃料フィルタ
3
4(エレメント)
F-5272

電球
12(ヘッドライト)
・
13(方向指示ランプ)
F-4759

油圧(ミッション)
オイルフィルタカートリッジ
6
5
F-5273改
F-4756

イージーチェッカ用ランプ
バッテリチャージ，グロー
エンジンオイル ― 14
照明 ― 15
方向指示器 ― 16
14・15・16
F-5086

図番	品　　　名	品　番	図番	品　　　名	品　番
1	エレメントアッシ	6A100-8263-0	9	ヒューズ(20A, オート)	5H050-4164-0
2	エレメント(インナー)	32721-5824-2	10	ヒューズ(15A, オート)	5H050-4163-0
3	フィルタ，アッシ(フューエル)	15531-4301-0	11	スローブローヒューズ	17478-6008-0
4	エレメント，アッシ	15231-4356-3	12	バルブ(12V23W)	31391-3436-0
5	油圧オイルフィルタカートリッジ	6A100-3901-2	13	バルブ(12V20W)	37410-5272-0
6	油圧ミッションオイルフィルタカートリッジ	66021-3606-0	14	ランプアッシ(14V, 2W)	6A100-8202-0
7	フィルタ, アッシ(オイル, カートリッジ)	16271-3209-2	15	ランプアッシ(14V, 3.4W)	66101-5577-0
8	ヒューズ(10A, オート)	5H050-4162-0	16	ランプバルブ(14V, 2W)	6A100-8223-0

インプルメント一覧表（純正インプルメントを使いましょう）

品　番	品　名	形　式	メーカ	装着方式	GR16-60	GR16-75	備　考
J1660-00027	3連ロータリカルチ	CA-3A	井関	4PSJ	○	－	緊プロ機
J1451-00004	ブームスプレーヤ	BS-400KP	有光	4PSJ	○	－	緊，400L，10m
J1330-00053	専用ヒッチ	GH17	矢崎	4PSJ	○	－	
J1330-00073	専用ヒッチ	GH17A	矢崎	4PSJ		○	
74832-26010	目皿播種機	TDR-2	矢崎	GH17(A)	○	○	播種２条，大豆
74832-26020	目皿播種機	TDR-3	矢崎	GH17(A)	○	○	播種３条，大豆
74832-26160	施肥播種機	TFR-2	矢崎	GH17(A)	○	○	２条用施肥播種
74832-26170	施肥播種機	TFR-3	矢崎	GH17(A)	○	○	３条用施肥播種
J1660-00024	３連フルカットロータリ	KTR3-C	関東	4PSJ	○	－	フルカット付き
J0560-00003	２連中耕ロータリ	CF210L	小橋	標準3P	○	○	
J0560-00004	２連中耕ロータリ	CF210LS	小橋	標準3P	○	○	施肥機付き
J0560-00005	２連中耕ロータリ	CF210LK	小橋	4PSP	○	－	
J0560-00016	２連中耕ロータリ	CF213K	小橋	4PSP		○	
J0560-00007	３連中耕ロータリ	CF302H	小橋	標準3P	○	○	ハイヒッチ
J0560-00008	３連中耕ロータリ	CF302HS	小橋	標準3P	○	○	施肥機付き
J0560-00009	３連中耕ロータリ	CF310K	小橋	4PSJ	○	－	
J0560-00017	３連中耕ロータリ	CF313K	小橋	4PSJ		○	
J1660-00015	２連ロータリカルチ	RM212HK	松山	標準3P	○	○	
J1660-00016	２連ロータリカルチ	RM212HKA	松山	4PSJ	○	－	
J1660-00033	２連ロータリカルチ	RM213HKA	松山	4PSJ		○	
J1660-00017	３連ロータリカルチ	RM312HK	松山	標準3P	○	○	
J1660-00025	３連ロータリカルチ	RM312HKA	松山	4PSJ	○	－	
	３連ロータリカルチ	RM312HKAV	松山	4PSJ	○		
J1660-00034	３連ロータリカルチ	RM313HKA	松山	4PSJ		○	
	３連ロータリカルチ	RM313HKAV	松山	4PSJ		○	
J1570-00007	掘取機	BL-55D-GR	松山	標準3P	○	－	松43470-00000
J1570-00008	掘取機	BL-65D-GR	松山	標準3P	○	－	松43480-00000
J1570-00009	掘取機	BL-80D-GR	松山	標準3P	○	－	松43490-00000
J1450-00081	ブームスプレーヤ	KBM-400	丸山	4PSJ	○	－	400L，10m，JP付
J1451-00014	ブームスプレーヤ	KBM-410	丸山	4PSJ		○	400L，10m，JP付，ハイクリ
J1451-00015	ブームスプレーヤ	KBM-410D	丸山	4PSJ		○	同上仕様+速度連動
J1430-00005	粒剤散布装置	KG-4R	丸山	4PSJ	○	○	120L，１～70kg/10a
J1620-00001	ディスク付3畦リッジャー	TDR-300GR	鋤柄	4P	○	－	
J1640-00001	3畦施肥カルチ	GRMR-3RS	鋤柄	4P	○	－	1ホッパー付
J1110-00268	施肥装置 (1ホッパー)…3本ホース	G-RS50AR	鋤柄	□50ツールバー	○	○	□50ツールバーはロプスにピンで装着可能。GR16用ロータリカルチ全形式に対応
J1110-00269	施肥装置 (2ホッパー)…６本ホース	G-RS100AR	鋤柄	□50ツールバー	○	○	
J1110-00270	施肥装置 (1ホッパー)…６本ホース	G-RS50AR6	鋤柄	□50ツールバー	○	○	
J0570-00002	ウネセイケイセット (水田高畝対応)	RMO-HTL2	松山	※１	○	○	RMO-H…１ユニット RMO-TL2…2ユニット
J0570-00003	平高畝部品 (高畝の中央部用)	RMO-H	松山	※１	○	○	１ユニット分
J0570-00004	外盛整形板 (溝の整形用)	RMO-TL2	松山	※２	○	○	１ユニット分
J0570-00005	野菜カバー部品	RMO-Y	松山		○	○	１ユニット分
J0570-00001	麦土入れ部品	RMO-M	松山		○	○	２ユニット分
J1430-00001	吊り下げノズル	HN9	丸山	KBM-400(D) KBM-410(D)	○	○	１台分，ノズル９本 条間60～75㎝
95310-47000	キャノピ		ｼﾞｮﾆｼ		○	○	
95310-46000	GR16-3　ホロキャビン		ｼﾞｮﾆｼ		○	○	

※１：RM312HKA, RM312HKAV, RM313HKA, RM313HKAV

※２：RM212HKA, RM213HKA, RM312HKA, RM312HKAV, RM313HKA, RM313HKAV

作業ごとの一般的な調整要領

作業内容			油圧レバー F-11236R改	水平切換 ◎傾斜地 ◎水平 切換 F-12312E 水平切換スイッチ	角度調節 水平 左下 右下 F-12312F 角度調整ダイヤル	手動 右下 左下 F-12312G 手動スイッチ
ポジションコントロール	中耕作業※1	畑	希望耕深になるように調整(最下げ位置)	―	―	―
		水田転作				
	防除作業	畑転作	指示位置で固定			
モンローマチック	中耕作業※2	水田転作	―	水平	水平	一時的に角度を調整
		畑		水平 傾斜地		
	防除作業			切	―	車軸と平行にする

※1中耕作業の場合

(1)通常はポジションコントロールを使用せず，油圧レバーを最下げの位置で使用し，耕深はロータリ側で調節します。(ゲージ輪・培土機)

(2)軟弱時にロータリ側で調節できない場合は，ポジションコントロールを使用し，油圧レバーの操作で希望耕深になるように調節します。

※2中耕作業の場合

(1)通常はモンローマチックを**“切”(手動)**で，ロータリを本機と水平方向に平行とした状態で作業する方がうまくできます。
(ロータリが水平でも本機が傾くと，ロータリが条間の中心に合わなくなる)

(2)上記の心配がなく，水平の方が良い場合にモンローマチックを使用します。

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点はまず，購入先へ　ご相談ください

おぼえのため，記入されると便利です

購入先名		担当	電話（　　）　ー
ご購入日	型式名		区分
車台番号(製造番号)		エンジン型式	エンジン番号

万一ご購入先でご不明の点がございましたら，下記にお問合わせください。

クボタ機械サービス株式会社

部署	電話	〒	住所
北海道営業技術推進部	電(011)662-2121	〒063-0061	札幌市西区西町北16丁目１番１号
秋田営業技術推進部	電(018)845-1644	〒011-0901	秋田市寺内字大小路207-54
仙台営業技術推進部	電(022)384-5162	〒981-1221	名取市田高字原182番地の１
東京営業技術推進部	電(048)862-1588	〒338-0832	さいたま市桜区西堀５丁目２番36号
新潟営業技術推進部	電(025)285-1261	〒950-0992	新潟市中央区上所上１丁目14番15号
金沢営業技術推進部	電(076)275-1121	〒924-0038	白山市下柏野町956-１
名古屋営業技術推進部	電(0586)24-5111	〒491-0031	一宮市観音町１番地の１
大阪営業技術推進部	電(06)6470-5860	〒661-8567	尼崎市浜１丁目１番１号
岡山営業技術推進部	電(086)279-4511	〒703-8216	岡山市宍甘275番地
米子営業技術推進部	電(0859)39-3181	〒689-3547	米子市流通町430-12
株式会社四国クボタ 営業技術課	電(087)874-8500	〒769-0102	香川県高松市国分寺町国分字向647-３
福岡営業技術推進部	電(092)606-3725	〒811-0213	福岡市東区和白丘１丁目７番３号
熊本営業技術推進部	電(096)357-6181	〒861-4147	熊本県下益城郡富合町大字廻江846-１
本社営業技術部	電(072)241-7247	〒590-0823	堺市堺区石津北町64番地

株式会社クボタ

部署	電話	〒	住所
機械札幌事務所	電(011)662-2121	〒063-0061	札幌市西区西町北16丁目１番１号
機械東日本事務所	電(048)862-1121	〒338-0832	さいたま市桜区西堀５丁目２番36号
機械西日本事務所	電(06)6470-5970	〒661-8567	尼崎市浜１丁目１番１号
機械福岡事務所	電(092)606-3161	〒811-0213	福岡市東区和白丘１丁目７番３号

GR16-60, GR16-75
AM．I．4－4．1．AK

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者
が一体となって安全宣言を行うための統一マークです。

株式会社クボタ

本　社　　大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号　　〒556-8601

品番 KY210-6251-2